山形県埋蔵文化財センター調査報告書第67集

大樽遺跡

発掘調査報告書

1999

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

大樽（おおたる）遺跡

発掘調査報告書

平成11年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した大樽遺跡の調査成果をまとめたものです。

大樽遺跡は山形県の南部に位置する米沢市に所在します。米沢市は、東部に奥羽山脈、南部に吾妻山地の雄大な山々を臨み、西部には玉庭丘陵が広る自然豊かな土地です。過去に伊達氏や上杉氏といった戦国武将の城下町で、現在も周辺地域の中核的な都市として機能しています。

この度、一般県道綱木西米沢停車場線道路改良工事に伴い、工事に先立って大樽遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、縄文時代早期から後期にかけての遺構と遺物、および中世の堀跡の一部や井戸跡などが発見されました。当地の歴史を知る上で貴重な資料を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成11年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　　木　場　清　耕

例　言

1　本書は一般県道綱木西米沢停車場線道路改良工事に係わる「大樽遺跡」の発掘調査報告書である。

2　調査は山形県土木部の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査要項は下記のとおりである。

遺　跡　名	大樽遺跡（ＤＹＺＯＴ）　県遺跡番号　１２０８	
所　在　地	山形県米沢市舘山四丁目（通称四ノ坂）	
調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター	
受託期間	平成10年４月１日～平成11年３月31日	
調査期間	平成10年９月７日～平成10年11月13日	
調査担当者	調査第二課長	野尻　侃
	主任調査研究員	尾形　與典
	調査研究員	黒坂　雅人
	調査員	國井　修

4　発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県土木部米沢建設事務所道路計画課、東南置賜教育事務所、米沢市教育委員会など関係機関の協力を得た。また調査にあたっては手塚孝・月山隆弘（米沢市教育委員会文化課）の両氏からご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げる。

5　本書の作成・執筆は、主に國井修が担当し、黒坂雅人がこれを補佐した。編集は、須賀井新人、尾形與典、長瀬えみ子が担当し、全体については野尻　侃が監修した。

6　委託業務は下記の通りである。

遺物実測（打製石器）　株式会社シン技術コンサル

7　出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次の通りである。

ＳＫ…土坑・墓壙　ＳＤ…溝跡・堀跡　ＳＥ…井戸跡　ＳＸ…性格不明遺構
ＳＭ…集石遺構　ＳＰ…不明ピット　ＥＵ…埋設土器
ＲＰ…登録土器　ＲＱ…登録石器
Ｐ…土器　Ｓ…石

2　遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。

3　報告書執筆基準は下記の通りである。

（１）　遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。

（２）　グリッドの南北軸は、Ｎ－28°－Ｅを測る。

（３）　遺構実測図は１/20～１/100他の縮図で採録し、各々スケールを付した。なお実測図中の●は土器の出土地点を、▲は石器の出土地点を表す。

（４）　遺物実測図・拓影図は、1/2、1/3、1/4で採録し、各々スケールを付した。なお実測図中のスクリーントーンは、土器の場合は炭化物の付着を、礫石器の場合は磨面を表す。

（５）　遺物観察表中の計測値欄（　）内の数値は図上復元による推定値、または残存値を示す。出土地点欄の層位では「Ｆ」は遺構覆土内出土、「Ｙ」は遺構底面出土を各示し、ローマ数字「Ⅰ～Ⅳ」等は遺構を覆う土層（基本層序）を表している。

（６）　遺物図版については、原則的に1/2、1/3、1/4、1/6他の縮尺で採録している。

（７）　遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版ともに共通したものである。遺構挿図中に図示している遺物も同様である。また、本文中では、（　）で示している。

（８）　遺構覆土の色調の記載については、1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　1　調査に至る経過……1
　2　調査の方法と経過……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境
　1　地理的環境……6
　2　歴史的環境……6
Ⅲ　遺跡の概観
　1　遺跡の層序……8
　2　遺構の分布……8
　3　遺物の分布……8
Ⅳ　検出された遺構
　1　土坑……10
　3　性格不明遺構……11
　4　集石……12
　5　埋設土器……12
　6　墓壙……12
　7　井戸跡……12
　8　堀跡……12
Ⅳ　出土した遺物
　1　縄文土器……25
　2　土偶・土製品……29
　3　その他の土器……29
　4　打製石器……46
　5　磨製石器・礫石器……46
　6　中世以降の石製品……65
Ⅴ　まとめ……67

参考文献……69

報告書抄録……70

表

表１　調査工程表……5
表２　遺構観察表（１）……17
表３　遺構観察表（２）……18
表４　遺構観察表（３）……19
表５　遺構観察表（４）……20
表６　遺構観察表（５）……21
表７　遺構観察表（６）……22
表８　遺構観察表（７）……23
表９　遺構観察表（８）……24
表10　縄文土器観察表（１）……42
表11　縄文土器観察表（２）……43
表12　縄文土器観察表（３）……44
表13　縄文土器観察表（４）……45
表14　土器観察表……45
表15　打製石器計測表……65
表16　磨製・礫石器観察表……66

挿　図

第１図　調査概要図……2
第２図　グリッド設定図……3
第３図　遺跡位置図……7
第４図　土層柱状図……9
第５図　ＳＫ418・344・299・439・276
土坑……13
第６図　ＳＫ123・437・144・320土坑……14
第７図　ＳＫ161・166・181土坑・
ＥＵ261埋設土器・
ＳＫ16・51墓壙・ＳＥ15井戸……15
第８図　ＳＸ149・151・303性格不明遺構・
ＳＭ421・422・423集石遺構……16
第９図　第Ⅰ群土器（１）……30
第10図　第Ⅰ群土器（２）・第Ⅱ群土器・
第Ⅲ群土器……31
第11図　第Ⅳ群土器（１）……32
第12図　第Ⅳ群土器（２）……33
第13図　第Ⅴ群土器・
第Ⅵ群土器（１）……34
第14図　第Ⅵ群土器（２）……35
第15図　第Ⅵ群土器（３）……36
第16図　第Ⅵ群土器（４）・第Ⅶ群土器・
Ⅷ群土器（１）……37
第17図　第Ⅷ群土器（２）……38
第18図　第Ⅷ群土器（３）……39
第19図　第Ⅷ群土器（４）……40
第20図　第Ⅷ群土器（５）・土偶・土製品・
その他の土器……41
第21図　打製石器（１）……48
第22図　打製石器（２）……49
第23図　打製石器（３）……50
第24図　磨製石斧・磨石（１）……51
第25図　磨石（２）……52
第26図　磨石（３）……53
第27図　磨石（４）……54
第28図　磨石（５）……55
第29図　磨石（６）……56
第30図　磨石（７）……57
第31図　凹石（１）……58
第32図　凹石（２）……59
第33図　凹石（３）……60
第34図　石皿（１）……61
第35図　石皿（２）……62
第36図　石棒・石製装飾品・
円盤状石製品……63
第37図　温石・砥石・五輪塔風空輪……64

図　版

図版１　調査区全景・調査風景・Ａ～Ｃ区完掘状況
図版２　Ｄ～Ｊ区完掘状況
図版３　ＳＫ418、299、276、144完掘状況・ＳＫ439、437半截状況・ＲＰ21出土状況・ＳＰ338遺物出土状況
図版４　ＳＫ123土層断面および完掘状況・ＳＫ166、161半截状況・ＳＫ320完掘状況・ＳＫ181精査状況・ＲＰ10、14出土状況
図版５　ＳＫ149、ＳＸ151、ＳＤ417完掘状況・ＳＸ303、ＳＥ15精査状況・ＥＵ261、ＳＫ51、16半截状況・ＲＰ22出土状況
図版６　第Ⅰ群土器
図版７　第Ⅱ群土器・第Ⅳ群土器①
図版８　第Ⅲ群土器・第Ⅳ群土器②
図版９　第Ⅳ群土器③
図版10　第Ⅳ群土器④・第Ⅴ群土器
図版11　第Ⅵ群土器①
図版12　第Ⅵ群土器②
図版13　第Ⅵ群土器③・第Ⅶ群土器・第Ⅷ群土器①
図版14　第Ⅷ群土器②
図版15　第Ⅷ群土器③
図版16　打製石器①
図版17　打製石器②
図版18　打製石器③
図版19　打製石器④・磨製石斧
図版20　磨石①
図版21　磨石②
図版22　磨石③
図版23　磨石④・凹石①
図版24　凹石②・石皿①
図版25　石皿②・石棒
図版26　石製装飾品・円盤状石製品・温石・砥石・五輪塔風空輪・とりべ

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

大樽遺跡は米沢市の南西部、舘山地区に所在する。舘山地区では、平成８年度より新ふるさと整備事業が進められており、それに係り本遺跡を南北に縦貫している一般県道綱木西米沢停車場線の道路改良工事が実施されることとなった。これまで家屋移転等に係り米沢市教育委員会により数回にわたり発掘調査が行われ、縄文時代後期初頭の集落跡が検出されるなどの調査成果があげられている。それらの調査成果から、工事実施区域についても遺跡が保存されていることが予想されたため、平成９年度に山形県教育庁文化財課により試掘調査が行われ、工事実施区域内にも遺跡が保存されていることが確認された。これをふまえて関係機関で埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、工事に先立ち発掘調査を実施して記録保存することとなった。調査は、山形県土木部の委託をうけて財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施することとなった。

調査計画策定のため、平成10年２月３日に現地の確認を行い、調査における問題点の抽出をした。その後、現地調査に先立ち調査担当者による調査対象地域の現状の確認、事業者である山形県土木部米沢建設事務所道路計画課、地元教育委員会である米沢市教育委員会との打ち合わせを平成10年８月６日、同８月14日、同８月28日に行った。

その結果、調査期間の一部の期間について通行止め等の安全措置、工事実施部分の家屋移転にあわせた調査の実施、電柱・流雪溝・現道両側の石垣部分の調査区からの除外といった計画の策定をし、平成10年９月７日より現地調査にあたった。

2　調査の方法と経過

事前の計画に従い、調査予定地内にＡ区～Ｊ区までの10の調査区（第１図・第２図）を設定し、家屋の移転に併せて調査を進めた。また通行止め期間の関係から、現状の道路に隣接する部分の調査を優先させた（第１表）。

最初に重機で表土部分を除去し、次いで人力で遺構検出面まで掘り下げた。重機により表土を除去する深さは、前年度の試掘調査の結果にしたがっている。ただ調査区の状況によっては重機を稼動させる前に試掘坑を設定し、人力で遺構検出面まで掘り下げ、深さを確認してから重機を導入した。遺構を検出した段階で遺構配置図を作成し、その後、土層観察用ベルトを残し移植べら等の道具を使って、遺構精査を行った。必要に応じて記録を取り、その後土層観察用ベルトをはずした。写真等の記録は上記の調査工程と並行して実施している。なお、付近住民の交通の便を図るため、調査の終了した調査区より必要に応じて道路の仮復旧等の措置をとった。また、事故防止のため必要な部分について防護柵を設置した。各調査区の調査状況は以下の通りである。

Ａ区：調査区の一部には水道管・土管等により攪乱を受けていた。地山は南半で砂礫層となる。遺物包含層は認められなかった。

B区：調査区内のブロック塀は、撤去が不可能であったため、残したまま調査を実施した。ブロック塀に沿って、使用中の水道管が埋設されていた。またＢ２区南部は地山まで削平を受けていた。

C区：電線等の関係から、道路に隣接しているＣ１区を最初に調査を実施し、埋め戻した後、Ｃ２区の調査を実施した。Ｃ１区の東壁で土層を確認したところ、当初削平を受けていると予想された部分(道路の下部)は破壊を免れていることが確認された。

D区：調査区の大半が攪乱を受けていたが、Ｄ２区では、遺物包含層が残っていた。

E区：削平を受けていた。

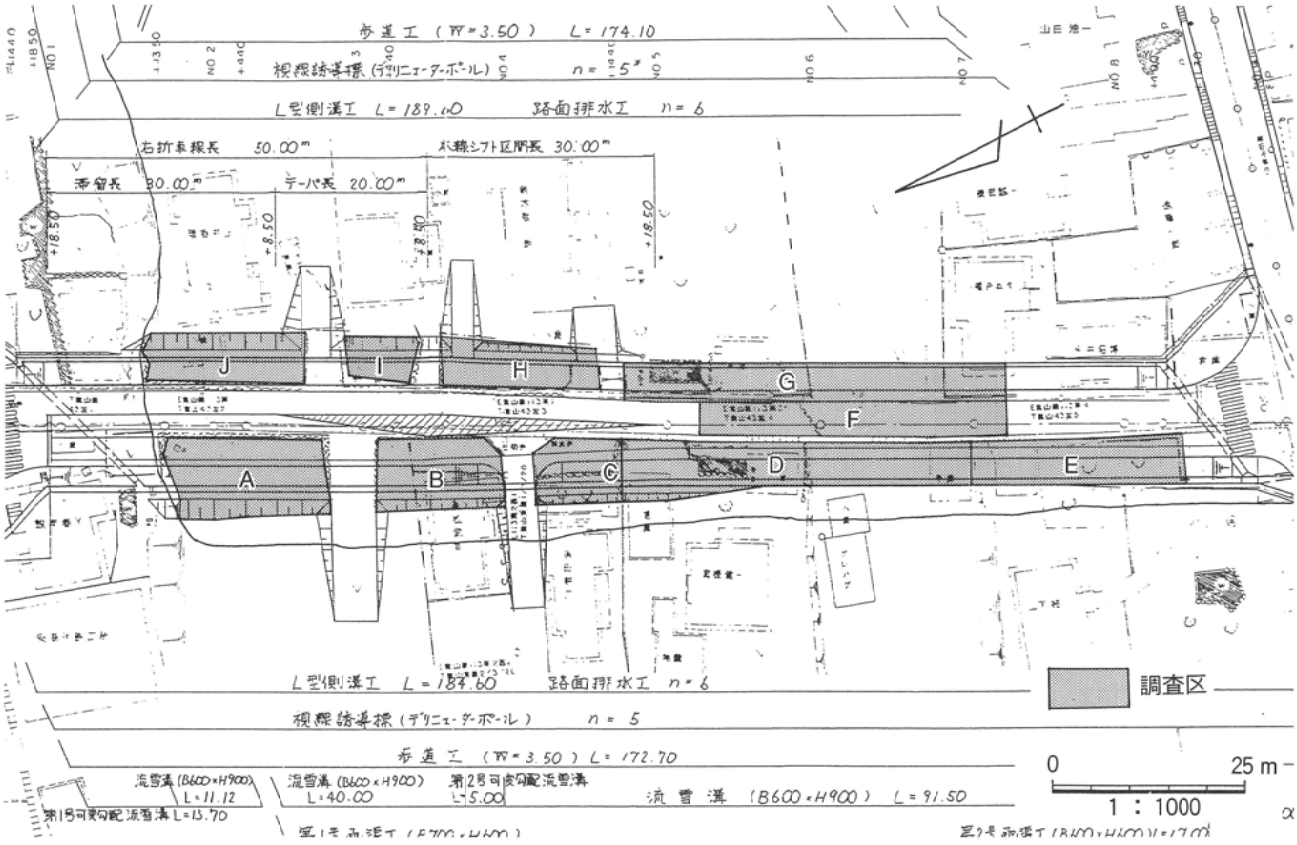
F区：現状の道路部分である。水道管・下水道管・ＮＴＴ通信ケーブル等の埋設物により遺跡の大部分が破壊されていることが確認され、それらの埋設物が現在も使用中であることから調査の必要な部分に関しても期間内に調査を行うことは不可能と判断されたため、協議の結果、工事の際に改めて立会い調査を行うことになった。

G区：Ｇ１区南側は削平を受けていた。試掘調査では、良好な遺物包含層が予想されたが、今回の調査では遺物の出土は微量であった。

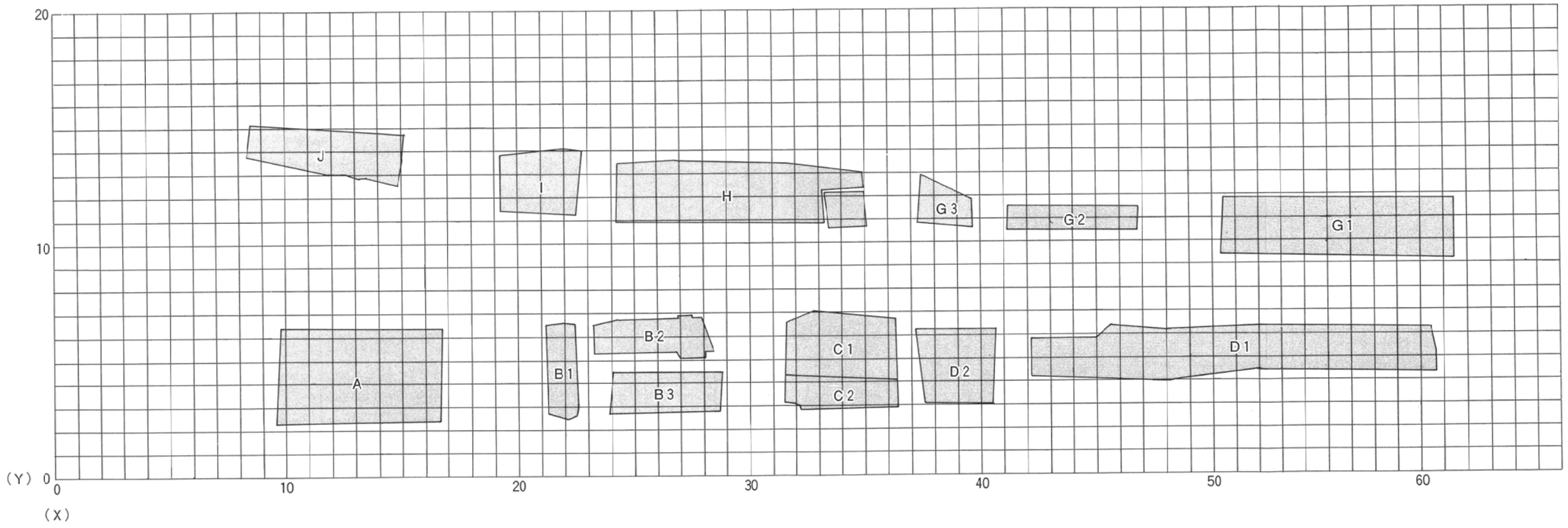
H区：遺物の出土量が最も多かったが、その大半は二次堆積によるものである。

I区：近代以降の時期と推定される石組遺構が検出された。

J区：大半が攪乱を受けていた。中世と推定される堀跡の一部が検出された。



第１図　調査概要図



調査区

0　10 m
1 : 200

第２図　グリッド設定図

表１　調査工程表

月	9月															10月																					11月							
週	1週					2週			3週				4週					5週					6週				7週					8週					9週			10週				
日	7	8	9	10	11	16	17	18	21	22	24	25	28	29	30	1	2	5	6	7	8	9	12	13	14	15	19	20	21	22	23	26	27	28	29	30	4	5	6	9	10	11	12	13
器材搬入	■																																											
重機稼動			■	■	■		■	■	■										■	■	■			■	■	■																		
粗掘		■															■																											
面整理			■	■	■		■										■			■	■	■		■			■													■				
A区精査												■	■	■	■												■						■	■										
B１区精査											■	■	■	■				■	■																									
B２区精査										■	■	■		■				■	■																									
B３区精査											■	■		■	■		■	■																		■								
C１区精査								■	■	■		■	■				■		■	■																								
C２区精査																													■	■		■	■			■								
D１区精査																										■																		
D２区精査																																								■	■	■	■	
E区精査																																												
F区精査																																												
G１区精査										■	■																																	
G２区精査																							■	■							■	■	■	■										
G３区精査																							■	■																				
H区精査																						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						■	■			
I区精査														■	■		■	■										■			■	■	■		■	■								
J区精査																													■	■	■													
記録	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■
調査説明会																																					■							
撤収準備																																					■	■					■	■
器材撤収																																												■

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

大樽遺跡の所在する米沢市は山形県の南西部、米沢盆地の南部に位置する。東に奥羽山脈、南に吾妻山地、西に玉庭丘陵の山々に囲まれており、ほぼ中央部を最上川が北流し、その支流、天王川、羽黒川、鬼面川及び黒川等により形成された扇状地群が広がっている。
市域のほぼ四分の三が山地で占められており、平坦地は先にあげた扇状地群と河川沿いに見られる河岸段丘等の河谷平野に発達している。

本遺跡の周辺は、吾妻山地の北麓に位置しており、付近の山地には地すべり性緩斜面が非常に多く分布している。遺跡西側には吾妻山地に源を発する鬼面川、大樽川等の河川が北流している。これらの河川沿いに発達している河谷平野は、大樽川・小樽川河谷台地・低地に区分され、米沢盆地南西辺まで広がっている。これらの平坦地には数多くの遺跡が立地しており（第３図）、本遺跡も鬼面川と大樽川の合流地点に形成された河岸段丘上に立地し、標高は約274mを測る。また本遺跡の東方には国指定史跡である「一ノ坂遺跡」が所在する。

2　歴史的環境

前節でも述べたように、本遺跡の周辺の平坦地、特に吾妻山地北麓には、数多くの遺跡が立地している。これまでに米沢市教育委員会により、「大樽遺跡」（1988・1997・1998）［（）内は調査年、以下同じ］のほかに「生連寺遺跡」（1986・1993・1994）、大樽川上流部では「塔之原遺跡」（1991）「小野川ｃ遺跡」（1991）の調査が実施されている。そのほかにも大樽川沿いには約30の遺跡が確認されている（第３図）。これらの遺跡のほとんどは縄文時代の遺跡である。また舘山という地名が示すように、中世の城館跡が多数確認されており、縄文時代に次いで数が多い。本遺跡の南西部に位置する「舘山城」は米沢市内で最大級の山城であり、伊達輝宗の隠居所である可能性も指摘されている。

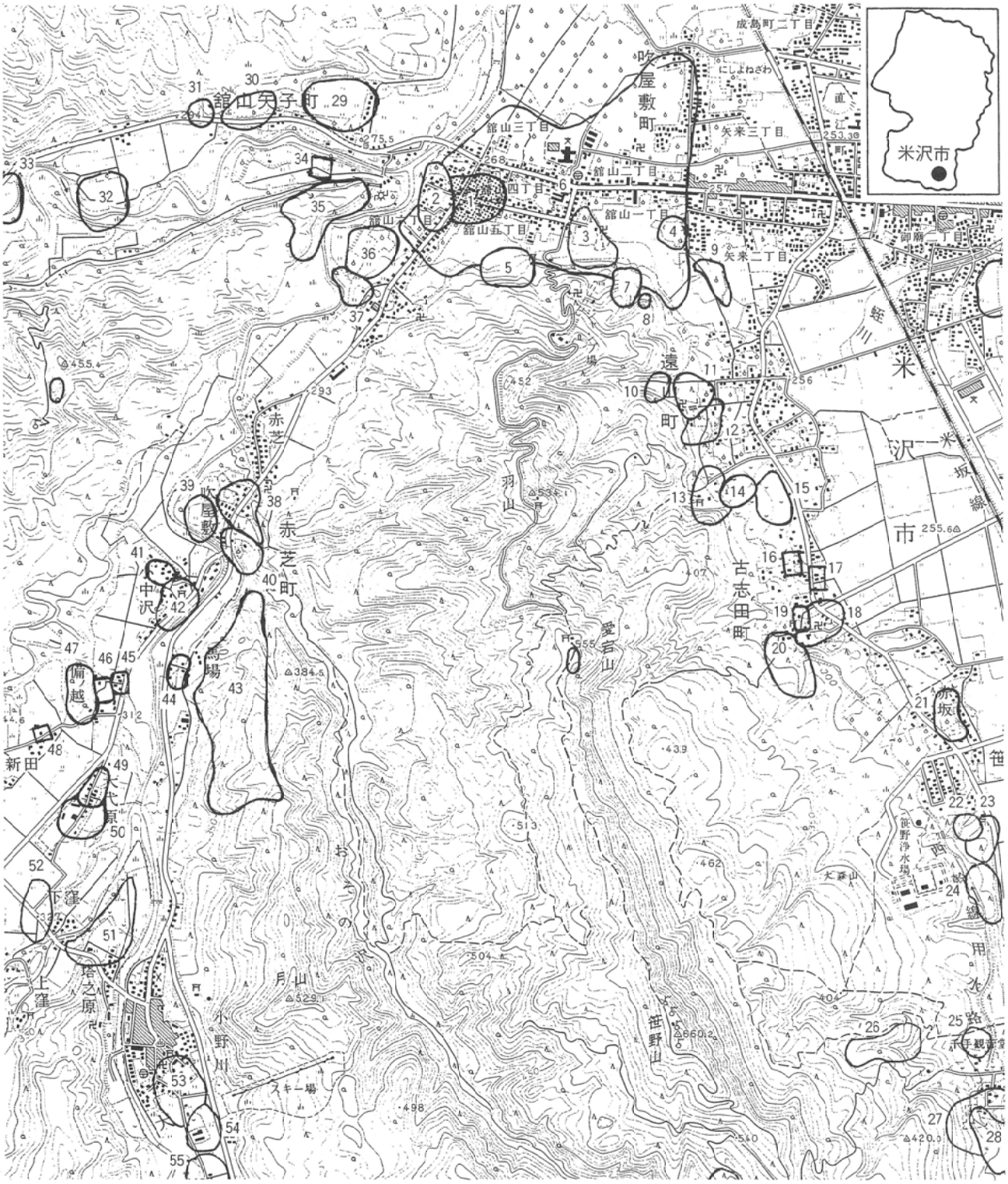
本遺跡を含めた周辺の遺跡のこれまでの調査成果の概要は以下の通りである。

大樽遺跡： 早期中葉（田戸上層式併行）・前期（大木１式併行、大木３・４・５式併行）・中期中葉（大木８ａ・８ｂ式併行）・後期（堀之内Ⅰ式併行・加曽利Ｂ式併行）・晩期（大洞Ｃ´式併行）の遺物が出土している。

生連寺遺跡： 縄文時代前期初頭・中世の遺構・遺物が確認されている。

塔之原遺跡： 前期初頭（上川名Ⅰ式併行）・前期末葉（大木５式併行）・中期末葉（大木10式併行）の遺構・遺物が検出されており、興津式に類似した土器が出土している。

小野川ｃ遺跡： 前期初頭（上川名Ⅱ式併行）・後期前葉（堀之内式併行）の遺構・遺物が検出されており、近隣の小野川ａ・ｂ遺跡を含め、縄文時代早期～後期にわたる複合遺跡として位置付けられる。



1:大樽　2:舘山ｃ　3:生蓮寺　4:舘山ｂ　5:舘山公園　6:舘山平城　7:舘山ａ　8:舘山窯跡　9:一ノ坂　10:覚範寺廃寺跡
11:北沢　12:西明寺　13:地蔵園　14:赤芝館　15:遠山　16:大在家館　17:古志田館ノ内館Ｂ　18:舘山ｂ　19:古志田館ノ内館Ａ
20:古志田　21:笹野町赤坂館　22:八方屋道北館　23:笹野町　24:古志田館　25:笹野観音堂西　26:館ノ内ｃ　27:大塚山
28:笹野館ノ内館ａ　29:舘山矢子町　30:矢子　31:口田沢ｂ　32:口田沢ａ　33:潜清水　34:舘山城北館　35:舘山城　36:舘山ｄ
37:舘山ｅ　38:龍性院　39:観音橋　40:吹屋敷　41:角屋敷　42:宝殿神社　43:赤芝館　44:馬場館　45:備越館　46:土手内館
47:備越西館　48:背戸館　49:化物屋敷　50:大代原　51:塔之原　52:下窪　53:小野川ｄ　54:小野川ｃ　55:小野川ａ

第３図　遺跡位置図（Ｓ＝１：25,000）

Ⅲ　遺跡の概観

1　遺跡の層序

大樽遺跡の基本層序はおおよそ５層に区分できる(第４図)。Ⅰ層は黒色ないし黒褐色シルト層で、土中に草木根やところによっては多量の礫を含む。Ｃ２区やＪ区では現代の整地層として認識される。Ⅱ層は黒色シルト層でⅠ層と比べてやや赤みがかる。砂礫の混入が多くなるが一部均質なところもある。Ⅲ層は黒色シルト層で遺物包含層である。Ｄ２区、Ｇ１区、Ｈ区では安定した様相を呈するが道路付近では攪乱を受けている。Ｇ１区が最も厚く堆積しており、次いでＤ２区、Ｈ区の順になる。今回の調査区の外側により良好に遺存していることが予想される。Ⅳ層は黒褐色シルト層で、Ｇ１区でのみ観察される。均質で硬くしまっている。Ｖａ層は褐色ないし明黄褐色シルト層で、Ｖｂ層(地山)との漸移層である。Ｖｂ層は黄褐色ないし褐色を呈する。Ｖｂ層上面が遺構検出面である。Ｖｂ層の土質はおおよそ３つの様相を呈し、段丘の末端にあたるＡ区、Ｊ区では、砂礫が大勢を占め、段丘の中央にはいっていくにつれ、シルトの割合が多くなり、Ｄ１区やＧ１区では安定したシルト層になる。

Ｇ１区においては、南側で一段高い段丘面が形成されることが確認された。Ｅ区とＤ１区の間に表土除去の前段階でやや段差があることが観察され、加えてＧ１区のより高い面と、Ｅ区においては地山面まで削平されていたことから、過去においては、段丘面の比高はより大きかったことが推測し得る。

2　遺構の分布

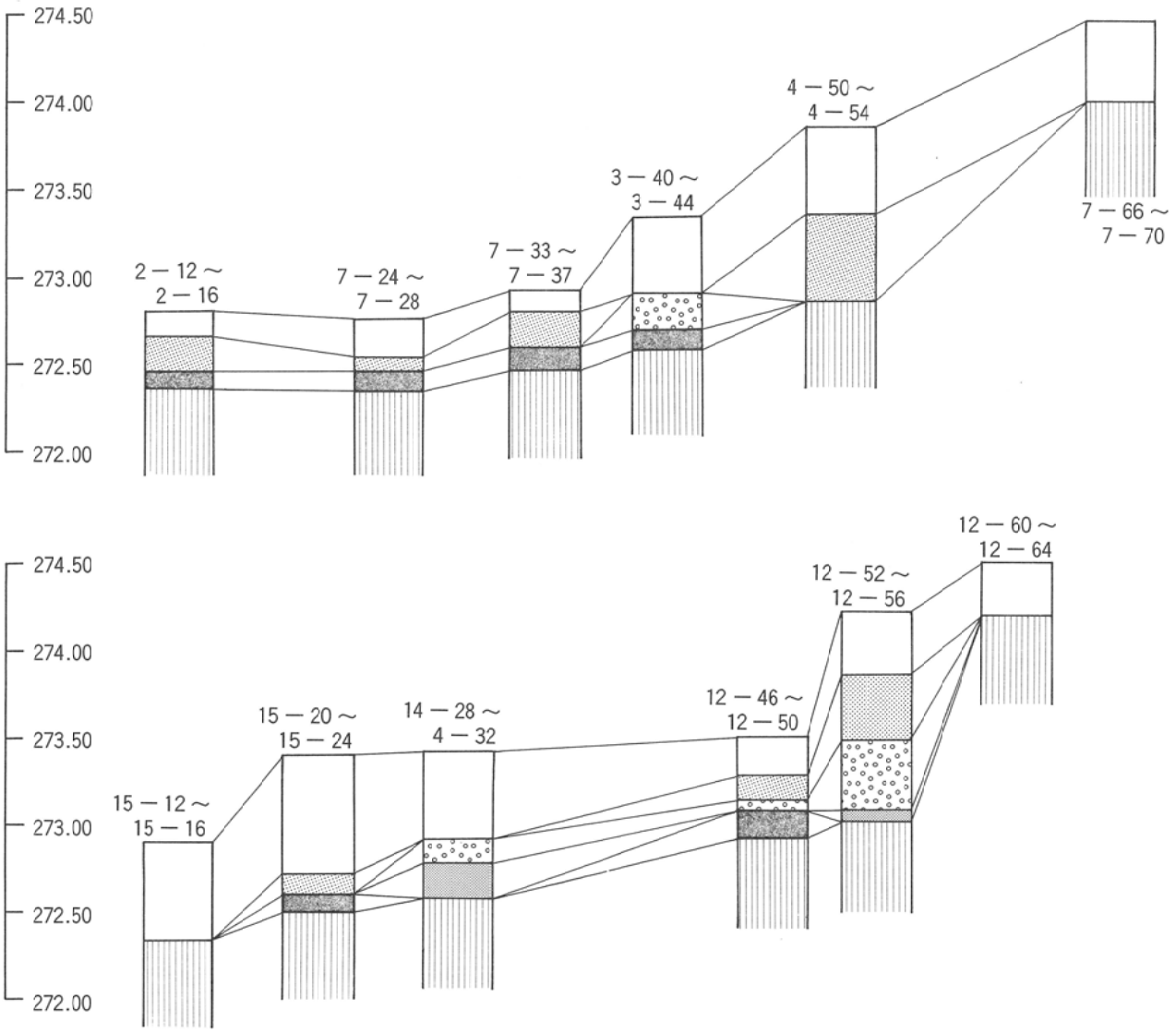
今回の調査で検出された遺構は登録数にして、463を数える。遺物の出土状況および埋土の様相から、その大半が近代以降に構築されたものと推測し得る。遺構の覆土は基本的に１層で、検出面からの深さは約10cmから30cmの範囲におおよそおさまる。

Ｂ区、Ｃ区、Ｄ２区、Ｈ区が高い密度をもって分布し、次いで、Ａ区、Ｇ１・２区、Ｉ区、Ｄ１区に多い。調査区全体としてみれば、おおよそＹ軸20グリッド付近から40グリッド付近に高い密度をもって分布することがいえる。ただ、前述のとおり、遺構のほとんどが近現代のものであり、遺跡の主体となる縄文時代や中世の遺構として確認されたものは数少ない。

3　遺物の分布

今回の調査で出土した遺物は整理箱にして93箱を数える。その大半は縄文土器であり、次いで、礫石器、近現代の陶磁器、打製石器、磨製石器、近世以降の石製品、古銭の順となる。

最も出土量が多いのは、遺物包含層が安定して観察されたＨ区である。しかしながら、第２節で述べたような遺構の様相であることから、Ｈ区に限らず二次堆積である可能性が高い。



Ⅰ	黒褐色シルト	表土。現代の整地層。調査区により、礫等の混入物が多い。
Ⅱ	黒色シルト	表土。ほぼ安定している。やや赤みがかっている。
Ⅲ	黒色シルト	若干の遺物を包含する。ほぼ均質。H区、D２区でやや安定して堆積している。
Ⅳ	暗褐色シルト	G１区でのみ確認されている。比較的硬い。
Ⅴa・c	褐色シルト	Ⅱ層とⅤb層の漸移層の（Ⅴa）。Ⅲ層とⅤb層の。漸移層（Ⅴc）。
Ⅴb	褐色シルト	地山。A区南半からB１区、G２区の南部とJ区では礫層となる。その地の調査区では比較的安定するも、一部砂質になるところも見られる。

第４図　土層柱状図

Ⅳ　検出された遺構

今回の発掘調査で検出された遺構は登録数にして463を数える。前章で述べたように、大半が近現代あるいは時期不明の遺構である。以下、主に縄文時代と推定される遺構について、その概要を述べる。

1　土坑(第５～７図　図版３・４)

登録した土坑の総数は90を数える。全体の傾向として非常に浅いのが特徴である。基本的に覆土は１層で、黒色あるいは暗褐色シルトの堆積しているものがほとんどである。

ＳＫ344(第５図)：Ｈ区、13－26・27グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長164㎝、最大幅60㎝以上、深さ34㎝を測る。覆土は１層からなり縄文土器(32)が出土している。縄文時代前期初頭の所産と考えられる。

ＳＫ439(第５図　図版３)：Ｄ２区、３－38グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長96㎝、最大幅94㎝、深さ34㎝を測る。覆土は２層からなり、縄文土器(38・117)、が出土している。縄文時代前期初頭の所産と考えられる。

ＳＫ418(第５図　図版３)：Ｃ２区、２・３－33～35グリッドに位置する。ＳＸ303に切られている。平面形は円形を呈し、最大長232㎝、最大幅110㎝以上、深さ55㎝を測る。覆土は１層からなり、混入している砂礫はⅡｆ層に起因すると考えられる。床面はほぼ平坦で、以下は砂礫層となる。床面からＲＰ21(39)が出土している。縄文時代前期中葉の所産と考えられる。

ＳＫ276(第５図　図版３)：Ｇ１区、９－53・54グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長116㎝、最大幅64㎝以上、深さ29㎝を測る。覆土は１層からなり、床面付近から縄文土器(40)が出土している。縄文時代前期後葉の所産と考えられる。

ＳＫ299(第５図　図版３)：Ｇ２区、11－41グリッドに位置する。ＳＰ298に切られている。平面形は長円形を呈し、最大長167㎝、最大幅138㎝、深さ24㎝を測る。覆土は２層からなる。覆土中から、縄文土器(105)が出土している。縄文時代の所産と考えられる。

ＳＫ123(第６図　図版４)：Ｂ２・３区、３～５－26～28グリッドに位置する。中央付近を南北にブロック塀により切られ、西側をＳＫ281・282に切られている。東側が削平をうけている。平面形は円形を呈し、最大長408㎝、最大幅332㎝、深さ20㎝を測る。覆土は３層に分かれ、Ｆ１から縄文時代後期前葉の土器(60・61・69)及び縄文土器(130)、Ｆ２・３より縄文時代中期中葉の土器(42・51・56)、スクレイパー(163)、ＲＱ11磨石(180)、ＲＱ６凹石(199)が出土している。その他、層位不明の土器(９・50・54)が出土している。ＲＰ７(56)、ＲＰ10(42)、ＲＰ13(51)は床面直上から出土している。ＲＰ10(42)は略完形の土器で、横に押しつぶされた状態で出土している。平面プランや規模、床面の状況から、竪穴住居跡の可能性もあるが、建物を構成する柱穴、炉跡が検出されなかったことから土坑に分類した。縄文時代中期中葉の所産と考えられる。

ＳＫ437(第６図　図版３)：Ｄ２区、３―38・39グリッドに位置する。ＳＰ436に切られ、ＳＰ

435を切る。平面形は円形を呈し、最大長102cm、最大幅82cm、深さ51cmを測る。覆土は４層からなり、Ｆ４より、縄文土器(105)が出土している。縄文時代後期前葉の所産と考えられる。

ＳＫ320(第６図　図版４)：Ｃ２区、２・３－32・33グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長88cm、最大幅61cm以上、深さ25cmを測る。覆土は１層で、縄文土器(129)が出土している。縄文時代後期の所産と考えられる。

ＳＫ144(第６図　図版３)：Ｃ１区、６－35グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、最大長144cm以上、最大幅106cm以上、深さ18cmを測る。覆土は１層からなり、縄文土器(124)が、逆位で出土した。縄文時代の所産と考えられる。

ＳＫ161(第７図　図版４)：Ｉ区、13―20グリッドに位置する。平面形は長円形を呈し、最大長192cm、最大幅50cm、深さ15cmを測る。覆土は１層からなり、ＲＱ20磨石(182)、ＲＱ19石棒(213)が出土している。縄文時代後期の所産と考えられる。

ＳＫ166(第７図　図版４)：Ｉ区、13－20・21グリッドに位置する。ＳＫ161、ＳＸ171に切られる。平面形は方形を呈し、最大長120cm以上、最大幅75cm以上、深さ15cmを測る。覆土は１層からなり、縄文土器(77・102)、ＲＱ17磨製石斧(168)、ＲＱ18石皿(211)が出土している。縄文時代後期前葉の所産と考えられる。

ＳＫ181(第７図　図版４)：Ｈ区、11・12－26グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長104cm、最大幅94cmである。内部から人頭大の礫が多数検出された。礫の堆積が人為的であるかは判然としない。礫の中に凹石(198)が含まれていた。覆土は２層からなり、Ｆ１より縄文時代後期前葉の土器が出土している。縄文時代後期の所産と考えたい。

２　性格不明遺構(第８図　図版５)

登録数にして、22を数える。土坑や不明ピット等に含まれないものを一括して分類している。平面形は不整形のものが多い。

ＳＸ149(第８図　図版５)：Ｃ１区、５・６－35・36グリッドに位置する。ＳＸ151に切られる。平面形は不整形を呈し、最大長257cm以上、最大幅209cm以上、深さ37cmを測る。覆土は２層からなり、Ｆ１より、縄文土器(83)が出土している。縄文時代後期前葉以前の所産と考えられる。

ＳＸ151(第８図　図版５)：Ｃ１区、４－35・36グリッドに位置する。ＳＸ303との切り合いは不明である。平面形は不整形を呈し、最大長217cm以上、最大幅142cm以上、深さ20cmを測る。覆土は３層からなり、Ｆ１より、縄文土器(15・108)が出土している。Ｆ３は非常に硬く、張り床の可能性もあるが、建物を構成する柱穴、炉跡等が検出されなかったことから性格不明と分類している。縄文時代後期前葉以前の所産と考えられる。

ＳＸ303(第８図　図版５)：Ｃ２区、２～４－34～36グリッドに位置する。ＳＸ151、ＳＭ421・422・423との新旧関係は不明である。平面形は不整形を呈し、最大長304cm以上、最大幅248cm以上、深さ28cmを測る。覆土は１層からなり、縄文土器(13・47～49・122)、土偶(135)、石鎚(143)、スクレイパー(149)が出土している。縄文時代中期中葉の所産と考えたい。

3　集石(第８図)

登録数にして、４を数える。構成する礫は、礫石器を含む。覆土に縄文土器を包含するものもあるが、時期は判然としない。

ＳＭ421・422・423(第８図)：Ｃ２区、３・４－35・36グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。ＳＭ421は直径約136cmを測る。礫の中に、磨石(174・178・185)、石皿(212)が含まれていた。ＳＭ422・423は直径約64cmを測る。ＳＭ423を構成する礫の中に、磨石(179・183・191)が含まれていた。縄文時代の所産と考えたい。

4　埋設土器(第７図　図版５)

登録数にして、３を数える。２基は立ち木や土管等に壊されており掘り方が判然としない(ＥＵ187・447)。

ＥＵ261(第７図　図版５)：Ｇ１区、10―51グリッドに位置する。掘り方の平面形は円形を呈する。縄文土器(134)が逆位に埋設されていた。時期は不明である。

5　墓壙(第７図　図版５)

ＳＫ16・51の２基が検出された。いずれも中世の所産である。

ＳＫ16(第７図　図版５)：Ａ区、２・３－12・13グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、最大長127cm、最大幅111cm、深さ72cmを測る。覆土は１層からなり、永楽通宝・人骨が出土した。

ＳＫ51(第７図　図版５)：Ａ区、２・３―13・14グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、最大長138cm、最大幅104cm、深さ67cmを測る。覆土は１層からなり、人骨が出土した。

6　井戸跡(第７図　図版５)

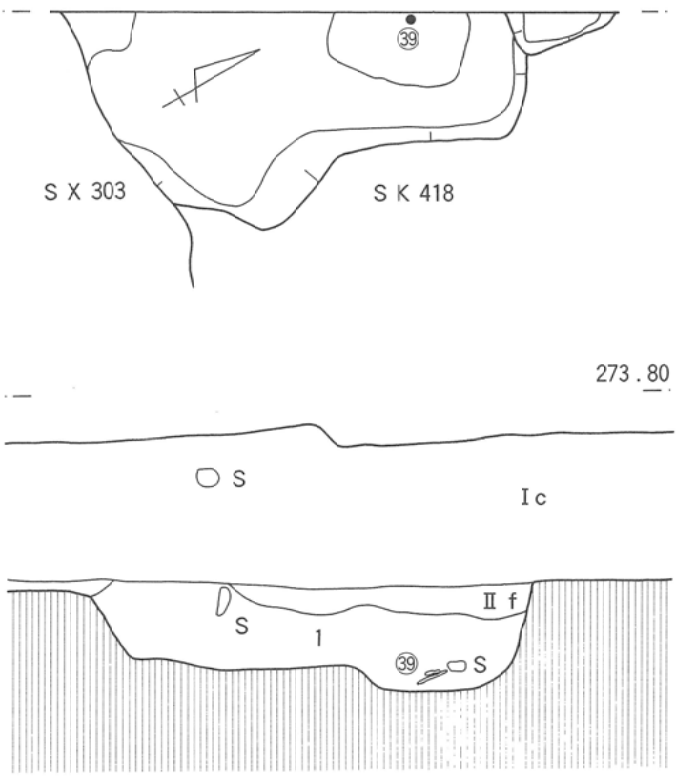
２基が検出された。中近世の所産と考えられる。

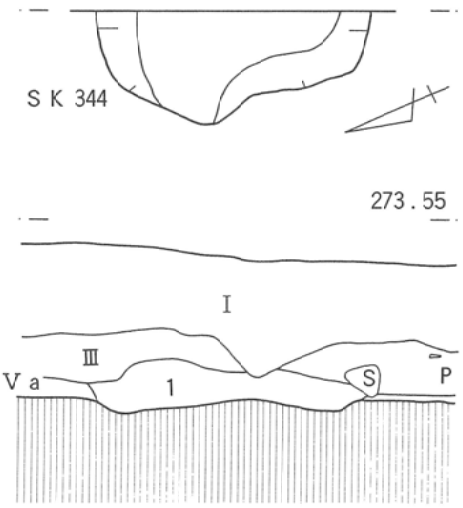
ＳＥ15(第７図　図版５)：Ａ区、２・３－11・12グリッドに位置する。石組井戸である。平面形は円形を呈し、直径が142cm、深さが200cm以上を測る。ＳＤ14に切られており、石組が壊されていたため崩落事故の恐れがあり完掘できなかった。

7　堀跡(付図　図版５)

１条検出された。中世の所産と考えられる。

ＳＤ417(付図　図版５)：Ｊ区、13・14－８～11グリッドに位置する。最大幅224cm、深さ68cmを測る。断面形はＶ字形を呈し、薬研堀と推定される。北端は段丘崖付近で途切れるようである。Ａ区で検出されなかったことから、東方向へ伸びるか。南方には調査区外まで伸びる。全体の構成は不明である。中世の所産と考えられる。



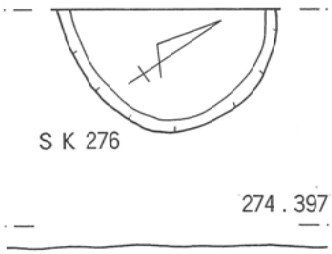


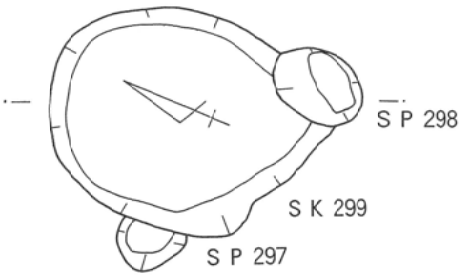
S K 344

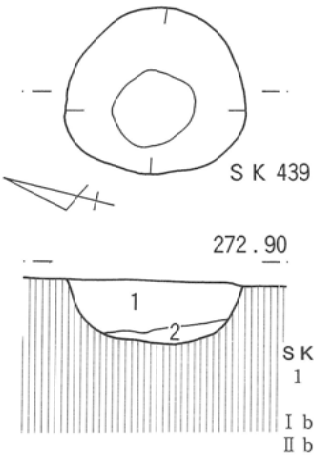
1	10 YR2/1	黒色シルト	礫(径5～10 mm)含む(10%)
Ⅰ	7.5 YR2/1	黒色シルト	砂礫混じる。
Ⅲ	10 YR2/1	黒色シルト	遺物若干含む。均質。

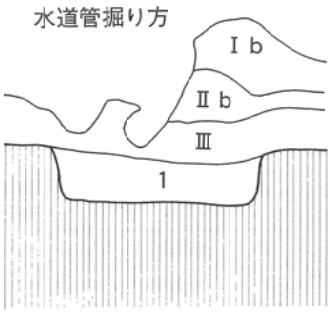
S K 418

1	10 YR2 1	黒色シルト	砂礫混じる。ぼそぼそしている。
Ⅰc	7.5 YR3 1	黒褐色シルト	均質。現代の整地層。
Ⅱf	7.5 YR2 1	黒色シルト	砂多量に混じる。S K 418 F 1との間に鉄分の沈殿層がある。



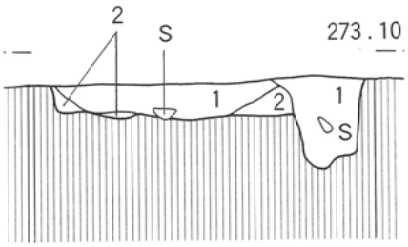






S K 276

1	10 YR2/1	黒色粘質シルト	Ⅳ層の土若干混じる。ほぼ均質。
Ⅰb	10 YR2/2	黒褐色シルト	
Ⅱb	7.5 YR2/1	黒色シルト	
Ⅲ	7.5 YR2/1	黒色シルト	



S K 439

1	7.5 YR3/1	黒褐色シルト	
2	7.5 YR2/1	黒色シルト	炭化物を含む。

S P 298

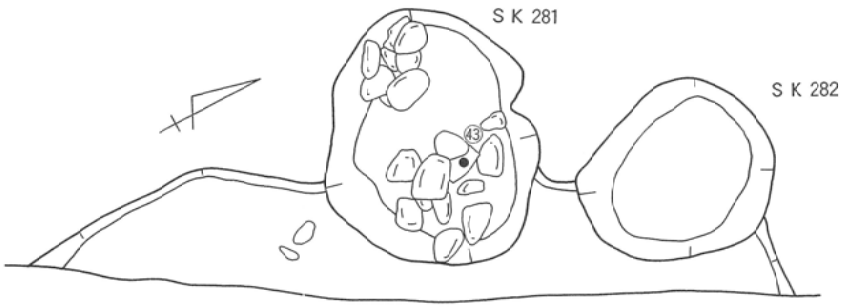
1	7.5 YR2 1	黒色微砂質シルト	S K 299よりやや赤みがかる。ほぼ均質。

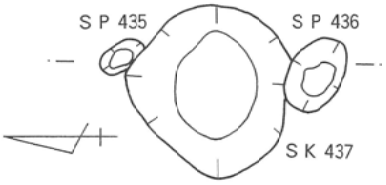
S K 299

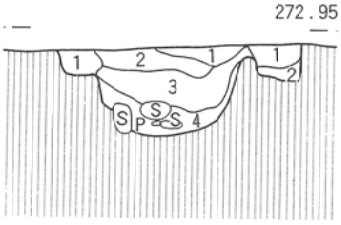
1	7.5 YR2 1	黒色粘質シルト	10 YR4/6 褐色砂質シルト混じる。
2	10 YR4 6	褐色砂質シルト	1層混じる。濁っている。

0　1 m
1：40

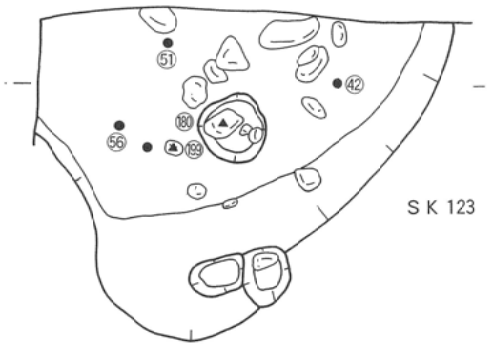
第5図　S K 418・344・299・439・276土坑







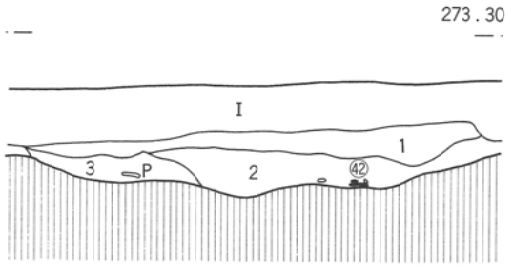
ブロック塀



SP 435
1　7.5YR2/1　黒色シルト

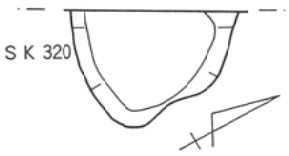
SP 436
1　7.5YR2/1　黒色シルト　10YR3/3暗褐色シルト混じる。
2　7.5YR2/1　黒色シルト　10YR6/6明黄褐色砂まだらに混じる。

SK 437
1　7.5YR2/1　黒色シルト　10YR6/6明黄褐色砂ブロック状に含む（1%）。
2　10YR3/3　暗褐色シルト　炭化粒（径2～3㎜）含む（2%）。
3　7.5YR3/1　黒褐色シルト　壁付近で10YR6/6明黄褐色砂と混じる。
4　7.5YR2/1　黒色シルト　しまっている。



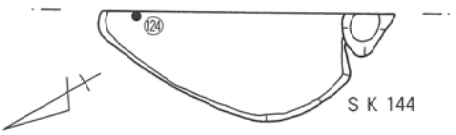
SK 123
1　10YR2/1　黒色粘質シルト　砂混じる。炭化粒（径2～4㎜）含む（5%）。しまっている。
2　10YR2/1　黒色粘質シルト　10YR4/6褐色粘質シルト粒状（径1～2㎜）に含む2%）しまっている。
3　10YR2/1　黒色粘質シルト　10YR4/6褐色粘質シルト混じる。濁っている。

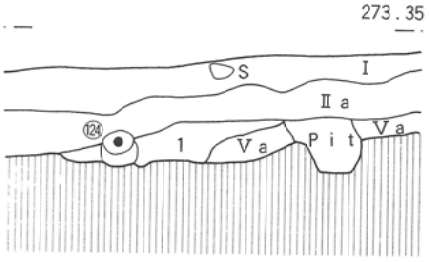
Ib　10YR2/2　黒褐色シルト

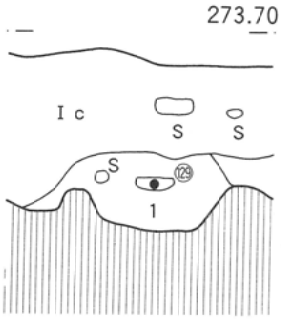


SK 144
1　10YR2/2　黒褐色シルト　均質。

I　10YR2/2　黒褐色シルト
IIa　7.5YR2/1　黒色シルト
Va　10YR4/4　褐色シルト　IIa層とVb層の漸移層。





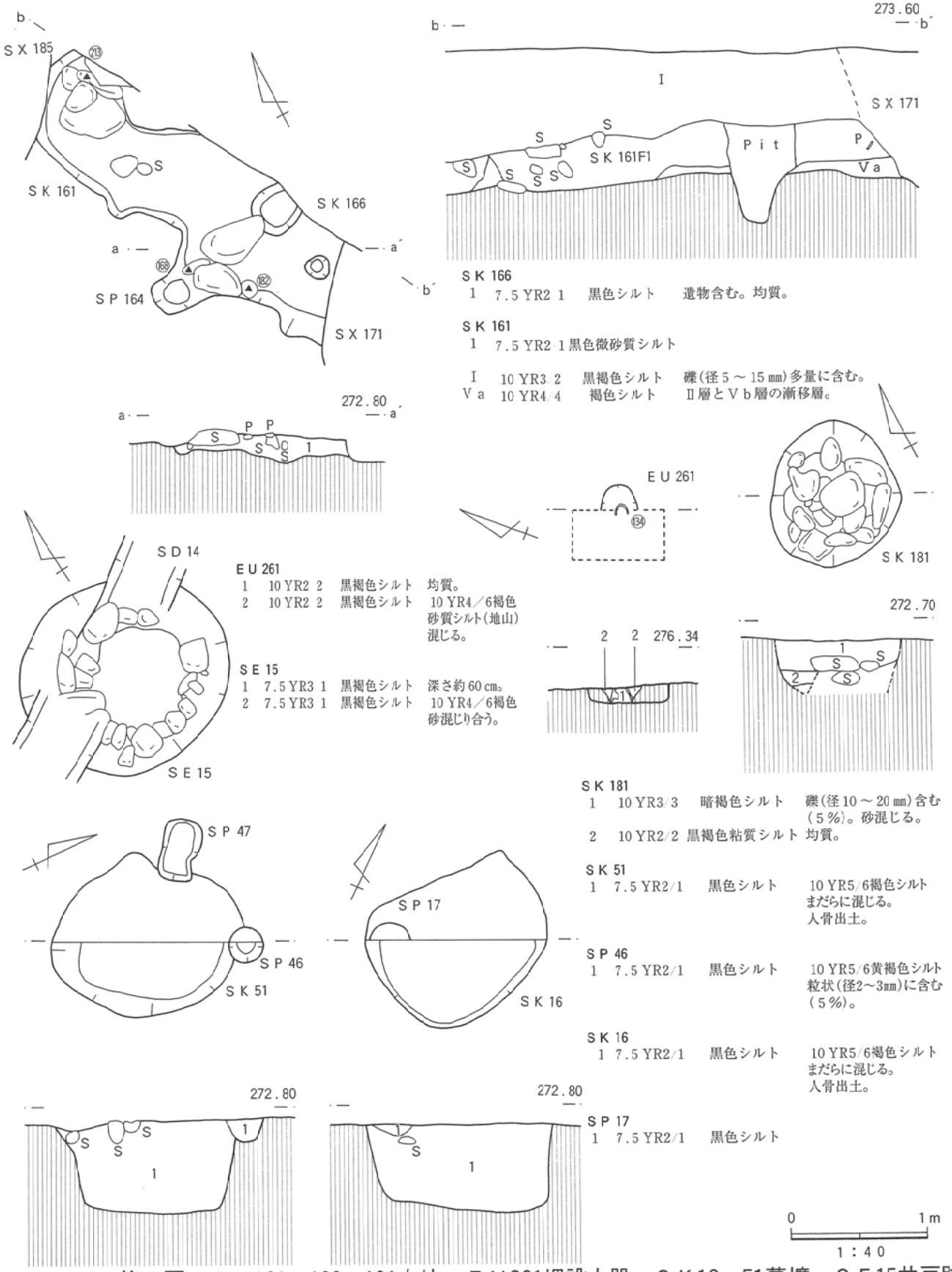


SK 320
1　10YR2/1　黒色シルト

Ic　7.5YR3/1　黒褐色シルト　均質。現代の整地層。

0　1m
1：40

第6図　SK123・437・144・320土坑



SK 166
1　7.5YR2/1　黒色シルト　遺物含む。均質。

SK 161
1　7.5YR2/1黒色微砂質シルト

I　10YR3/2　黒褐色シルト　礫(径5～15㎜)多量に含む。
Va　10YR4/4　褐色シルト　Ⅱ層とVb層の漸移層。

EU 261
1　10YR2/2　黒褐色シルト　均質。
2　10YR2/2　黒褐色シルト　10YR4/6褐色砂質シルト(地山)混じる。

SE 15
1　7.5YR3/1　黒褐色シルト　深さ約60㎝。
2　7.5YR3/1　黒褐色シルト　10YR4/6褐色砂混じり合う。

SK 181
1　10YR3/3　暗褐色シルト　礫(径10～20㎜)含む(5%)。砂混じる。
2　10YR2/2　黒褐色粘質シルト　均質。

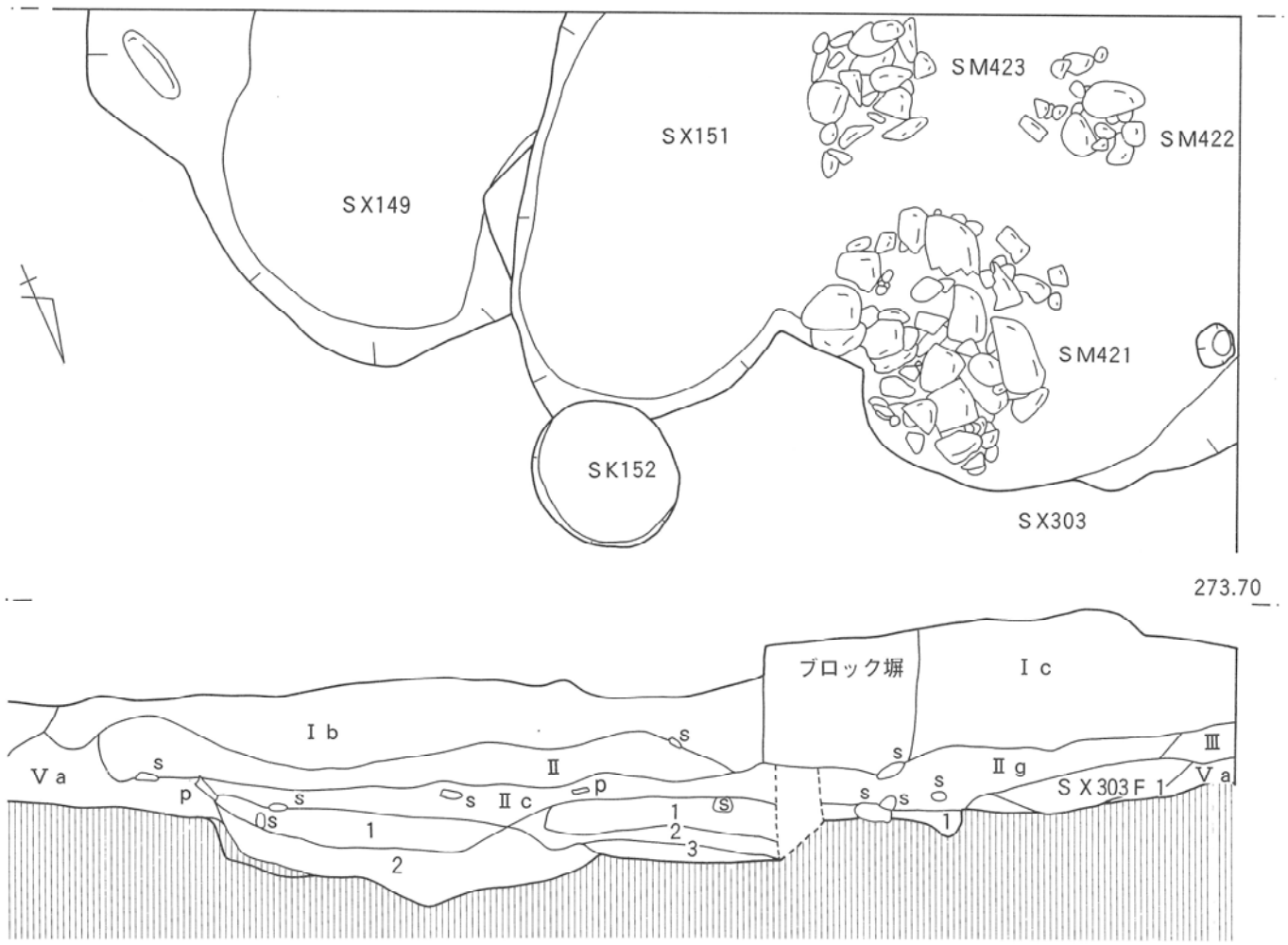
SK 51
1　7.5YR2/1　黒色シルト　10YR5/6褐色シルトまだらに混じる。人骨出土。

SP 46
1　7.5YR2/1　黒色シルト　10YR5/6黄褐色シルト粒状(径2～3㎜)に含む(5%)。

SK 16
1　7.5YR2/1　黒色シルト　10YR5/6褐色シルトまだらに混じる。人骨出土。

SP 17
1　7.5YR2/1　黒色シルト

第7図　SK161・166・181土坑・EU261埋設土器・SK16・51墓壙・SE15井戸跡



Ⅰb　10YR2/2黒褐色シルト
Ⅰc　7.5YR3/1黒褐色シルト
　均質。現代の整地層。
Ⅱ　7.5YR2/1黒色シルト
Ⅱc　7.5YR2/1黒色粘質シルト
　遺物若干含む。
Ⅱg　7.5YR2/1黒色シルト
　Ⅰcよりやや暗い。
　Ⅰc層とⅢ層の漸移層。
Ⅲ　10YR2/2黒褐色シルト
Va　10YR4/4褐色シルト
　Ⅱ層とVbの漸移層。
Vb　10YR4/4褐色シルト
　地山。
Vc　10YR4/6褐色シルト
　Ⅲ層とVb層の漸移層。

SX149

1　10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/6褐色砂ブロック状(径20～30㎜)に含む。砂礫混じる。しまっている。

2　10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/6褐色砂まだらに混じる。1層より硬い。

SX303

1　7.5YR2/1黒色粘質シルト　遺物含む。SX151F1と同じか。

SX151

1　7.5YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/6褐色砂粒状(径1～3㎜)に含む(1%)。炭化粒(径3～5㎜)含む(2%)。遺物含む。

2　10YR2/1黒色シルト　10YR4/6褐色砂まだらに混じる。

3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR4/6褐色砂まだらに混じる。硬い。

0　1m
1：40

第8図　SX149・151・303・SM421・422・423

表２　遺構観察表（１）

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長(cm)	最大幅(cm)	深さ(cm)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	石器・石製品	その他	備考	挿図
SK1	A	2-9・10	不明	土坑	方形	116～	98	46	○				○	○						付図
SP2	A	3-9	不明	不明ピット	長円形	64	56	24												付図
SP3	A	3-10	不明	草木痕？	円形	46	34	12												付図
SP4	A	3-9・10	不明	不明ピット	円形	31	24	22												付図
SP5	A	3-9	不明	不明ピット	円形	26	22	12												付図
SP6	A	4-10	不明	不明ピット	長円形	30	23	14												付図
SP7	A	4-10	近現代	不明ピット	方形	40	30	11												付図
SP8	A	3・4-10	近現代	不明ピット	方形	40	36	21												付図
SP9	A	3・4-10	不明	不明ピット	円形	36	32	14												付図
SP10	A	3-10	不明	不明ピット	方形	36	31	28												付図
SP11	A	3-10	不明	不明ピット	不整形	56	40～	13												付図
SP12	A	3-10	不明	不明ピット	円形	26	24	21												付図
SK13	A	2・3-10・11	中近世	墓壙？	円形	172	156	71								○		宣徳通寶２・硯１		付図
SD14	A	2-10～13	現代	水道管	溝	486～	56									○				付図
SE15	A	2・3-11・12	中近世	石組井戸	円形	142	142	200～								○	スクレイパー１	陶磁器・骨		付図
SK16	A	2・3-12・13	近世	墓壙	方形	127	111	72								○		永楽通寶２・人骨		第７図
SP17	A	2-12・13	近現代	不明ピット	円形	31	31	8												付図
SP18	A	3-13	不明	不明ピット	方形	28	16	18												付図
SK19	A	3-12	縄文	土坑	方形	104	82	38								○	スクレイパー１			付図
SP20	A	3-12	縄文	不明ピット	円形	58	32	25								○				付図
SP21	A	3-12	縄文	不明ピット	円形	32	22	22												付図
SP22	A	3-12	不明	不明ピット	円形	30	25	17												付図
SP23	A	3・4-12	不明	不明ピット	長円形	49	22	38					○							付図
SP24	A	3・4-12	不明	不明ピット	円形	33～	33	21												付図
SP25	A	4-12	不明	不明ピット	円形	26	22	18												付図
SP26	A	3-12	不明	不明ピット	円形	47	39	18												付図
SP27	A	3-12	不明	不明ピット	円形	22～	22	9												付図
SP28	A	3-12・13	不明	不明ピット	円形	22～	22	13												付図
SP29	A	3-13	不明	不明ピット	円形	16	16	11												付図
SP30	A	3・4-13	不明	不明ピット	円形	26	24	19												付図
SP31	A	4-13	不明	不明ピット	長円形	29	21	22												付図
SP32	A	4-12	不明	不明ピット	円形	26	24	11												付図
SP33	A	4-12	不明	不明ピット	円形	58	32	15												付図
SP34	A	3・4-12・13	不明	不明ピット	円形	23	23	9												付図
SP35	A	3-11	不明	不明ピット	円形	22	22	21												付図
SK36	A	3-11	近現代	廃棄坑	方形	125	60	5												付図
SK37	A	3・4-11	近現代	廃棄坑	不整形	132	125	2								○	磨石１			付図
SP38	A	2-13	不明	不明ピット	方形	42	34	15												付図
SP39	A	2-13	縄文	不明ピット	円形	33	30	23								○				付図
SP40	A	3-13	不明	不明ピット	円形	35	32	33												付図
SP41	A	3-13	不明	不明ピット	円形	46	46	43												付図
SK42	A	3・4-13・14	縄文	土坑	円形	136	134	43								○				付図
SP43	A	2-13	近現代	不明ピット	長円形	82～	58～	19												付図
SP44	A	2-13	不明	不明ピット	長円形	30	24	13	○							○				付図
SP45	A	2-13	不明	不明ピット	円形	14～	14～	5～												付図
SP46	A	2-13	近現代	不明ピット	円形	25	25	17												第７図
SP47	A	2-13	近現代	不明ピット	方形	44	25	11												第７図
SP48	A	2-14	不明	不明ピット	円形	20	20	7												付図
SP49	A	2-14	近現代	不明ピット	方形	36～	20～	28												付図
SP50	A	2-14	近現代	不明ピット	方形	35	35	11												付図
SK51	A	2・3-13・14	近世	墓壙	方形	138	104	67	○							○	凹石１	人骨		第７図
SP52	A	3-13	不明	不明ピット	長円形	46	32	22												付図
SP53	A	3-14	不明	不明ピット	円形	22	22	21												付図
SP54	A	3-14	不明	不明ピット	円形	33	33	10												付図
SP55	A	3-14	不明	不明ピット	円形	19	19	14												付図
SP56	A	3-14	不明	不明ピット	長円形	34	30	14												付図
SP57	A	3-14	不明	不明ピット	長円形	65	47	23												付図
SP58	A	2・3-14	近現代	草木痕	円形	27	27	14												付図
SK59	A	2・3-14	近現代	土坑	長円形	98	34	9								○				付図
SK60	A	2-14・15	近現代	土坑	不整形	162	134	35						○		○				付図
SP61	A	3・4-15	不明	不明ピット	長円形	50	40	32												付図
SP62	A	3・4-15	不明	不明ピット	長円形	40	36	13												付図
SP63	A	4-10	近現代	不明ピット	方形	34	34	6												付図
SK64	A	4・5-10・11	近現代	土坑	長円形	264	164～	30										陶磁器		付図
SP65	A	5-11	近現代	不明ピット	円形	38	38	8												付図
SP66	A	5・6-19	不明	不明ピット	長円形	49	44	16												付図

表３　遺構観察表（２）

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長(cm)	最大幅(cm)	深さ(cm)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	石器・石製品	その他	備考	挿図
SP67	A	4-11	不明	不明ピット	円形	22	22	17												付図
SP68	A	4・5-12	不明	不明ピット	長円形	48	36	21										陶磁器		付図
SP69	A	5-12	不明	草木痕	円形	26	26	6												付図
SK70	A	5-12・13	不明	土坑	円形	91	91	12												付図
SK71	A	5・6-12・13	不明	土坑	長円形	106	82	20												付図
SP72	A	5-13	不明	不明ピット	円形	30	30	14												付図
SK73	A	4-12・13	不明	土坑	方形	80	80	36												付図
SK74	A	4・5-12・13	不明	土坑	長円形	179	109	17												付図
SP75	A	5-13	不明	不明ピット	円形	43	43	11												付図
SK76	A	6-13・14	不明	土坑	円形	88～	88	24								○				付図
SP77	A	4-15	不明	不明ピット	長円形	48	27	21												付図
SK78	B1	5・6-22	近現代	土坑	円形	160～	89～	48～												付図
SK79	B1	5・6-21・22	不明	土坑	不整形	192～	154	20												付図
SP80	B1	6-21	不明	不明ピット	長円形	63	49	11												付図
SP81	B1	5-21	不明	不明ピット	長円形	46	27	6												付図
SK82	B1	5-21	不明	土坑	長円形	104～	57～	24												付図
SP83	B1	5-22	不明	不明ピット	円形	38	32	16												付図
SP84	B1	5-22	不明	不明ピット	円形	38	34	11												付図
SK85	B1	4・5-21・22	縄文	土坑	長円形	69	58	17								○				付図
SK86	B1	3・4-21	不明	土坑	不整形	186～	80～	13												付図
SP87	B1	4-21・22	不明	不明ピット	円形	34	34	15												付図
SP88	B1	4-22	中期	不明ピット	円形	41	41	10				○								付図
SP89	B1	4-22	不明	不明ピット	長円形	42	34	14												付図
SP90	B1	3-22	不明	不明ピット	円形	46	44	26				○								付図
SP91	B1	3・4-21・22	不明	不明ピット	円形	54	54	30					○			○				付図
SP92	B1	3・4-21・22	不明	不明ピット	円形	34	34	22												付図
SP93	B1	4-21	不明	不明ピット	円形	42～	42	14					○							付図
SP94	B1	4-21	不明	不明ピット	円形	34～	34	19												付図
SP95	B1	3・4-21	不明	不明ピット	円形	57～	57	18												付図
SK96	B1	3-22	縄文	土坑	長円形	65	46	28								○				付図
SP97	B1	3-22	不明	不明ピット	円形	25	25	－												付図
SX98	B1	2・3-21・22	不明	落ち込み	不整形	310～	130	25				○								付図
SP99	B1	2・3-21	不明	不明ピット	円形	50	50	15												付図
SK100	B2	5・6-23・24	近現代	土坑	不整形	206～	106～	19								○		陶磁器		付図
SP101	B2	6-23・24	不明	不明ピット	長円形	50	38	11												付図
SP102	B2	6-23	不明	不明ピット	長円形	52～	28	23												付図
SK103	B2	6-24	近現代	土坑	方形	134～	133	22								○		陶磁器		付図
SP104	B2	5-24	不明	不明ピット	円形	30	30	23												付図
SP105	B2	5-24・25	不明	不明ピット	円形	26	26	9												付図
SP106	B2	5・6-25	不明	不明ピット	円形	39	39	16												付図
SP107	B2	5・6-25	不明	不明ピット	長円形	40	31	23												付図
SK108	B2	6-25・26	近現代	土坑	不整形	225～	92～	24												付図
SP109	B2	6-25	不明	不明ピット	円形	18	18	5												付図
SP110	B2	6-25	不明	不明ピット	円形	30	28	12									凹石１			付図
SP111	B2	5-25	縄文	不明ピット	長円形	46	40	16								○				付図
SP112	B2	5-25	不明	柱穴か？	不整形	42	34	20												付図
SP113	B2	5・6-26	不明	不明ピット	方形	40	40	20												付図
SK114	B2	5-26	不明	土坑	方形	94～	80	7												付図
SP115	B2	6-26	不明	不明ピット	円形	18	18	10												付図
SP116	B2	5-26	不明	不明ピット	円形	22	22	15												付図
SP117	B2	6-26	不明	不明ピット	円形	34	34	9												
SP118	B2	6-26	不明	不明ピット	円形	24	24	－												
SK119	B2	6-26・27	不明	土坑	円形	117	106	11	○							○	尖頭器１			付図
SK120	B2	6-27	中期	土坑	円形	123	88～	5				○				○				付図
SP121	B2	6-27	不明	草木痕？	円形	29	26	12												付図
SP122	B2	6-27	不明	不明ピット	円形	13	13	4												付図
SK123	B2・B3	3～5-26～28	中期	住居跡か？	円形	408	332	20	○	○		○		○		○	スクレイパー１・磨石１・凹石１			第６図
SP124	C1	4・5-31・32	縄文	不明ピット	円形	40	36	21								○				付図
SP125	C1	4・5-31・32	縄文	不明ピット	円形	40	36	21								○				付図
SP126	C1	4-31・32	不明	不明ピット	長円形	23	26	27								○				付図
SP127	C1	4-32	不明	不明ピット	長円形	53	25	34				○				○				付図
SP128	C1	4-32	縄文	不明ピット	円形	62	46～	12～				○			○	○				付図
SP129	C1	5-32	縄文	不明ピット	長円形	54	32	5						○		○				付図
SP130	C1	5-32	不明	不明ピット	円形	32	30	25				○								付図
SX131	C1	4・5-32・33	近現代	性格不明	不整形	218	134～	29				○				○		陶磁器		付図
SX132	C1	4-32・33	近現代	性格不明	長円形	182	141～	45												付図

表４　遺構観察表（３）

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長(cm)	最大幅(cm)	深さ(cm)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	石器・石製品	その他	備考	挿図
SX133	C1	4～6-33・34	近現代	池跡	円形	330	250	94						○		○		陶磁器・砥石１・不明金属製品		付図
SP136	C1	6-33	縄文	不明ピット	円形	27	27	23								○				付図
SP137	C1	6-33	縄文	不明ピット	不整形	82	43	23												付図
SP138	C1	6-33	不明	不明ピット	長円形	45	30	16								○				付図
SP139	C1	6-33	不明	不明ピット	円形	54	40										石皿１			付図
SP140	C1	6-33	縄文	不明ピット	円形	50	46									○				付図
SK141	C1	6-33・34	縄文	土坑	円形	130～	46～	15	○			○				○				付図
SP142	C1	6-34	縄文	不明ピット	円形	26	26	11								○				付図
SP143	C1	6-34	不明	柱穴	円形	26	23	38												付図
SK144	C1	6-35	縄文	土坑	方形？	114～	106～	18								○				第５図
SK146	C1	5-34・35	不明	土坑	円形	131	131	31								○				付図
SP147	C1	5・6-35	縄文	不明ピット	円形	50	50	24								○				付図
SP148	C1	6-35	不明	不明ピット	円形	21	21	13												付図
SX149	C1	5・6-35・36	縄文	落ち込み	不整形	257～	209～	37				○		○		○				第８図
SX151	C1	4-35・36	縄文	落ち込み	不整形	217～	142～	20	○			○		○		○			SX303と同一か？	第８図
SK152	C1	4-34・35	後期	不明ピット	円形	82	73	17						○				動物骨		第８図
SP153	C1	4-34・35	不明	不明ピット	円形	32	32	9												付図
SK154	C1	4-34	近現代	土坑	円形	83	83	13								○				付図
SP155	C1	4-34	不明	不明ピット	長円形	33	22													付図
SP156	I	11-19・20	不明	不明ピット	円形	49	49	9												付図
SX158	I	12・13-19・20	現代	性格不明	方形	376～	98	7	○							○	磨石２・石棒１・円盤状石製品	陶磁器	SX167と関連するか？	付図
SP159	I	12・13-19	不明	不明ピット	円形	54	38～	8												付図
SP160	I	13-20	不明	不明ピット	長円形	46	26	10												付図
SK161	I	13-20	縄文	土坑	長円形	192	50	15								○	磨石１・石棒１			第７図
SP162	I	13-20	不明	不明ピット	円形	26	22	20								○				付図
SP163	I	13-20	不明	不明ピット	円形	44	39	13								○				付図
SP164	I	13-20	不明	不明ピット	円形	28	28	16								○	磨石２			第７図
SP165	I	13-21	近現代	不明ピット	円形	32	32	30								○		陶磁器		付図
SK166	I	13-20・21	後期	土坑	方形	120～	75～	15						○		○	磨製石斧１・石皿１			第７図
SX167	I	11～13-20・21	近現代	性格不明	方形	381	338	28	○			○		○		○	磨石２・凹石２	宝珠飾り１・砥石１・不明金属製品・頁岩２		付図
SK168	I	11-21	近現代	土坑	長円形	128	69	21								○		陶磁器・不明金属製品		付図
SP169	I	13-21	不明	不明ピット	円形	35	30	11								○				付図
SP170	I	13-21・22	不明	不明ピット	円形	30	30	6								○				付図
SX171	I	13-21・22	現代	池跡？	円形	262	144～	23									石核１	陶磁器		付図
SP172	I	13-22	不明	不明ピット	円形	26	20	9								○				付図
SP173	I	13-22	不明	不明ピット	円形	46	40	12												付図
SP174	I	13-22	不明	不明ピット	円形	－	－	－				○		○						付図
SK175	I	12・13-22	不明	土坑	円形	117	117	23						○						付図
SK176	H	10-26	縄文	土坑	円形	98	94～	22								○				付図
SP177	H	11-26	不明	不明ピット	円形	－	－	－								○			位置不明	
SP178	H	11-26	不明	不明ピット	円形	48	48	18												付図
SP179	H	11-25	不明	不明ピット	円形	27	27	13												付図
SP180	H	11-25	不明	不明ピット	長円形	47	34	26												付図
SK181	H	11・12-26	後期	土坑	円形	104	94	－						○		○	凹石１			第７図
SK182	H	11-25・26	不明	土坑	長円形	103	74	21												付図
SP183	H	11・12-25	近現代	不明ピット	円形	48	48	16								○				付図
SD184	H～G3	11～13-19～37	近現代	用水路	溝		80	31	○	○		○	○	○	○	○	スクレイパー１・石皿・磨石		昭和28年頃に埋められる。	付図
SP185	H	12-25	不明	不明ピット	円形	－	－	－											位置不明	
SX186	H	12・13-25・26	近現代	攪乱	不整形	262～	184～	22								○	スクレイパー１	陶磁器	SX171と同一か？	付図

表5　遺構観察表（4）

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長(cm)	最大幅(cm)	深さ(cm)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	石器・石製品	その他	備考	挿図
EU187	A	3-9	縄文	埋設土器	円形	－	－	－								○			焼土あり	付図
SP188	B3	3-24	不明	不明ピット	円形	36	30	5												付図
SP189	B3	3-24	不明	不明ピット	円形	30	24	6												付図
SP190	B3	3-24	不明	不明ピット	円形	44	32	13												付図
SP191	B3	3-24	不明	不明ピット	円形	42	22	5												付図
SP192	B3	3-24	不明	不明ピット	円形	24	20	3												付図
SP193	B3	3-24	不明	不明ピット	円形	36	24	17												付図
SK194	B3	2・3-24・25	不明	土坑	円形	212	180	20								○				付図
SK195	B3	3・4-24・25	不明	土坑	不整形	194～	144～	28				○		○		○				付図
SP196	B3	3-24	不明	不明ピット	円形	46	42	14												付図
SP197	B3	3-24・25	不明	不明ピット	円形	48	46	13								○				付図
SK198	B3	4-25	不明	不明ピット	円形	94	74	25								○				付図
SP199	B3	3-25	不明	不明ピット	円形	50	30	21								○				付図
SP200	B3	3-25	不明	不明ピット	円形	36	32	12												付図
SP201	B3	3-24	不明	不明ピット	円形	32	22	10												付図
SP202	B3	2-24	不明	不明ピット	円形	38	30	13												付図
SP203	B3	2-25	不明	不明ピット	円形	40	40	11												付図
SK204	B3	2・3-25	不明	土坑	円形	112	100	19												付図
SK205	B3	2・3-25・26	不明	土坑	円形	92	66	26												付図
SP206	B3	3-25	不明	不明ピット	長円形	82	48	24												付図
SP207	B3	3-25	不明	不明ピット	円形	32	26	5												付図
SP208	B3	3-25・26	不明	不明ピット	円形	35	35	8												付図
SP209	B3	3・4-25・26	不明	不明ピット	不整形	62	60	11												付図
SK210	B3	3-25	不明	土坑	円形	72	72	20												付図
SP211	B3	3・4-25	不明	不明ピット	円形	46	32	21				○								付図
SP212	B3	4-25・26	不明	不明ピット	円形	40	32	5								○				付図
SP213	B3	3-26	不明	不明ピット	円形	16	14	9												付図
SP214	B3	3-26	不明	柱穴？	長円形	40	28	21				○								付図
SP215	B3	3-26	不明	不明ピット	長円形	54	28	85												付図
SX216	B3	2・3-25・26	不明	性格不明	円形	188	88～	16								○			遺構2～3切り合うか？	付図
SP217	B3	2・3-26・27	不明	不明ピット	円形	56	44	20								○				付図
SP218	B3	3-26・27	不明	不明ピット	長円形	50	38	89												付図
SP219	B3	3-26	不明	柱穴	円形	42	32	18												付図
SP220	B3	3-26	不明	不明ピット	円形	28	24	13				○								付図
SP221	B3	3・4-26	不明	不明ピット	円形	36	34	11								○				付図
SP222	B3	4-26	不明	不明ピット	長円形	32	22	11												付図
SP223	B3	4-25・26	不明	柱穴	不整形	116	80	19												付図
SP225	B3	4-27	不明	不明ピット	円形	32	28	14												付図
SP226	B3	3-27	不明	不明ピット	円形	28	28	7												付図
SD227	B3	2・3-27	近現代	建物基礎？	溝	200	58	25										不明金属製品		付図
SX228	B3	2・3-27	不明	性格不明	不整形	70	44	21				○				○				付図
SK229	B3	3-27・28	不明	土坑	不整形	128	92	24				○				○				付図
SP230	B3	3-27	不明	不明ピット	円形	48	42	14												付図
SP231	B3	3・4-27・28	不明	不明ピット	不整形	52	36	15									石錐 1			付図
SP232	B3	4-27・28	不明	不明ピット	円形	24	20	13												付図
SP233	B3	3・4-27	不明	不明ピット	長円形	24	16	11												付図
SP234	B3	4-27	不明	不明ピット	長円形	24	18	7												付図
SX235	B3	2～4-28	近現代	落ち込み？	不整形	280	150	21								○		砥石 1		付図
SP236	B3	4-28	不明	不明ピット	円形	32	28	9								○				付図
SP237	B3	2・3-28	不明	不明ピット	長円形	30	14	6												付図
SK238	C1	4・5-34・35	中近世	土坑	円形	160	154	66						○		○		コタツ行火・寛永通寶 1		付図
SP239	G1	9-50	不明	不明ピット	円形	20	24	11								○				付図
SP240	G1	9-50	不明	不明ピット	長円形	24	32	9								○				付図
SP241	G1	10-49・50	不明	不明ピット	長円形	72	20	20												付図
SK242	G1	11-49	不明	土坑	円形	56	44	13												付図
SK243	G1	11-49・50	不明	土坑	長円形	88	56	29												付図
SP244	G1	11-50	不明	不明ピット	円形	44	36	18												付図
SP245	G1	11-50	不明	不明ピット	円形	36	32	27												付図
SP246	G1	11-50	不明	不明ピット	円形	44	36	12								○				付図
SP247	G1	11-50・51	不明	不明ピット	長円形	36	28	8												付図
SP248	G1	11-51	不明	不明ピット	円形	40	32	4												付図
SP249	G1	11-52	不明	不明ピット	長円形	32	24	12												付図
SP250	G1	10-51	縄文	不明ピット	円形	32	32	14								○				付図
SP251	G1	10-50・51	不明	不明ピット	長円形	24	16	7												付図
SP252	G1	10-50・51	不明	不明ピット	円形	32	28	12								○				付図

表6　遺構観察表(5)

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長(cm)	最大幅(cm)	深さ(cm)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	石器・石製品	その他	備考	挿図
SP253	G1	9-50・51	縄文	不明ピット	長円形	34	24	2								○				付図
SP254	G1	9-51	不明	不明ピット	長円形	38	28	19				○								付図
SP255	G1	10-51	不明	不明ピット	円形	24	20	19												付図
SP256	G1	10-51	不明	草木根？	円形	20	18	10												付図
SP257	G1	10-52	不明	不明ピット	長円形	36	24	17												付図
SP258	G1	10-52	不明	不明ピット	円形	32	28	11												付図
SP259	G1	10・11-51・52	不明	不明ピット	円形	40	32	16												付図
SP260	G1	10・11-52	不明	不明ピット	円形	28	28	16												付図
EU261	G1	10-51	縄文	埋設土器	円形	68	52	13								○				第7図
SP262	G1	11-51・52	不明	不明ピット	円形	28	28	11												付図
SP263	G1	11-51	不明	不明ピット	円形	20	18	5												付図
SP264	G1	11-51	不明	不明ピット	円形	30	26	12												付図
SP265	G1	9-52	不明	不明ピット	円形	20	20	26								○				付図
SP266	G1	10-52	不明	不明ピット	方形	24	24	10						○		○				付図
SP267	G1	9・10-53	不明	不明ピット	円形	20	16	8												付図
SP268	G1	10-53	不明	不明ピット	円形	22	22	12												付図
SP269	G1	10-52	不明	不明ピット	長円形	26	18	8												付図
SP270	G1	11-52	不明	不明ピット	長円形	24	16	8												付図
SP271	G1	11-53	不明	不明ピット	長円形	48	28	30												付図
SP272	G1	10-53	不明	不明ピット	円形	18	18	12												付図
SP273	G1	10-53	縄文	不明ピット	円形	34	30	15								○				付図
SP274	G1	10-53	不明	不明ピット	円形	24	20	16												付図
SP275	G1	10-53	不明	不明ピット	円形	12	10	10												付図
SK276	G1	9-53・54	前期	土坑	円形	116	64～	29			○	○								第5図
SP277	G1	10-54	不明	不明ピット	円形	18	16	11												付図
SP278	G1	10-54	不明	不明ピット	長円形	24	16	13												付図
SE279	G1	9・10-54・55	近世	素掘井戸	円形	152	144	41										陶磁器		付図
SD280	G1	9～11-55・56	不明	溝状遺構	溝	450	206	27												付図
SK281	B3	3・4-27	近現代	土坑	円形	280	138	15				○					石匙1・装飾品1	陶磁器		第6図
SK282	B3	4-28・29	不明	土坑	長円形	96	88	22												第6図
SP283	I	13-21	近現代	不明ピット	長円形	36	28	25								○				付図
SP284	B2	5-26・27	中期	不明ピット	円形	32	30	20				○								付図
SP285	B2	5-27	不明	不明ピット	円形	24	20	15												付図
SP286	G2	10-46	不明	不明ピット	円形	52	48	19												付図
SP287	G2	11-46	不明	不明ピット	不明	－	－	－											位置不明	
SX288	G2	10・11-45・46	不明	溝状遺構	溝	288～	95	37									磨石1			付図
SX289	G2	11-44	現代	融雪溝	不整形	－	－	－												付図
SX290	G2	10・11-42～44	不明	落ち込み	円形	476	225～	22				○				○	石皿1			付図
SP291	G2	10-43	不明	不明ピット	円形	56	42	35												付図
SP292	G2	10-43	不明	不明ピット	円形	18	14	8												付図
SP293	G2	10-42	不明	不明ピット	円形	56	50	44			○					○				付図
SP294	G2	11-42	不明	不明ピット	円形	26	26	14												付図
SK295	G2	11-42	近現代	土坑	長円形	188	148	49								○		陶磁器		付図
SP296	G2	10-42	不明	不明ピット	円形	46	42	33												付図
SP297	G2	11-41	不明	不明ピット	円形	32	32	8												第5図
SP298	G2	11-41	不明	不明ピット	円形	46	40	47												第5図
SK299	G2	11-41	後期	土坑	長円形	167	138	24				○		○		○				第5図
SK300	G2	10-41	不明	土坑	円形	128	94～	37										頁岩1		付図
SP301	G2	10-42	不明	不明ピット	円形	14	12	18								○				付図
SP302	G3	11-37	不明	不明ピット	円形	30	28	31												付図
SX303	C2	2～4-34～36	中期	落ち込み	不整形	304～	248～	28	○			○		○		○	石箆1・スクレイパー1	陶磁器・砥石1	SX151と同一？	第8図
SP304	C2	2-33・34	不明	不明ピット	方形	48～	24～	3												付図
SP305	C2	3-34	現代	不明ピット	円形	28	28	28												付図
SP306	C2	3-34	現代	不明ピット	円形	24	22	12												付図
SP307	C2	3-34	不明	不明ピット	円形	54	48	40												付図
SP308	C2	3-34	現代	不明ピット	円形	24	24	19												付図
SP309	C2	4-34	現代	不明ピット	円形	32	26	14												付図
SX310	C2	3-33・34	現代	建物基礎	溝	162	25	11												付図
SK311	C2	3-33・34	不明	土坑	円形	36	32	32												付図
SP312	C2	3-33	不明	土坑	円形	40	36	42												付図
SK313	C2	2・3-33	不明	土坑	不整形	176	69	11								○				付図
SP314	C2	3-33	現代	不明ピット	円形	58	52	30										陶磁器		付図
SX315	C2	3-33	現代	建物基礎	溝	146	22	7												付図
SP316	C2	2・3-33	不明	不明ピット	円形	74	45～	9								○				付図
SP317	C2	3-33	現代	不明ピット	円形	23	23	6												付図
SP318	C2	3-33	不明	不明ピット	円形	20	16	9												付図
SP319	C2	3-32	現代	不明ピット	円形	46	44	25								○				付図

表７　遺構観察表（６）

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長(cm)	最大幅(cm)	深さ(cm)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	石器・石製品	その他	備考	挿図
SK320	C2	2・3-32・33	後期	土坑	円形	88	61～	25						○		○				第６図
SP321	C2	3-33	不明	不明ピット	円形	62	56	55												付図
SP322	C2	3・4-33	現代	不明ピット	円形	34	28	16												付図
SP323	C2	4-33	現代	不明ピット	円形	80	64	20												付図
SP324	C2	4-32	現代	不明ピット	円形	32	32	20								○				付図
SP325	C2	3-32	現代	不明ピット	円形	20	18	7												付図
SP326	C2	3-32	現代	不明ピット	不整形	44	34	14								○			ピット2～3切り合うか？	付図
SP327	C2	3-32	現代	不明ピット	円形	20	20	7												付図
SP328	C2	3-32	現代	不明ピット	円形	24	20	8												付図
SP329	C2	3-32	不明	不明ピット	不整形	63	30	20												付図
SP330	C2	3-32	不明	不明ピット	円形	30	30	15												付図
SP331	C2	3-32	不明	不明ピット	円形	24	20	10												付図
SP332	C2	3-32	不明	不明ピット	不整形	54	44	13												付図
SP333	C2	3-32	不明	不明ピット	円形	34	32	19								○				付図
SP334	C2	3-31	不明	不明ピット	円形	28	20	6.5												付図
SP335	C2	3-31	不明	不明ピット	長円形	50	40	16												付図
SP336	C2	3-31・32	不明	不明ピット	円形	44	42	9	○							○	スクレイパー１・石皿１・磨石１			付図
SP337	C2	不明	不明	不明ピット	不明	－	－	－	○			○				○			位置不明	
SP338	C2	3-31	不明	不明ピット	円形	32	28	11								○				付図
SX339	C2	2・3-31・32	不明	住居跡？	不整形	268	101	8				○			○	○	磨石１		Ｆ１より埋設土器出土。蓋石有り。住居跡？	付図
SX340	C2	4-31・32	現代	建物基礎	方形	608	82	41				○		○		○		頁岩１		付図
SX341	H	11・12-26～29	近現代	風倒木痕	円形	568	354	90	○	○		○		○	○	○	石篦２・スクレイパー３・磨製石斧１・磨石１・凹石１	陶磁器・砥石１		付図
SP342	H	11-26・27	不明	不明ピット	円形	40	36	3								○				付図
SP343	H	12・13-27	不明	不明ピット	円形	52	52	14				○				○	スクレイパー１			付図
SK344	H	13-26・27	前期	土坑	円形	164	60～	34		○										第５図
SP345	H	13-28	不明	不明ピット	円形	60	48	24		○						○				付図
SP346	H	12・13-28・29	不明	不明ピット	長円形	100	68	16												付図
SP347	H	12-29	不明	不明ピット	円形	40	40	10												付図
SK348	H	11・12-29	不明	土坑	不明	－	－	－												付図
SP349	H	12-29	不明	不明ピット	円形	24	24	19								○				付図
SK350	H	11・12-29・30	不明	土坑	不整形	112	112	11								○				付図
SK351	H	10・11-30	近現代	汚水桝？	不整形	200	186	64				○		○			スクレイパー１・磨石１			付図
SP352	H	12・13-30	不明	不明ピット	円形	50	50	17												付図
SP353	H	12-30	不明	不明ピット	円形	44	44	15												付図
SP354	H	11-30・31	不明	不明ピット	円形	36	36	20						○		○				付図
SK355	H	11-30～32	近現代	土坑	長円形	210	154	65	○	○		○		○	○	○	スクレイパー１・凹石２			付図
SK356	H	12・13-30・31	現代	土坑	長円形	282	227	38	○	○		○		○		○	スクレイパー１・磨石１・凹石２	とりべ・陶磁器		付図
SP357	H	12-31・32	不明	不明ピット	円形	34	28	8												付図
SP358	H	12-32	不明	不明ピット	円形	38	36	23								○				付図
SP359	H	12-32	不明	不明ピット	円形	40	34	15												付図
SP360	H	12-32	不明	不明ピット	円形	50	50	27					○			○				付図
SX361	H	12-32	不明	不明ピット	長円形	56	44	6								○				付図
SX362	H	12・13-31・32	縄文	落ち込み？	不整形	134	88	19	○				○				磨製石斧１		遺物はSD184の混入の可能性あり	付図
SP363	H	13-31	不明	不明ピット	長円形	68	24～	15						○						付図

表８　遺構観察表（７）

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長(cm)	最大幅(cm)	深さ(cm)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	石器・石製品	その他	備考	挿図
SK364	H	10～12-32・33	近現代	土坑	不整形	276	240	38	○			○		○		○	スクレイパー１・磨石２・凹石３	頁岩１		付図
SX365	H	11・12-33	不明	落ち込み	不整形	344	204	49	○			○		○						付図
SP366	H	12-33・34	不明	不明ピット	方形	47	31	14												付図
SP367	H	11-34	不明	不明ピット	円形	40	24	17												
SK368	H	10・11-33・34	不明	土坑	円形	108	102	21	○			○				○				付図
SP369	H	10-34	不明	不明ピット	円形	40	34	37												付図
SP370	D1	4-43	不明	柱穴	円形	32	32	18	○							○				付図
SP371	D1	4-44	不明	不明ピット	円形	34	32	18												付図
SP372	D1	5-45	不明	不明ピット	円形	34	32	12												付図
SP373	D1	4-46	不明	不明ピット	円形	36	32	16				○								付図
SP374	D1	4-46	不明	不明ピット	円形	32	32	12												付図
SP375	D1	4-48	不明	不明ピット	長円形	48	38	16												付図
SP376	D1	4-48	不明	不明ピット	円形	20	20	13												付図
SK377	D1	4-48	不明	土坑	円形	68	68	11												付図
SP378	D1	4-48・49	不明	不明ピット	円形	42	36	14												付図
SP379	D1	4-49	不明	不明ピット	円形	28	26	6												付図
SP380	D1	4-49	不明	不明ピット	円形	40	38	32												付図
SP381	D1	5-49	不明	不明ピット	長円形	48	36	19												付図
SP382	D1	4-49	不明	不明ピット	長円形	40	28	34								○				付図
SP383	D1	4-50	不明	不明ピット	円形	28	28	18								○				付図
SP384	D1	4-50	不明	不明ピット	円形	28	24	16												付図
SP385	D1	4・5-49・50	不明	不明ピット	円形	28	24	10												付図
SP386	D1	5-49	不明	不明ピット	円形	40	40	48												付図
SP387	D1	4・5-50	不明	不明ピット	円形	36	36	8												付図
SP388	D1	5-49	不明	不明ピット	円形	48	40	21								○				付図
SP389	D1	5-49	不明	不明ピット	円形	22	22	31								○				付図
SP390	D1	5-49	不明	不明ピット	長円形	58	36	28								○				付図
SK391	D1	5・6-49	不明	土坑	方形	102～	88	27												付図
SP392	D1	5-49	不明	不明ピット	方形	42	24	16												付図
SP393	D1	6-49	不明	不明ピット	円形	24	24	10												付図
SP394	D1	5・6-49	不明	不明ピット	円形	48	46	44				○		○						付図
SP395	D1	5・6-49・50	不明	不明ピット	長円形	62	44	35												付図
SP396	D1	5・6-50	不明	不明ピット	円形	32	30	20												付図
SK397	D1	6-49・50	不明	土坑	不明	82	38～	13												付図
SP398	D1	6-50	不明	不明ピット	長円形	72	44	36												付図
SP399	D1	5-51	不明	不明ピット	円形	46	38	31				○				○				付図
SP400	D1	5-50・51	不明	不明ピット	円形	42	38	41												付図
SP401	D1	5・6-50・51	不明	不明ピット	円形	36	36	7												付図
SP402	D1	4-50	縄文	不明ピット	円形	40	38	33								○				付図
SK403	D1	5・6-53・54	縄文	不明ピット		90	54	24				○	○	○	○	○				付図
SP404	D1	5・6-54	不明	不明ピット	円形	32	28	16								○				付図
SK405	D1	5・6-54・55	不明	土坑	不整形	188	152	20				○	○	○						付図
SK406	H	12・13-32～34	現代	土坑	不整形	256	120	22	○							○	石皿１・磨石４	陶磁器		付図
SP407	H	12・13-34	不明	不明ピット	長円形	40～	28	27												付図
SP408	H	12-34	不明	不明ピット	円形	－	－	－											位置不明	
SP409	H	12-34	不明	不明ピット	円形	－	－	－											位置不明	
SK410	H	12-34・35	現代	土坑	円形	60	44	21						○		○				付図
SK411	J	14-14・15	不明	土坑	円形	80～	76	26												付図
SX412	J	12～14-14	不明	落ち込み	溝	316	110	28								○				付図
SD413	J	12～14-13・14	現代	落ち込み	溝	396	170	32										ビニール		付図
SK414	J	12・13-11・12	中近世	土坑	方形	216	108	29								○		温石２・砥石１		付図
SP415	J	11-14	不明	不明ピット	円形	66	44	35												付図
SK416	J	13・14-9～11	現代	土坑		432	388	101										陶磁器・永楽通宝３・ビニール		付図
SD417	J	13・14-8～11	中世	堀跡	溝		224	68								○		陶磁器		付図
SK418	C2	2・3-33～35	前期	土坑	円形	232	110～	55			○									第５図
SK419	G2	11-43・44	現代	土坑	円形	240	66～	79									石篦２・磨石２・凹石１	陶磁器		付図
SM420	G2	11-43	現代	集石	円形	140	140	－								○	磨製石斧１・磨石１・凹石３			付図

表９　遺構観察表（８）

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長(cm)	最大幅(cm)	深さ(cm)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	石器・石製品	その他	備考	挿図
SM421	C2	3-35	縄文	集石	円形	136	136	－								○	磨石３・石皿１			第８図
SM422	C2	3-36	縄文	集石	円形	64	64	－								○				第８図
SM423	C2	3・4-36	縄文	集石	円形	64	64	－								○	磨石３			第８図
SK424	D2	5・6-40	近現代	土坑		180	144	73								○		陶磁器		付図
SX425	D2	3～6-39・40	不明	落ち込み	不整形	632～	288	8	○	○		○				○				付図
SK426	D2	5-39	近現代	土坑	長円形	116	88	23								○		陶磁器		付図
SX427	D2	4-39	縄文	ローム マウンド	円形	200	168	54	○			○		○		○				付図
SP428	D2	4-38・39	不明	不明ピット	不整形	74	70	21								○				付図
SX429	D2	3-39・40	近現代	落ち込み	不明	－	－	－								○			位置不明	
SX430	D2	3-40	不明	落ち込み	方形	68	28～	16	○			○				○	石核１			付図
SP431	D2	3-39	不明	不明ピット	円形	38	34	12								○				付図
SP432	D2	3-39	不明	不明ピット	不明	－	－	－				○				○	スクレイパー１		位置不明	
SP433	D2	3-39	不明	不明ピット	方形	42～	32	11												付図
SP434	D2	3-39	不明	不明ピット	円形	34	32	16								○				付図
SP435	D2	3-39	縄文	不明ピット	円形	34	16	13											後期以前	第５図
SP436	D2	3-39	不明	不明ピット	長円形	42	28	18								○				第５図
SK437	D2	3-38・39	後期	土坑	円形	102	82	51		○		○		○	○		スクレイパー１・石核１・凹石１			第５図
SP438	D2	3-38	不明	不明ピット	円形	34	32	9												付図
SK439	D2	3-38	縄文	柱穴？	円形	96	92	34		○		○		○		○			アタリ有	第５図
SP440	D2	3-38	不明	落ち込み	不整形	38	16～	7												付図
SP441	D2	3-38	不明	柱穴	円形	48	42	16											アタリ有	
SP442	D2	4-38	不明	柱穴		40	28	13											アタリ有	付図
SK443	D2	3-37	不明	土坑	不整形	50～	28～	64								○	石核１			付図
SK444	D2	3-37	近現代	土坑	不整形	68～	58～	18								○		陶磁器		付図
SP445	D2	3-37	不明	不明ピット	円形	36	34	13								○				付図
SK446	D2	3・4-37・38	不明	土坑	長円形	112	64	27	○							○				付図
EU447	D2	4-37	縄文	土坑	円形	98	54～	10								○				付図
SP448	D2	4-37・38	不明	不明ピット	長円形	30	20	15												付図
SK449	D2	4・5-37・38	不明	土坑	不整形	122	92	22	○			○				○			ピット2～3重なる？	付図
SP450	D2	5-38	不明	不明ピット	円形	20	16	12												付図
SP451	D2	5-37	不明	不明ピット	円形	28	24	8												付図
SP452	D2	5-37	不明	不明ピット	円形	26	22	6												付図
SP453	D2	5-38	不明	柱穴	長円形	44	20	28	○							○			アタリ有	付図
SK454	D2	5・6-37	不明	土坑	長円形	88	56	5											位置不明	
SP455	D2	5・6-37	不明	不明ピット	円形	48	48	26				○				○			位置不明	
SK456	D2	5・6-37・38	近現代	土坑	不明	112～	72～	63								○		陶磁器		付図
SK457	D2	5・6-37～39	近現代	土坑	円形	232	160～	60	○	○						○		陶磁器		付図
SK458	D2	5・6-39	近現代	土坑	円形	88	86	22								○		陶磁器		付図
SP459	D2	5-38	不明	不明ピット	円形	36	32	21		○						○				付図
SP460	D2	3-40	不明	不明ピット	円形	46	40	11												付図
SP461	D2	3-40	不明	不明ピット	方形	34	14～	7												付図
SP462	D2	3・4-40	不明	不明ピット	方形	24～	24	4												付図
SP463	D2	4-39・40	不明	不明ピット	長円形	38	22	18												付図
SP464	D2	4-39	不明	不明ピット	長円形	－	－	－											位置不明	
SK465	D2	3・4-39・40	不明	土坑	長円形	90	64	11								○				付図
SP466	D2	3-39	不明	不明ピット	円形	36	32	35								○				付図
SP467	D2	4-40	不明	杭跡？	円形	22	18	23												付図
SK468	D2	4・5-39・40	不明	土坑	長円形	94	72	34					○			○				付図
SP469	D2	不明	不明	不明ピット	不明	－	－	－											位置不明	

※　最大頂は方角に係らず、見かけの最大長で、最大幅はそれに直交する最大幅である。
※　“～”は切り合い等でそれ以上に範囲が広がるもの、“－”は計測不能を表す。
※　Ⅰ～Ⅷは出土土器の分類である。

V　出土した遺物

今回の発掘調査で出土した遺物は、整理箱で93箱を数える。第Ⅲ章でも述べた通り、その大半は縄文土器及び縄文時代の石器類で占められ、その他中近世の石製品や近現代の陶磁器類などが出土している。以下、縄文時代を中心にその概要を述べる。

1　縄文土器（第９～20図　図版６～15）

出土遺物の大半を占める。時期は早期中葉から後期中葉まで幅広く出土している。小破片が多く、器形の判断できるものは少なかった。文様、胎土などから以下のように８群に大別し、それぞれ細分した。

第Ⅰ群‥貝殻文や角押文を主体とするもので凡そ早期中葉に位置するもの
第Ⅱ群‥結束のない羽状縄文が施文されるもので凡そ前期初頭に位置するもの
第Ⅲ群‥半截竹管による沈線や押引文が施文されるもので凡そ前期中葉から後葉に位置するもの
第Ⅳ群‥貼り付けによる隆線や沈線で渦巻文や曲線文が施文されるもので凡そ中期中葉に位置するもの
第Ⅴ群‥隆帯や沈線でＣ字状文や楕円文が施文されるもので凡そ中期末葉に位置するもの
第Ⅵ群‥鎖状隆線やボタン状貼りつけなどが施されるもの、あるいは沈線により曲線文や渦巻文などが施文されるもので凡そ後期初頭～前葉に位置するもの
第Ⅶ群‥数条の沈線が横走するもの、あるいは磨消縄文により曲線文などが描出されるもので凡そ後期中葉に位置するもの
第Ⅷ群‥上記の分類に含まれないもの、もしくは無文あるいは地文のみのもの

第Ⅰ群（第９・10図　図版６）

貝殻腹縁圧痕文や角押文を主体とするものを一括した。焼成は比較的良好で、にぶい褐色や黄橙色を呈するものが多い。胎土に、石英、雲母を含むのが普通で、一部繊維を含むものもある。ａ類～ｆ類の６類に細分した。

ａ類（第９図１～12　図版６）：頚部でくびれ、口縁部が内弯しながら外傾する深鉢形を呈すると推定される。縦位あるいは斜位の貝殻腹縁圧痕が連続して横位に展開する。胎土には石英や雲母が含まれ、一部粗砂や細砂の目立つもの（２・５・６・８）もある。まれに繊維が混入する（７）。器厚は５～７㎜を測る。焼成は比較的良好である。

ｂ類（第９図13～15　図版６）：深鉢形を呈すると推定される。縦位の貝殻腹縁圧痕が連続して施文され、それに横走、斜走する半截竹管による平行沈線が加えられる。沈線間には刺突が加えられる。胎土には雲母が含まれ、石英や細砂の混入は目立たない。繊維を含むもの(14)もある。器厚は約５㎜を測る。焼成は比較的良好である。

ｃ類（第９図16～19　図版６）：内弯しながら立ち上がり、頚部でくびれ、口縁部が外弯しなが

ら立ち上がる深鉢形を呈するもの(16・17)、深鉢形を呈すると推定されるもの(18・19)がある。細かな貝殻腹縁圧痕が施文される。前者は頸部に隆線が横走し、隆線上部にも貝殻腹縁圧痕が加えられる。後者は隆線あるいは沈線に貝殻腹縁圧痕が伴う。胎土には雲母の他、石英や粗砂を含み(16・17・18)、繊維を微量に含むもの(19)もある。器厚は5～6㎜を測る。焼成は良い。

d類(第9図20～24　図版6)：深鉢形を呈すると推定される。角押文が横走あるいは蛇行する。沈線が伴うもの(20・21)と貝殻腹縁圧痕が伴うもの(23・24)がある。(21)は格子目状沈線が施文される。胎土は雲母を含むもの(20～22)と含まないもの(23・24)とに分けられる。前者は器厚が8～9㎜と比較的厚く、後者は5～6㎜を測る。

e類(第10図25～28　図版6)：深鉢形を呈すると推定される。沈線が横走し、それに半截竹管文乃至角押文が伴う。胎土は粗砂の混入が目立つもの(25・26)と雲母や石英の混入が目立つもの(27・28)とに分け得る。前者は器厚が7㎜と比較的厚い。後者は約5㎜を測る。

f類(第10図29　図版6)：深鉢形を呈すると推定される。横走する沈線に垂下する沈線が伴う。焼成は比較的良好で、胎土に細砂や雲母を含む。内面に炭化物が付着する。器厚は6㎜を測る。

第Ⅱ群(第10図30～38　図版7)

結束のない羽状縄文が施されるものを一括した。深鉢形を呈すると推定される。撚りの違う単節縄文を横位に施文している。胎土には繊維の他、雲母や石英の混入が目立つ。器厚は6～12㎜を測る。

第Ⅲ群土器(第10図　図版8)

半截竹管による沈線や押引文が施されるものを一括した。2類に細分している。

a類(第10図39　図版8)：胴部が膨らみ頸部でくびれ、口縁部がやや外弯しながら外傾する深鉢形を呈する。頸部に半截竹管による沈線が3条横走する。地文は単節ＲＬだが、口縁部の一部に単節ＬＲの施文が見られる。焼成は比較的良好で胎土に粗砂を含む。内面はよく磨かれている。器厚は約11㎜を測る。

b類(第10図40・41　図版8)：胴部が膨らみ、頸部でくびれ、口縁部が外傾するもの(40)と直線的に立ち上がり、波状口縁を呈するもの(41)がある。両者とも深鉢形を呈すると推定される。頸部に押引文が施される。胎土には若干の繊維を含む。器厚は約8㎜を測る。

第Ⅳ群土器(第11・12図　図版7～10)

隆線や沈線で渦巻文や曲線文を描出したものを一括した。全体的に焼成は良好で、胎土に雲母や石英の混入が目立つ。5類に細分している。

a類(第11図42　第12図43～46　図版7・10)：胴部が直線的に立ち上がり、頸部で外弯しながら外傾し、口縁部が内弯する深鉢形を呈する。口縁部に無調整の貼り付けによる隆線で渦巻文や曲線文を描出している。口縁部と頸部は横走する隆線で画される。頸部には数本の沈線が横走する。焼成は良好で、内面は丁寧に磨かれている。胎土は雲母や石英の混入が見られるが全

体的に緻密である。器厚は７～12㎜を測る。

ｂ類(第12図47～51　図版７・10)：ａ類と同様の器形を呈すると推定される。口縁部に調整された貼り付けによる隆線で渦巻文などの文様を描出している。口縁部と頚部は横走する隆線により画され、頚部は無文となる。焼成は良好で、内面は丁寧に磨かれている。ａ類と比べ、胎土に砂の混入が目立つ。器厚は６～10㎜を測る。

ｃ類(第12図52～54　図版７)：深鉢形を呈すると推定される。小型である印象を受ける。沈線により曲線文を描出する。焼成は良好で、胎土に砂や雲母の混入が目立つ。器厚は６～８㎜を測る。

ｄ類(第12図55　図版10)：注口付浅鉢の注口部分である。断面が３角形の隆線により渦巻文を描出している。胎土には砂や雲母の混入が目立つ。器厚は約７㎜を測る。

ｅ類(第11図56　図版８)：底部資料である。網代痕がある。体部には垂下する沈線が施されたと推定される。(42)と同一個体の可能性がある。

第Ⅴ群土器(第13図　図版10)

隆帯や沈線により、Ｃ字状文や楕円文を描出しているもの、あるいは口縁部や区画内に棒状工具による刺突を施すものを一括した。４類に細分している。

ａ類(第13図57・58　図版10)：胴部が膨らみ、頚部でくびれ、口縁部が内弯しながら外傾する深鉢形を呈すると推定される。隆帯により楕円文が描出される。焼成は良好で、内面は丁寧に磨かれている。胎土に砂、雲母、石英の混入が目立つ。器厚は約７㎜を測る。

ｂ類(第13図59～62　図版10)：深鉢形を呈すると推定される。沈線により円形文を描出し、沈線間を磨り消しているもの(59・60)と、区画内に刺突を加えているもの(61・62)がある。両者とも胎土に雲母、石英の混入が見られるが、後者には粗砂の混入が目立つ。器厚は７～10㎜を測る。

ｃ類(第13図63・64　図版10)：やや内弯する波状口縁を呈する。口縁部に棒状工具によるランダムな刺突を施している。胎土には粗砂の混入が目立つ。器厚は５～８㎜を測る。

ｄ類(第13図65・66　図版10)：口縁部がやや内弯する深鉢形を呈するもの(65)と頚部がくの字形に屈曲する浅鉢形を呈するもの(66)がある。口縁部を磨り消し、無文帯としている。後者は頚部に隆線が横走している。焼成は良好で、胎土に雲母や石英の混入が目立つ。器厚は９～10㎜を測る。

第Ⅵ群土器(第13～16図　図版10～13)

隆線や沈線で文様を描出し、それらに刺突や貼り付けが伴うもの、あるいは口縁部が無文となり、体部に隆線、沈線、刺突等の施文がなされるものを一括した。14類に細分している。

ａ類(第13図67・68　図版10)：内弯しながら立ち上がり、口縁部がやや内側に屈曲する浅鉢形を呈するもの(67)と体部が膨らむ壷形を呈するもの(68)がある。前者は横走する隆線から２本１組の隆線が垂下し、交点には棒状工具による刺突が加えられる。後者は前者とほぼ同様だが、

横位の橋状取手がつく。胎土に砂、雲母、石英を含む。器厚は約８㎜を測る。

ｂ類(第13図69・70　図版11)：深鉢形を呈すると推定される。口縁部に竹管状工具による刺突が列点状に加えられる。(70)は波状口縁をなす。胎土に雲母、石英を含む。器厚は(69)が6.7㎜、(70)は11.2㎜と非常に厚い。

ｃ類(第13図71～73　図版12)：深鉢形を呈すると推定される。鎖状隆線が垂下あるいは横走する。隆線の末端にボタン状貼り付けもしくは８の字状貼り付けを加えるもの(71・72)と、隆線で区画した内部に刺突を加えるもの(73)がある。胎土に粗砂の混入が目立つ。器厚は７～9.5㎜を測る。

ｄ類(第14図74～76　図版11)：体部が膨らみ、頚部でくびれ、口縁部がほぼ垂直に立ち上る深鉢形を呈する。口縁部が無文帯になり、頚部を刻み目を持つ隆線がめぐる。口縁部に８の字状の貼り付け文を施すもの(74)とＣ字状貼り付け文を施し、両端に刺突を加え、その間を沈線で連結するもの(75・76)がある。前者の胎土は微量に雲母を含む程度で非常に緻密である。後者は粗砂、雲母、石英を含む。前者の器厚は７～11㎜を測る。後者は８～９㎜を測る。

ｅ類(第13図77・78　図版11)：体部がやや内弯し、口縁部がほぼ垂直に立ち上る深鉢形のもの(77)と頚部が屈曲し、口縁部が直線的に外傾する深鉢形のもの(78)がある。口縁部は無文で、頚部に１～２条の沈線が横走し、体部に沈線による蛇行文などが垂下する。胎土に粗砂、雲母、石英を含む。器厚は８～12㎜を測る。

ｆ類(第15図79～81　図版11)：体部から口縁部までほぼ直線的に立ち上り、波状口縁をなす深鉢形を呈する。口縁をめぐって、２本１組の沈線がめぐり、波状口縁の頂部には指頭痕(79)あるいは円形浮文(81)が施される。体部には波状口縁の頂部から逆Ｖ字形に２本１組の沈線が垂下し、その間に点列が垂下するもの(79・81)と沈線が蛇行しながら垂下するもの(80)がある。後者にはさらに、釣鉤状の磨消縄文に蛇行しながら垂下する沈線が加わる。胎土に粗砂、雲母、石英を含む。器厚は８～11㎜を測る。

ｇ類(第15図82・83　図版11)：器形は不明である。頚部に数条の沈線が横走し、体部には沈線による曲線文が描出される。胎土に粗砂、雲母、石英を含む。器厚は７～８㎜を測る。

ｈ類(第15図84・85　図版11)：体部が膨らみ、頚部で内側に屈曲し、口縁部が内傾する深鉢形を呈する。口縁部が無文で頚部に沈線が横走する。体部には多重連弧文を施す。(84)は横走する沈線間に刺突が加えられ、また体部の多重連弧文の末端には刺突が加えられる。(85)は点列が幾何学的に配されるようだが詳細は不明である。(84)は胎土に粗砂、石英を含み、器厚が11㎜と比較的厚手なのに対し、(85)は胎土に細砂、石英を若干含むが緻密で、器厚は5.4㎜と薄手である。

ｉ類(第15図86～92　図版12)：器形は不明である。壺形(89)が見られる。体部に沈線が横走あるいは垂下し、沈線間にハの字状の刺突が加えられる。胎土は一部に石英が微量に含まれるが、全体的に非常に緻密である。器厚は６～９㎜を測る。

ｊ類(第15図93～96　図版12)：器形は不明である。沈線により渦巻文が描出される。渦巻文には数条の沈線が伴う。胎土に細砂、雲母、石英を含む。器厚は３～10㎜を測る。

k類(第15図97・98　図版12)：体部が膨らむ壺形を呈する。数条の平行沈線間に渦巻文が伴う。注口が付くものもある(98)。前者は胎土に細砂を含む。後者は粗砂、雲母を含む。器厚は5～7㎜を測る。

l類(第14図99・100　図版12)：蓋である。棒状工具による刺突が施されるもの(99)と半截竹管状工具による刺突が施されるもの(100)がある。前者は(74)と同一個体の可能性がある。

m類(第15・16図101～111　図版13)：上記以外のものを一括した。沈線によりスペード文や曲線文等のモチーフが描出されるもの(101～106)、口径部に隆線が横走し、上面あるいは体部側に刺突の伴うもの(107・108)、細い沈線が横走、斜走するもの(109)、頚部でくの字形に屈曲し、口縁部が無文となるもの(110)、浅鉢形を呈し、口縁部に穿孔され、体部が無文となるもの(111)がある。

第Ⅶ群土器(第16図112～116　図版13)

磨消縄文や平行沈線を主体として文様を描出するものを一括した。3類に細分している。

a類(第16図112～114　図版13)：深鉢形を呈すると推定される。口縁部に平行沈線が横走する。沈線間が磨り消されるものもある(113)。胎土に細砂、雲母、石英を含む。器厚は約9㎜を測る。

b類(第16図115　図版13)：器形は不明である。磨消縄文により、曲線文が描出される。胎土に粗砂、雲母、石英を含む。器厚は7㎜を測る。

c類(第16図116　図版13)：体部が膨らみ、内弯しながら立ち上る浅鉢形を呈する。磨消縄文により、円形文、曲線文等の文様が描出される。胎土に細砂、雲母、石英を含む。器厚は7㎜を測る。

第Ⅷ群土器(第16～20図　図版13～15)

無文あるいは地文のみのもの、もしくは上記の分類に含まれないものを一括した。

口縁部に隆線を貼り付けた後、縦位の刻み目を施しているもの(117)、沈線により文様が描出されるもの(120)などがある。また口唇部に撚糸圧痕が施されるもの(129)がある。その他は無文あるいは地文のみが施文されるものである。

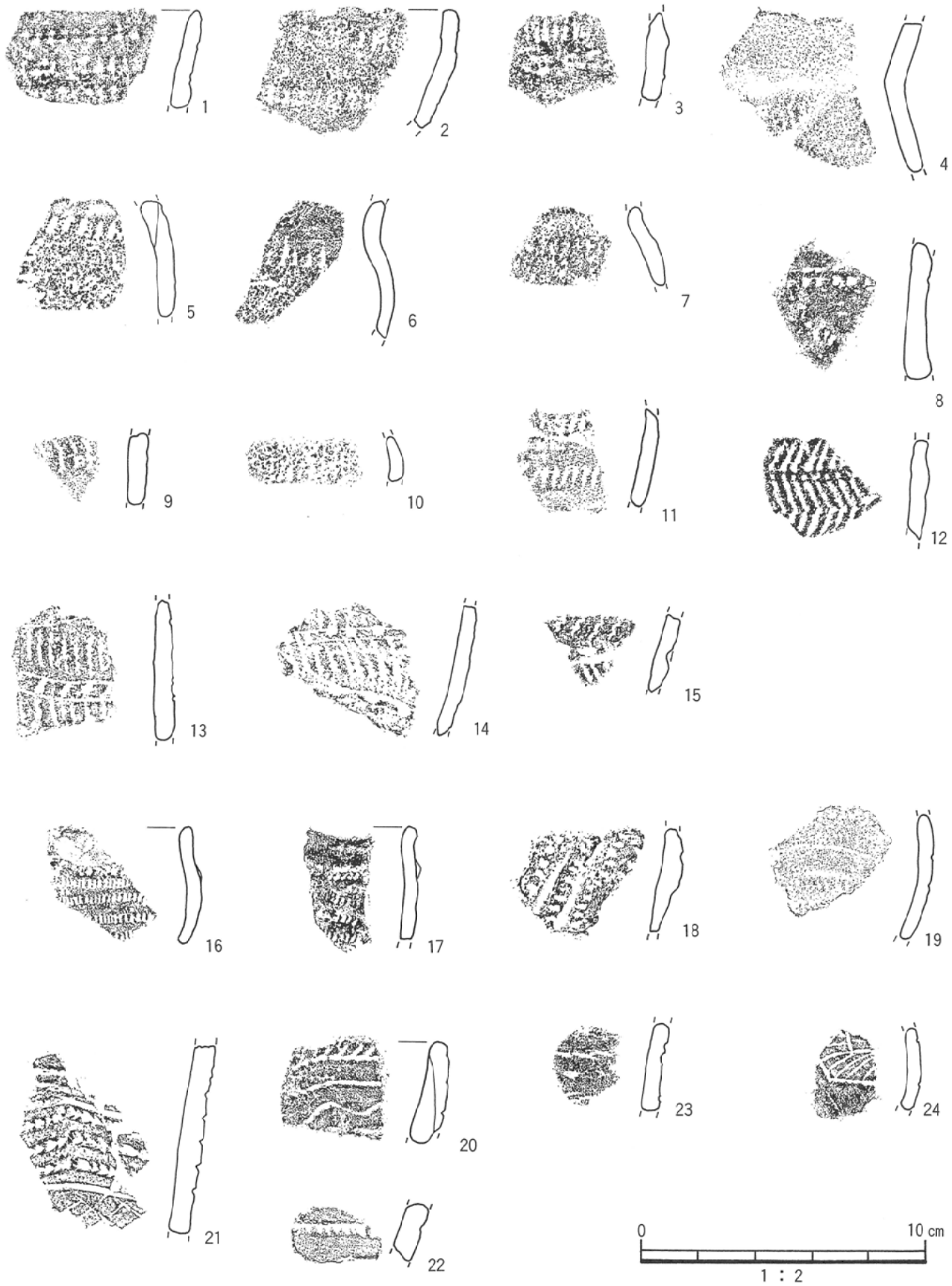
2　土偶・土製品(第20図　図版15)

(135)は土偶の下半身である。共伴する遺物から大木8a式期に比定される。他の部位は出土しなかった。土偶はこの1点のみ出土している。

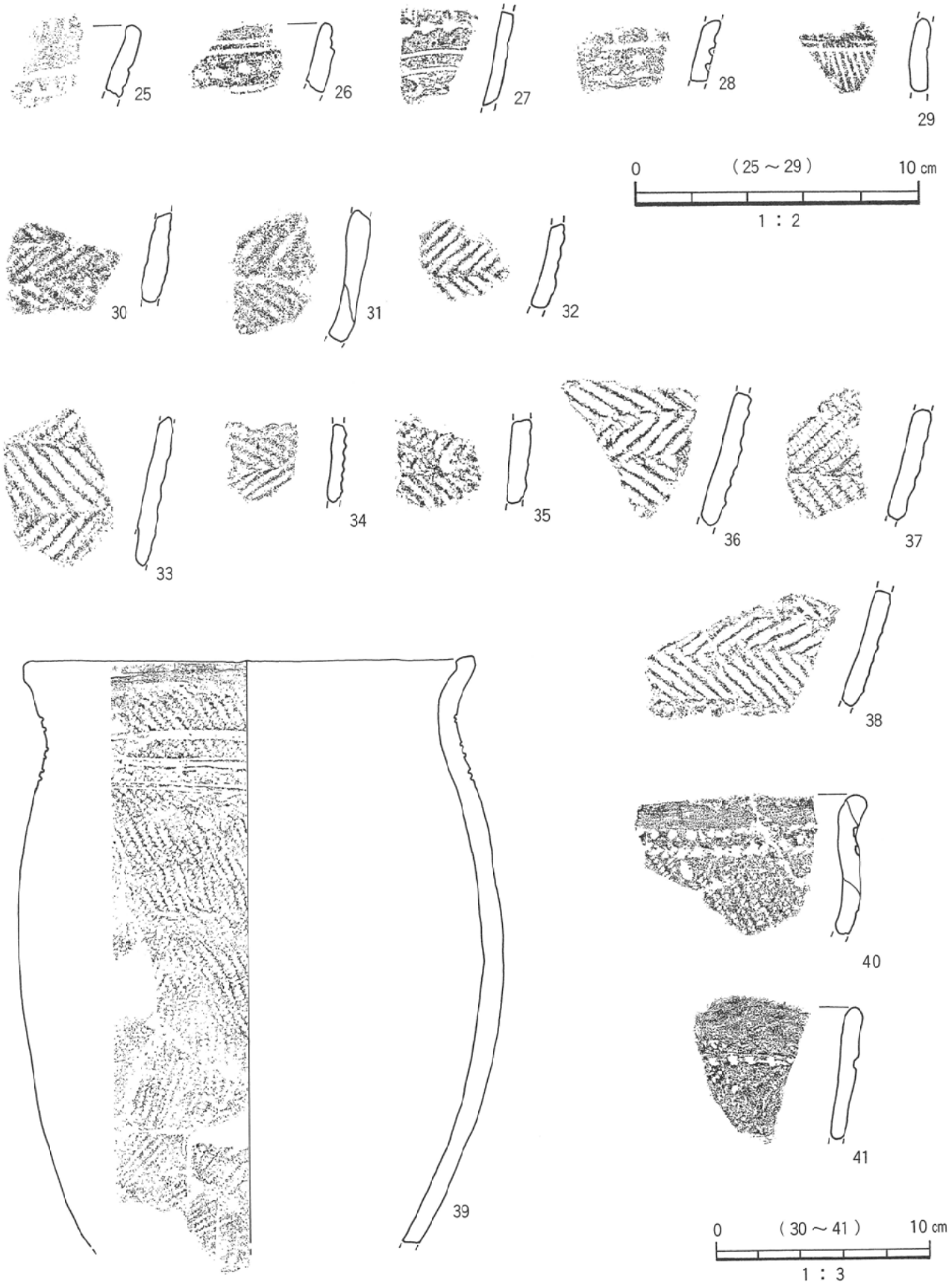
(136)は円盤状土製品である。円を2分するように綾繰文が配される。時期は不明である。

3　その他の土器(第20図　図版26)

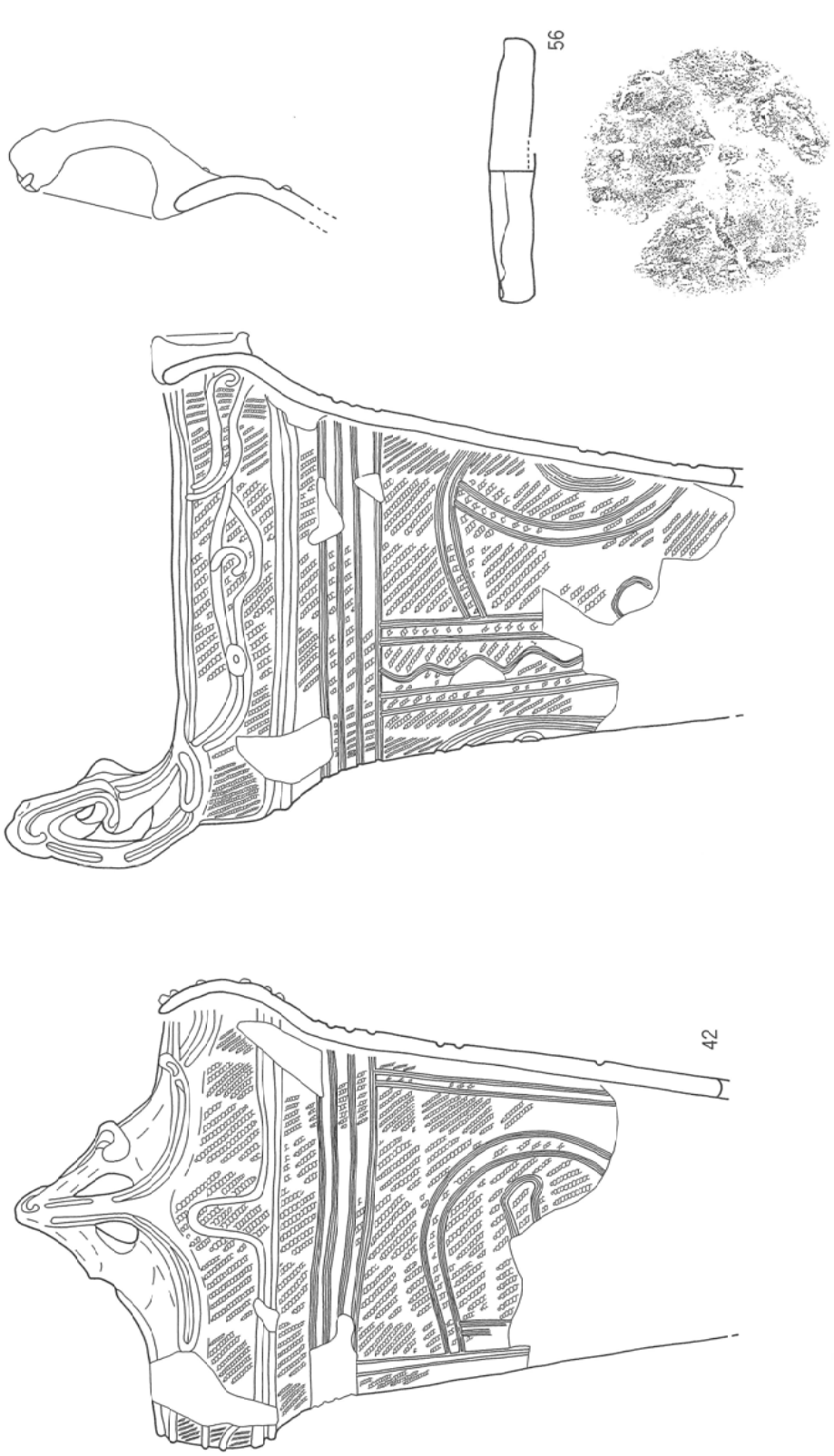
中近世の遺物としてとりべが1点出土している(137)。



第９図　第Ｉ群土器（１）



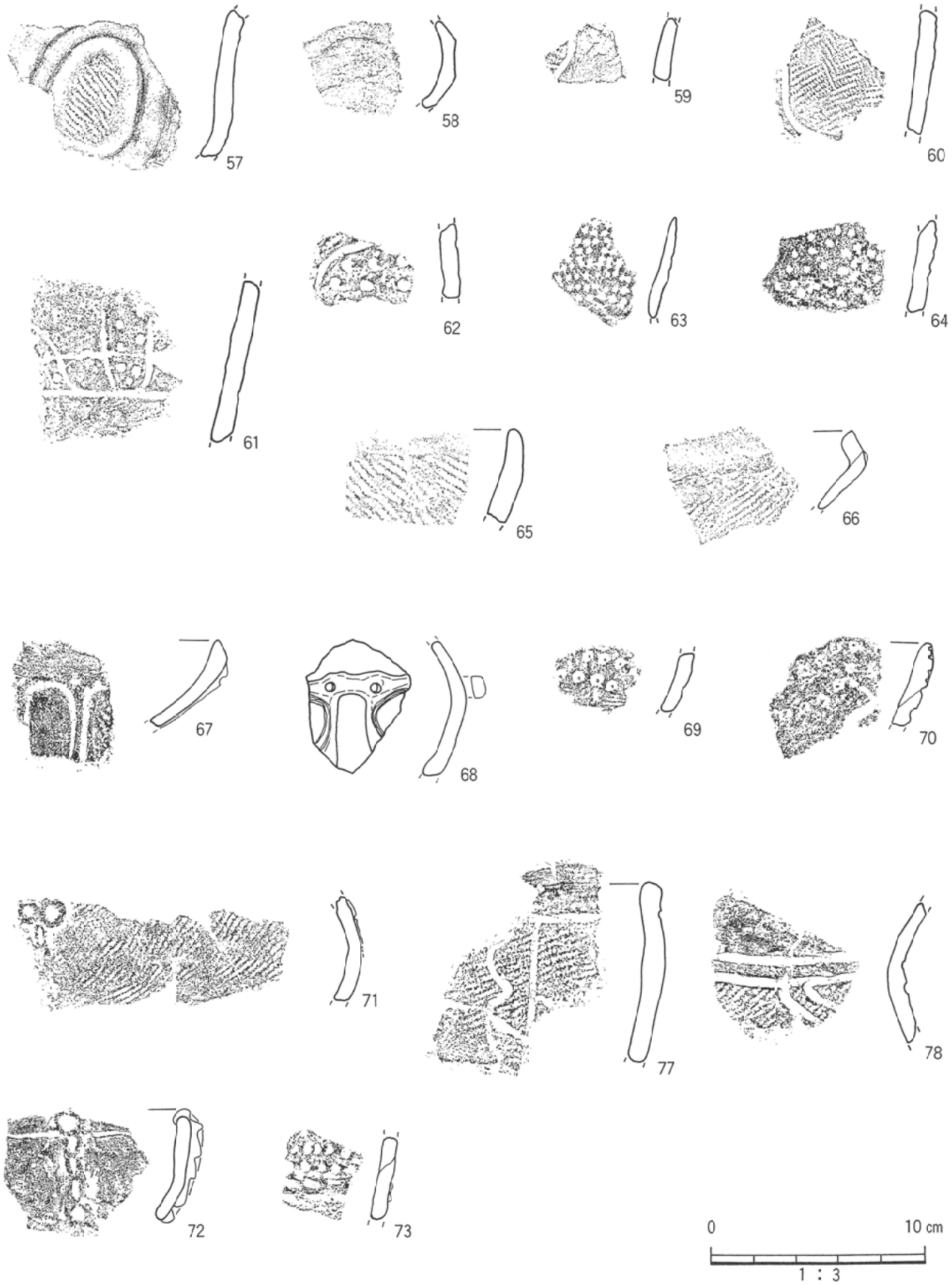
第10図　第Ⅰ群土器(2)・第Ⅱ群土器・第Ⅲ群土器



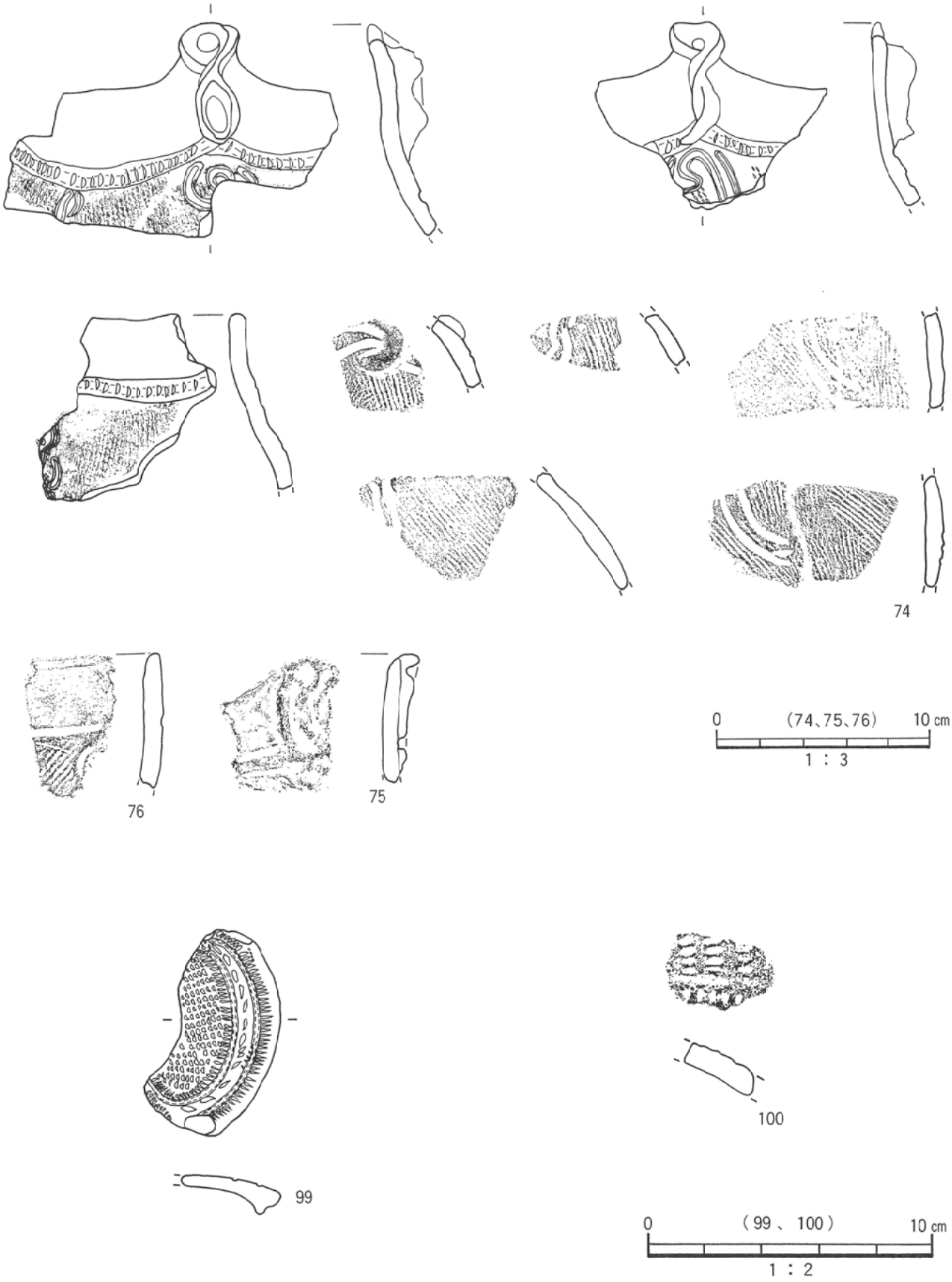
第11図　第Ⅳ群土器（1）

43
44
45
46
47
48
49
50
53
54
52
0 （43～50、52～54）10 cm
1：3
51
55
0 （51、55） 10 cm
1：2

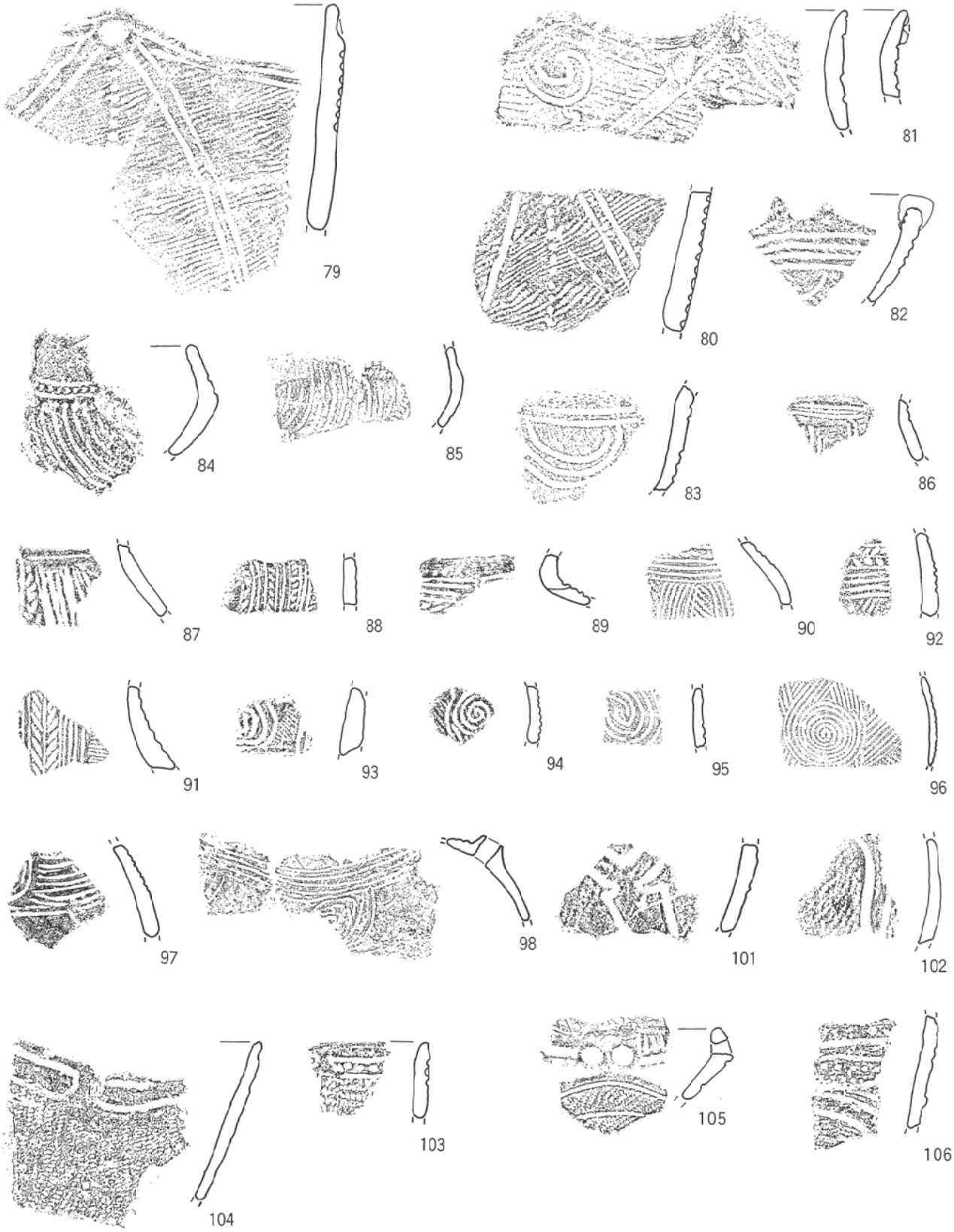
第12図　第Ⅳ群土器（2）



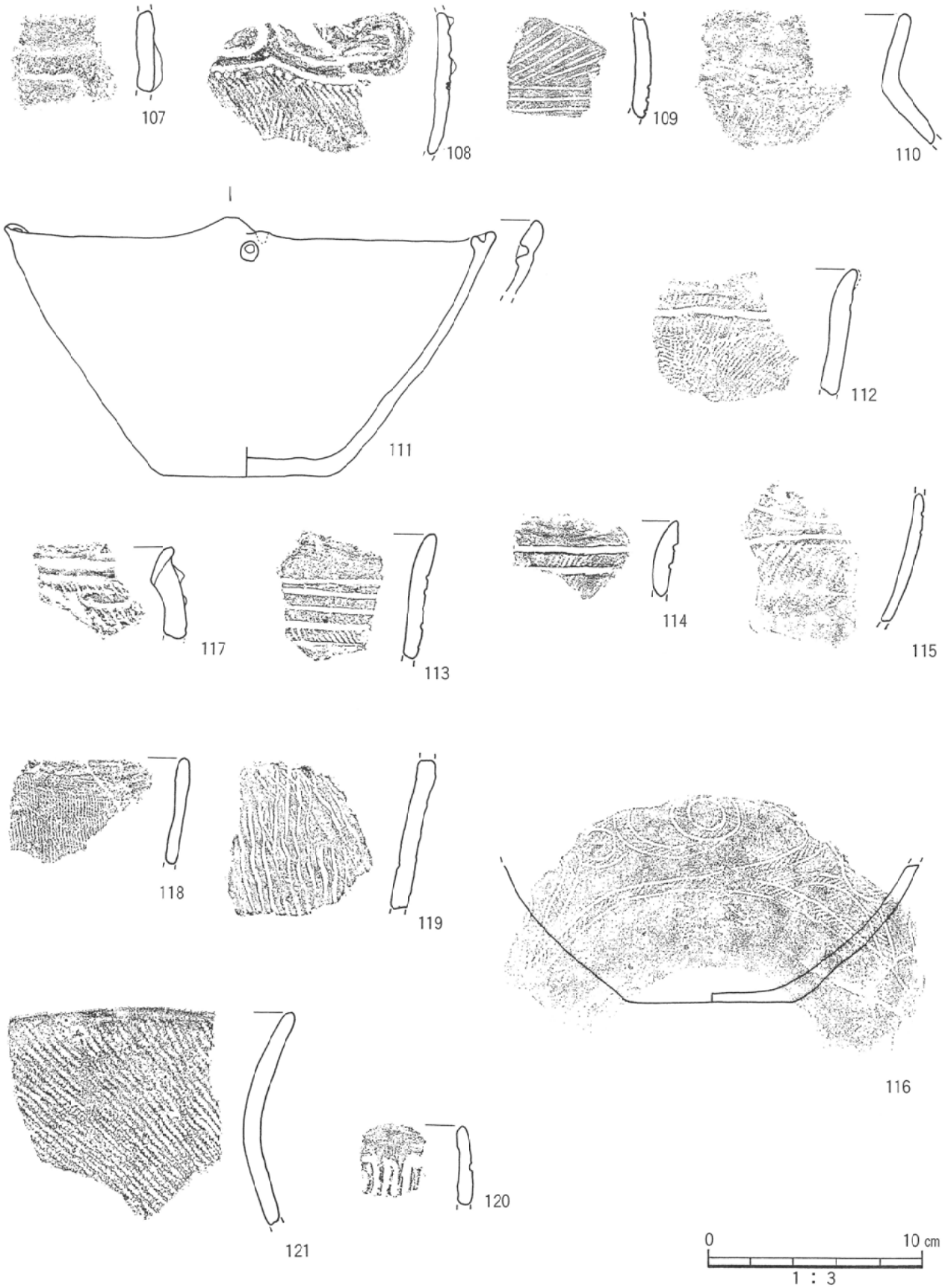
第13図　第Ⅴ群土器・第Ⅵ群土器（１）



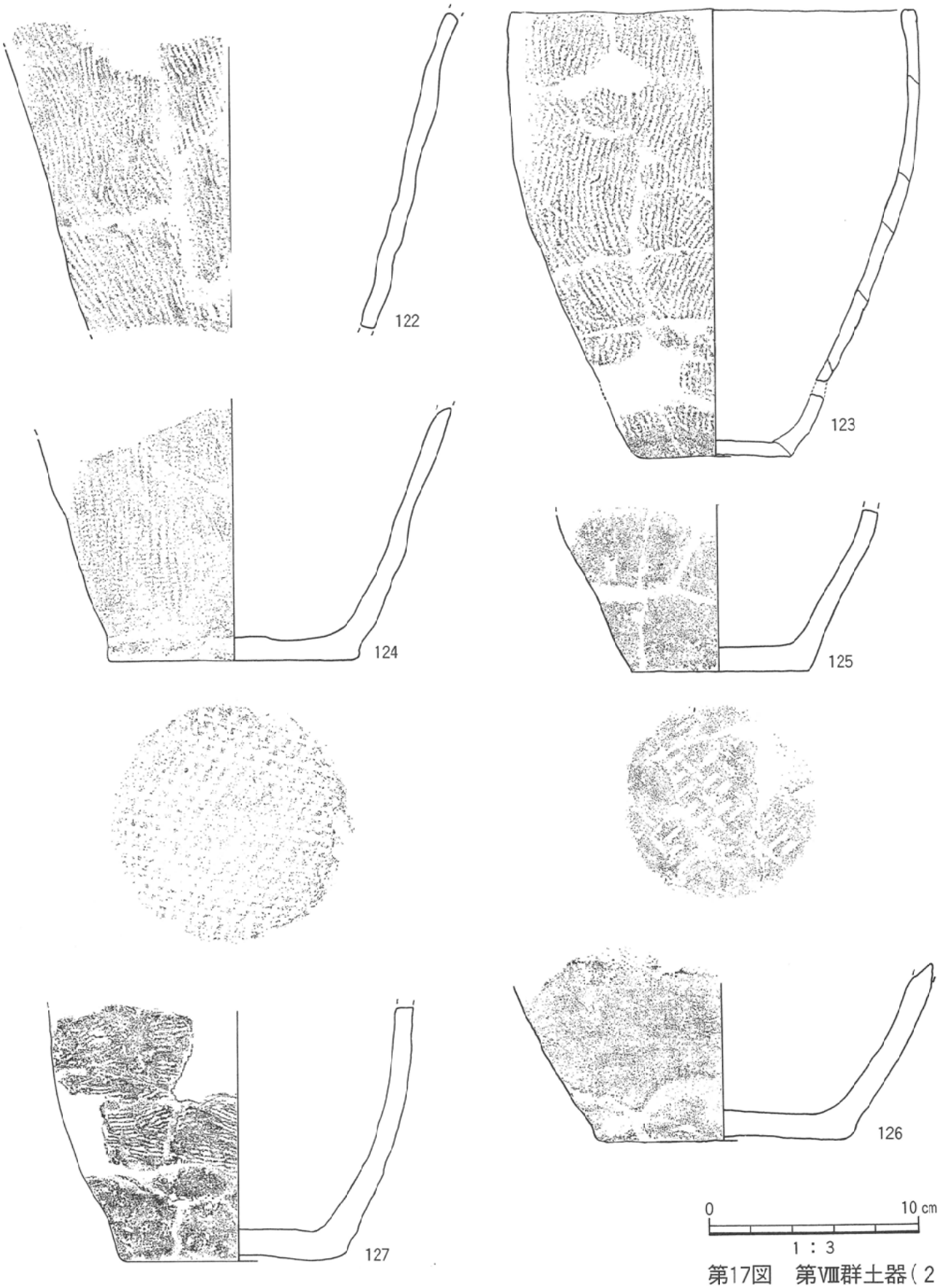
第14図　第Ⅵ群土器（２）


79
81
80
82
84
85
83
86
87
88
89
90
92
91
93
94
95
96
97
98
101
102
104
103
105
106
0
10 cm
1 : 3

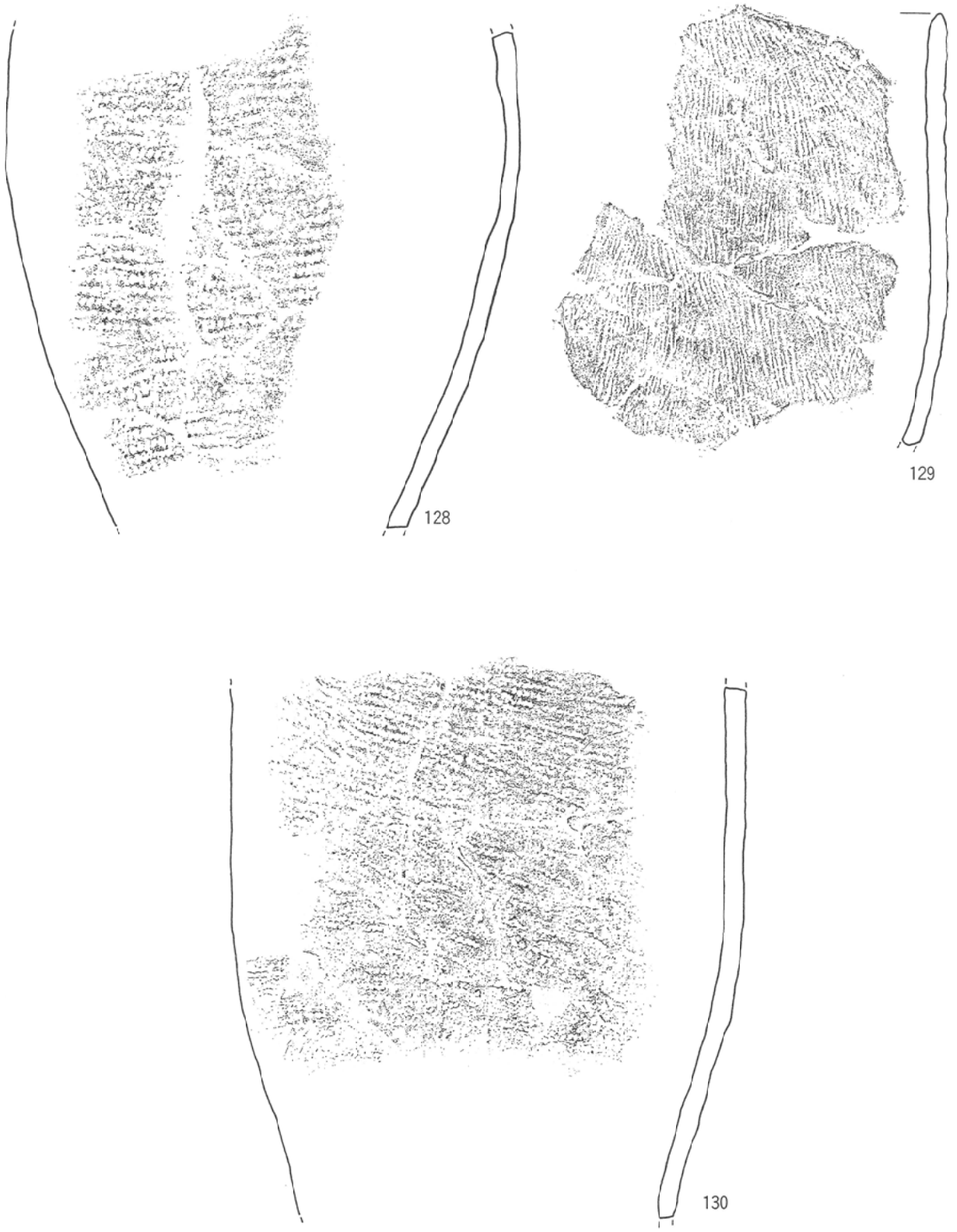
第15図　第Ⅵ群土器（３）



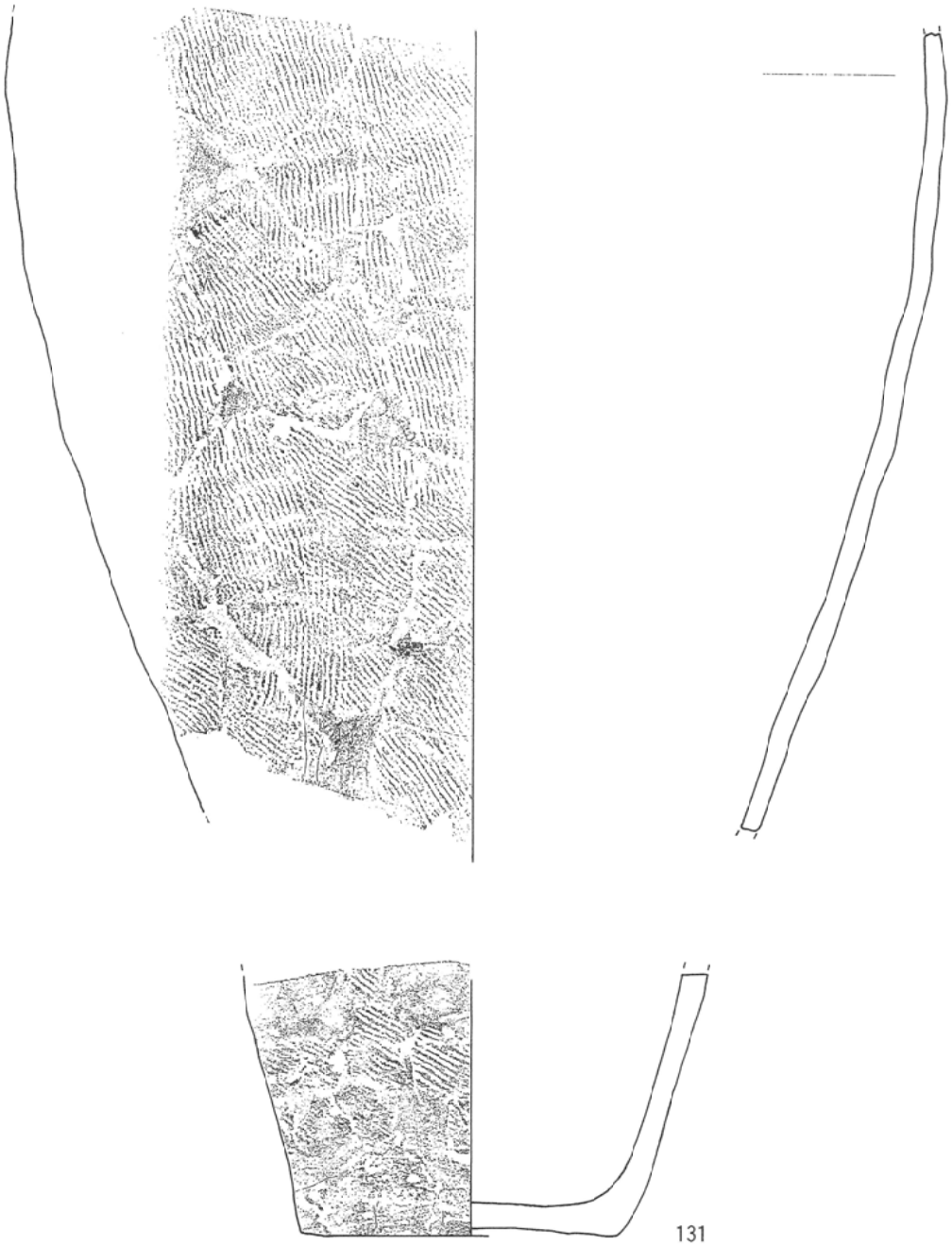
第16図　第Ⅵ群土器（４）・第Ⅶ群土器・Ⅷ群土器（１）



第17図　第Ⅷ群土器（２）

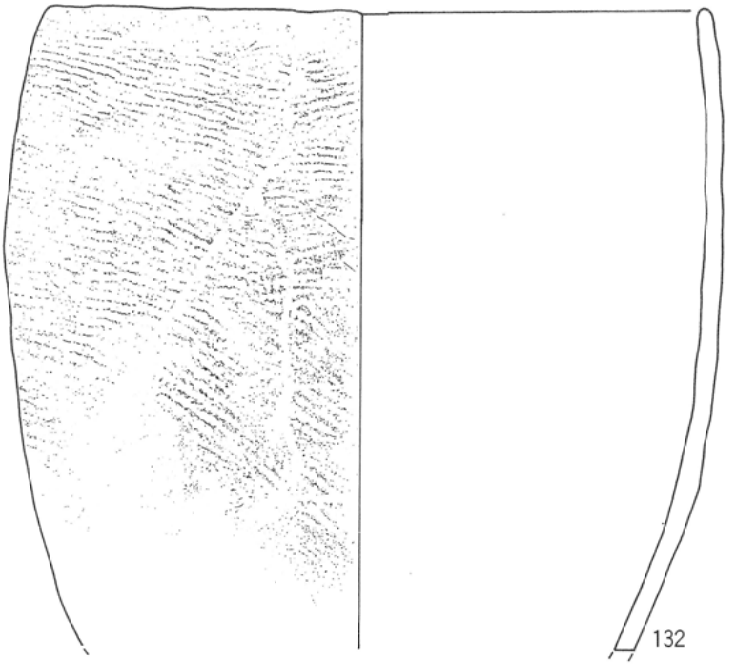


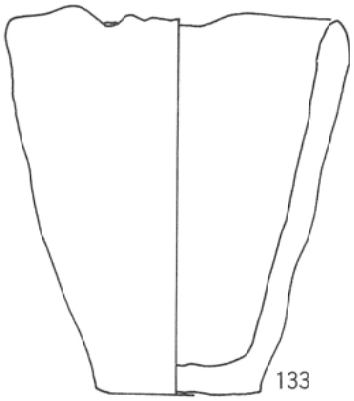
第18図　第Ⅷ群土器（３）



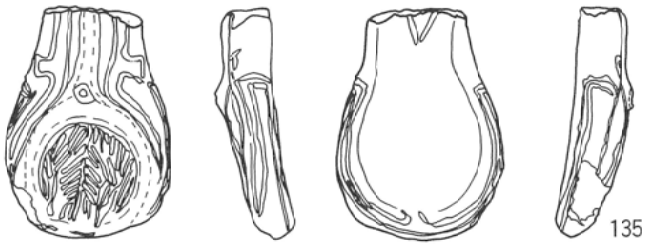
0　10 cm
1：3

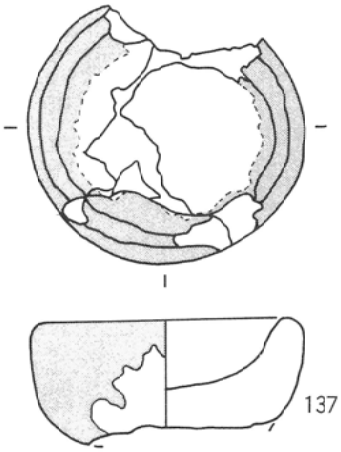
第19図　第Ⅷ群土器（４）

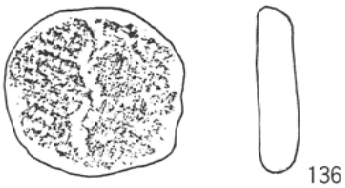




0 （132、133、134） 10 cm
1：3







0 （135、136、137） 10 cm
1：2

第20図　第Ⅷ群土器（５）・土偶・土製品・その他の土器

表10　縄文土器観察表（１）

No	遺構番号	分類	器形	遺存状態	口径(mm)	頚径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	器厚(mm)	地文	施文方向	文様等	特記事項	挿図	図版
1	ＳＸ３４１	Ｉａ	深鉢形	口縁部						5.1			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
2	ＳＫ３３６	Ｉａ	深鉢形	口縁部						6.0			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
3	ＳＫ３６４	Ｉａ	深鉢形	体部						6.9			貝殻腹縁圧痕(縦位)	口縁部の可能性あるが、摩滅で不明	9	6
4	ＳＫ３６４	Ｉａ	深鉢形	体部						7.3			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
5	Ｈ区	Ｉａ	深鉢形	体部						6.5			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
6	Ｈ区	Ｉａ	深鉢形	頚部						5.8			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
7	Ｈ区	Ｉａ	深鉢形	体部						6.0			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
8	ＳＸ４２７	Ｉａ	深鉢形	体部						7.0			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
9	ＳＫ１２３	Ｉａ	深鉢形	体部						7.0			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
10	ＳＸ３６２	Ｉａ	深鉢形	体部						6.0			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
11	ＳＸ４２５	Ｉａ	深鉢形	体部						6.0			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
12	Ｇ１区	Ｉａ	深鉢形	体部						6.0			貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
13	ＳＸ３０３	Ｉｂ	深鉢形	体部						5.3			平行沈線(半截竹管)＋刺突(棒状工具)＋貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
14	Ｄ２区	Ｉｂ	深鉢形	体部						5.0			平行沈線(半截竹管)＋刺突(竹管状工具)　＋貝殻腹縁圧痕(縦位)		9	6
15	ＳＸ１５１	Ｉｂ	深鉢形	体部						5.0			貝殻腹縁圧痕(斜位：ハの字状)＋刺突(棒状工具)		9	6
16	Ｃ１区	Ｉｃ	深鉢形	口縁部						5.0			磨消＋隆線(上面に貝殻腹縁圧痕)		9	6
17	Ｃ１区	Ｉｃ	深鉢形	口縁部						6.0			磨消＋隆線(上面に貝殻腹縁圧痕)	炭化物(内外面)	9	6
18	ＳＫ３６８	Ｉｃ	深鉢形	体部						6.4			隆線(調整)＋貝殻腹縁圧痕(横位)		9	6
19	Ｈ区	Ｉｃ	深鉢形	体部						5.0			沈線＋貝殻腹縁圧痕(縦位)	炭化物(内面)	9	6
20	Ｈ区	Ｉｄ	深鉢形	口縁部						9.0			角押文＋刻み目		9	6
21	Ｂ２区	Ｉｄ	深鉢形	体部						8.0			沈線＋角押文＋格子目状沈線		9	6
22	ＳＫ４５７	Ｉｄ	深鉢形	体部						8.0			角押文		9	6
23	ＳＸ１５８	Ｉｄ	深鉢形	体部						5.8			角押文＋貝殻腹縁圧痕(斜位)		9	6
24	ＳＫ１	Ｉｄ	深鉢形	体部						5.0			角押文＋貝殻腹縁圧痕		9	6
25	ＳＫ４０６	Ｉｅ	深鉢形	口縁部						7.0			沈線＋刻み目＋刺突(角のある工具)		10	6
26	ＳＫ１１９	Ｉｅ	深鉢形	口縁部						7.0			平行沈線(半截竹管)＋刺突(棒状工具)		10	6
27	ＳＫ５１	Ｉｅ	深鉢形	体部						5.0			刺突(竹管状工具)＋平行沈線(半截竹管)		10	6
28	ＳＫ３５６	Ｉｅ	深鉢形	体部						5.8			沈線＋貝殻腹縁圧痕(縦位)＋刺突(棒状工具)		10	6
29	ＳＰ４４	Ｉｆ	深鉢形	体部						6.0			平行沈線(半截竹管)	炭化物(内面)	10	6
30	ＳＸ３４１	Ⅱ	深鉢形	体部						12.0	単節ＲＬ・ＬＲ	横	結束のない羽状縄文		10	7
31	ＳＸ３４１	Ⅱ	深鉢形							10.0	斜縄文	横	結束のない羽状縄文		10	7
32	ＳＫ３４４	Ⅱ	深鉢形	体部						9.0	無節Ｒ・Ｌ	横	結束のない羽状縄文		10	7
33	Ｈ区	Ⅱ	深鉢形	体部						8.0	単節ＲＬ・ＬＲ	横	結束のない羽状縄文		10	7
34	ＳＸ３４１	Ⅱ	深鉢形	体部						6.0	無節Ｒ・Ｌ	横	結束のない羽状縄文		10	7
35	ＳＫ３５５	Ⅱ	深鉢形	体部						11.0	単節ＲＬ・ＬＲ	横	結束のない羽状縄文		10	7
36	ＳＰ４５９	Ⅱ	深鉢形	体部						11.0	単節ＲＬ・ＬＲ	横	結束のない羽状縄文	炭化物(内面)	10	7
37	Ｈ区	Ⅱ	深鉢形	体部						10.5	０段多条(３本)単節ＲＬ・ＬＲ	横	結束のない羽状縄文		10	7
38	ＳＫ４３９Ｆ２	Ⅱ	深鉢形	体部						9.0	単節ＲＬ・ＬＲ	横	結束のない羽状縄文		10	7

表11　縄文土器観察表（２）

No	遺構番号	分類	器形	遺存状態	口径(mm)	頸径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	器厚(mm)	地文	施文方向	文様等	特記事項	挿図	図版
39	ＳＫ４１８Ｙ	Ⅲａ	深鉢形	底部欠損・略完形	237.0	221.0	256.0		(208.0)	10.7	単節ＬＲ(口縁部の一部)・単節ＲＬ	横 斜め	平行沈線(半截竹管)	ＲＰ21	10	8
40	ＳＫ２７６	Ⅲｂ	深鉢形	口縁部・体部	(172.0)	(140.0)				8.3	単節ＲＬ	横	押引文(半截竹管背面)	炭化物(外面)	10	8
41	ＳＰ２９３	Ⅲｂ	深鉢形？	口縁部						8.0	単節ＬＲ	横	押引文(棒状工具)		10	8
42	ＳＫ１２３Ｆ２	Ⅳａ	深鉢形	底部欠損。略完形。	195.0				(245.0)	7.0	単節ＬＲ	縦	口縁部：隆線(無調整：Ｓ字状文)＋貼付(ボタン状、釣鉤状)＋装飾突起 頸部：沈線　体部　沈線(渦巻文)	56と同一固体の可能性あり。炭化物(口縁部外面)ＲＰ10	11	9
43	ＳＫ２８１Ｆ１	Ⅳａ	深鉢形	口縁部						12.0			隆線(調整：不整形、楕円形)	ＲＰ15	12	10
44	ＳＸ９８	Ⅳａ	深鉢形	口縁部						9.0	単節ＬＲ？	縦	隆線(無調整)	炭化物(内面)	12	7
45	ＳＸ３４１	Ⅳａ	深鉢形	口縁部						10.0	単節斜縄文		貼付(逆Ｕ字形、上面に沈線)＋隆線(無調整)		12	7
46	ＳＸ３４１	Ⅳａ	深鉢形	体部						9.0	単節ＬＲ	縦	隆線(調整)		12	7
47	ＳＸ３０３	Ⅳｂ	深鉢形	口縁部						6.0	単節ＬＲ	横	隆線(調整：渦巻文)		12	7
48	ＳＸ３０３	Ⅳｂ	深鉢形	口縁部						10.7	単節ＲＬ	横	隆線(調整：渦巻文)	炭化物(内面)	12	7
49	ＳＸ３０３	Ⅳｂ	深鉢形	口縁部						6.8	単節ＬＲ	縦	沈線(渦巻文)		12	7
50	ＳＫ１２３	Ⅳｂ	深鉢形	頸部						9.2	複節ＲＬＲ	斜め	磨消＋隆線(調整)		12	7
51	ＳＫ１２３Ｆ３	Ⅳｂ	深鉢形	体部・底部				54.0		6.7	単節ＬＲ	縦	隆線(調整)＋沈線(蛇行)　底部網代痕	漆(内面)ＲＰ14	12	10
52	Ｈ区	Ⅳｃ	深鉢形	口縁部・頸部・体部	(210.0)					6.0	単節ＬＲ	縦	貼付(Ｕ字形、ボタン状)＋沈線＋刺突	炭化物(内面)	12	7
53	ＳＰ１２７	Ⅳｃ	深鉢形	口縁部						7.0	単節ＲＬ	縦	沈線	炭化物(内面)	12	7
54	ＳＫ１２３	Ⅳｃ	深鉢形	体部						7.6	単節ＬＲ	縦	沈線(Ｓ字状)		12	7
55	ＳＸ４２７	Ⅳｄ	注口土器	口縁部						7.0			隆線(断面三角形：渦巻文)		12	10
56	ＳＫ１２３Ｆ３	Ⅳｅ	深鉢形？	底部				106.0					沈線　底部網代痕	130と同一固体の可能性高い。ＲＰ７・８	11	8
57	ＳＤ１８４	Ⅴａ	深鉢形	体部						9.0	単節ＬＲ	縦	隆帯(楕円文)＋磨消		13	10
58	ＳＸ３６２	Ⅴａ	不明	体部						7.0	単節斜縄文		隆帯＋磨消		13	10
59	ＳＰ３６０	Ⅴｂ	不明	体部						7.4	単節斜縄文		沈線＋磨消		13	10
60	ＳＫ１２３Ｆ１	Ⅴｂ	深鉢形	体部						10.0	単節ＲＬ	縦・横	沈線(楕円文)＋磨消(沈線間)		13	10
61	ＳＫ１２３Ｆ１	Ⅴｂ	深鉢形	体部						10.0			沈線(Ｃ字状？)＋刺突(棒状工具：区画内充填)＋磨消		13	10
62	ＳＫ４０５	Ⅴｂ	不明	体部						10.0			沈線＋刺突(棒状工具：区画内充填)		13	10
63	ＳＰ４６８	Ⅴｃ	深鉢形	口縁部						5.0			刺突(棒状工具)		13	10
64	ＳＤ１８４	Ⅴｃ	不明	口縁部						8.6			刺突(棒状工具)	下方に輪積みの痕跡有り。三脚土製品？	13	10
65	Ｂ２区	Ⅴｄ	深鉢形	口縁部体部						10.0	単節ＲＬ	横	磨消	炭化物(内面)	13	10
66	ＳＫ１	Ⅴｄ	浅鉢形	口縁部						9.0	単節ＲＬ	斜め	磨消＋隆線(あまり顕著でない)	炭化物(外面)	13	10
67	ＳＫ１	Ⅵａ	浅鉢形	口縁部						7.8	単節ＬＲ？	縦	隆帯(調整：交点に刺突)＋磨消	炭化物(口唇部)	13	10
68	ＳＫ３５５	Ⅵａ	壷形	体部						8.0	単節斜縄文		隆帯(調整：交点に刺突)＋橋状取手(横位)		13	10
69	ＳＫ１２３Ｆ１	Ⅵｂ	深鉢形	体部						6.7	単節ＬＲ	斜め	刺突(竹管状工具)		13	10
70	ＳＸ３４１	Ⅵｂ	深鉢形	口縁部						11.2			刺突(竹管状工具)＋沈線(竹管状工具？)		13	10
71	ＳＫ２３８	Ⅵｃ	深鉢形	体部						7.0	0段多条(0段3本？)のＬＲ	横	隆線(無調整：連鎖状)＋貼付(８の字状)	炭化物(内面)	13	12

表12　縄文土器観察表（３）

No	遺構番号	分類	器形	遺存状態	口径(mm)	頸径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	器厚(mm)	地文	施文方向	文様等	特記事項	挿図	図版
72	C１区	Ⅵc	不明	口縁部						8.0			沈線＋隆線(無調整：連鎖状)＋貼付(ボタン状)沈線	炭化物(口縁部外面)	13	12
73	SX365	Ⅵc	深鉢形	体部						9.5	単節斜縄文		隆線(調整：連鎖状)＋刺突	炭化物(外面)	13	12
74	SX341	Ⅵd	深鉢形	口縁部・体部	(198.0)					7.8～11.0	撚糸R	縦 斜め	磨消＋貼付(８の字状)＋隆線(調整：上面に刻み目)＋沈線	92の蓋とセット？	14	11
75	SK355	Ⅵd	深鉢形	口縁部						8.0			磨消＋貼付(上面にスリットを入れ、末端に刺突)＋隆線(調整)		14	12
76	SK195	Ⅵd	深鉢形	口縁部体部						9.0	単節LR	横	磨消＋沈線(C字状：末端に刺突)＋沈線		14	12
77	SK166	Ⅵe	深鉢形	口縁部・体部						12.0	単節LR	横	磨消＋沈線	炭化物(外面)	13	11
78	SK351	Ⅵe	深鉢形	体部						8.6	単節LR	横	磨消＋沈線	炭化物(内面)	13	11
79	C１区	Ⅵf	深鉢形	口縁部・体部	(270.0)					9.5	単節LR	斜め	平行沈線＋磨消(口縁部、沈線間)＋指頭痕(波頂部)＋刺突	炭化物(口縁部外面)	15	11
80	SX341	Ⅵf	深鉢形	体部						11.0	単節RL	斜め	沈線＋刺突	炭化物(外面)	15	11
81	I区	Ⅵf	深鉢形	口縁部	(200.0)					8.3	単節LR	斜め	磨消(口縁部、沈線間)＋ボタン状貼付(中心部に刺突)＋沈線(C字状、蛇行)		15	11
82	SK403	Ⅵg	浅鉢形？	口縁部						8.0	単節斜縄文(RL？)	斜め	沈線＋刺突(抓み部分)	炭化物(外面)	15	11
83	SX149	Ⅵg	不明	体部						7.6	無節R撚糸文	斜め	沈線		15	11
84	SX167	Ⅵh	深鉢形	口縁部						11.0			平行沈線＋沈線(多重連弧文)＋刺突(平行沈線間、多重連弧文末端)	炭化物(内面)	15	11
85	H区	Ⅵh	不明	体部						5.4			沈線(多重連弧文)＋刺突	炭化物(内面)	15	11
86	SX341	Ⅵi	深鉢形？	体部						6.0	単節LR	斜め	沈線＋磨消(沈線間)		15	12
87	SX341	Ⅵi	深鉢形？	体部						7.0			沈線＋刺突(ハの字状？)		15	12
88	B２区	Ⅵi	不明	体部						7.0			沈線＋刺突	蓋？	15	12
89	A区	Ⅵi	壷形	体部						7.3			沈線＋刺突(ハの字状？)		15	12
90	SK405	Ⅵi	不明	体部						6.5	単節LR	縦	沈線		15	12
91	SX341	Ⅵi	不明	体部						8.8	無節L(rが太さ異なる)	斜め	沈線＋刺突(ハの字状)		15	12
92	SX341	Ⅵi	不明	体部						7.7			沈線＋刺突(ハの字状)		15	12
93	SP266	Ⅵj	不明	体部						10.5	無節LR	縦	沈線(渦巻文)		15	12
94	SD184	Ⅵj	不明	体部						6.0	単節斜縄文	斜め	沈線(渦巻文)		15	12
95	SD184	Ⅵj	不明	体部						6.0			沈線(渦巻文)		15	12
96	SD184	Ⅵj	不明	体部						3.0	単節LR	斜め	沈線(渦巻文)		15	12
97	SX341	Ⅵk	壷形	体部						7.3			沈線(渦巻文)		15	12
98	SD184	Ⅵk	注口土器	体部						5.7			沈線(渦巻文)	炭化物(外面)	15	12
99	SX341	Ⅵl	蓋	約1/2	(176.0)					8.0			沈線＋刺突		14	12
100	C１区	Ⅵl	蓋							8.8			沈線＋刺突(半截竹管)		14	12
101	SK355	Ⅵm	深鉢形	体部						7.3	単節LR	斜め	沈線(内部磨消：スペード文)		15	13
102	SK166	Ⅵm	深鉢形	体部						6.7	単節LR	横	沈線＋磨消(沈線間)		15	13
103	SX341	Ⅵm	深鉢形	口縁部						7.1	単節LR	斜め	沈線＋刺突(沈線間)		15	13
104	SK437F4	Ⅵm	深鉢形	口縁部体部						6.2	単節RL	斜め	沈線	炭化物(内面)	15	13
105	SK299	Ⅵm	浅鉢形	口縁部						7.7	単節LR	横	沈線＋穿孔	炭化物(外面)	15	13
106	SP129	Ⅵm	不明	体部						6.5	単節斜縄文		隆線(調整)＋刺突		15	13
107	D１区	Ⅵm	深鉢形	体部						10.0	単節斜縄文		隆線(上面に刺突)		16	13
108	SX151	Ⅵm	深鉢形	口縁部						7.0	0段多条のRL	横 斜め	隆線(調整)＋刺突		16	13

表13　縄文土器観察表（４）

No	遺構番号	分類	器形	遺存状態	口径(mm)	頚径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	器厚(mm)	地文	施文方向	文様等	特記事項	挿図	図版
109	ＳＫ４０５	Ⅵｍ	不明	体部						8.0			沈線	炭化物(内面)	16	13
110	ＳＫ３５１	Ⅵｍ	深鉢形	口縁部						9.0	網目状撚糸文ｒ？		磨消(口縁部)		16	13
111	ＳＰ３６３	Ⅵｍ	浅鉢形	略関係	254.0			90.0	136.0	6.0			穿孔　底部無文		16	13
112	ＳＫ４０３	Ⅶａ	深鉢形	口縁部						9.0	撚糸ｒ	斜め	沈線		16	13
113	Ｄ１区	Ⅶａ	深鉢形	口縁部						9.0	無節Ｌ	縦	沈線		16	13
114	Ｄ１区	Ⅶａ	深鉢形	口縁部						9.3	無節Ｒ	縦	沈線	炭化物(外面)	16	13
115	ＳＫ３５５	Ⅶｂ	深鉢形	体部						7.0	単節ＬＲ	縦	磨消	赤色染料(内面)	16	13
116	ＳＸ３３９Ｆ１	Ⅶｃ	浅鉢形	体部 底部				90.0		7.0	単節ＲＬ	縦 斜め	沈線＋磨消　底部無文	蓋石あり(175)。炭化物(内外面)　ＲＰ22	16	13
117	ＳＫ４３９Ｆ１	Ⅷ	深鉢形	口縁部						11.1			隆線(調整：上面に刻み目)	中期？	16	13
118	ＳＫ３５５	Ⅷ	深鉢形	口縁部						6.0	撚糸無節Ｒ	縦			16	13
119	Ｇ１区	Ⅷ	深鉢形	体部						9.1	不整撚糸文Ｒ	縦		炭化物(外面)	16	13
120	Ｃ１区	Ⅷ	不明	口縁部						8.0			沈線	土盤？後期？	16	13
121	ＳＰ９１	Ⅷ	深鉢形	口縁部 体部	(310.0)	(260.0)				9.0	単節ＬＲ	縦		炭化物(外面)	16	13
122	ＳＸ３０３	Ⅷ	深鉢形	体部						9.3	単節ＬＲ	斜め	沈線	中期？	17	13
123	ＥＵ１８７	Ⅷ	深鉢形	体部 底部			220.0	82.0		7.2	単節ＲＬ	斜め	底部無文	２次焼成。中期？	17	14
124	ＳＫ１４４	Ⅷ	深鉢形	体部 底部				132.0		12.0	単節ＲＬ	斜め	底部網代痕	ＲＰ３	17	14
125	Ｈ区Ⅲ	Ⅷ	深鉢形	体部 底部				110.0		10.0	単節縄文		底部網代痕	ＲＰ24	17	14
126	ＳＰ３３８	Ⅷ	深鉢形	体部 底部				134.0		14.0			底部無文	炭化物(内面)	17	15
127	ＳＫ４０３	Ⅷ	深鉢形	体部 底部				133.0		11.5	無節Ｌ	斜め	底部無文		17	14
128	Ｄ２区Ⅲ	Ⅷ	深鉢形	体部			259.0			9.2	単節ＬＲ	斜め		ＲＰ26	18	15
129	ＳＫ３２０	Ⅷ	深鉢形	口縁部 体部						9.4	撚糸文無節Ｒ	斜め	口唇部に撚糸圧痕	炭化物(内面)	18	14
130	ＳＫ１２３	Ⅷ	深鉢形	体部						10.0	単節ＬＲ(１の太さ異なる)	斜め		ＲＰ２	18	15
131	ＥＵ４４７	Ⅷ	深鉢形	体部・底部				134.0		7.0	撚糸文Ｒ	縦 斜め	底部無文	炭化物(底部内面)。ＲＰ23	19	14
132	Ｄ２区Ⅲ	Ⅷ	深鉢形	口縁部 体部	262.0		282.0			7.2	単節ＬＲ	斜め		ＲＰ25	20	15
133	ＳＸ１３１Ｆ１	Ⅷ	深鉢形	口縁部 体部 底部	134.0			65.0	152.0	10.4			底部無文	2次焼成。炭化物(上半部内外面)。ＲＰ１	20	15
134	ＥＵ２６１	Ⅷ	浅鉢形	口縁部 体部	(160.0)					5.5					20	15
135	ＳＸ３０３		土偶							21.0			隆線＋沈線＋刺突		20	15
136	ＳＫ３５６		土製品	完形						10.0	単節ＬＲ		綾繰文		20	15

表14　土器観察表

No	遺構番号	分類	器形	遺存状態	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	器厚(mm)	特記事項	挿図	図版
137	ＳＫ３５６		とりべ	体部4/5遺存。底部欠損。	72.0		(29.0)	10.0	炭化物(体部上半部)	20	26

4　打製石器(第21・22図　図版16～18)

出土遺物の大半は、剥片で占められ、製品として認められるのは微量である。そのうち、30点を実測、図化した。また、遺構に伴って出土したものも少なかったことから、特に細分はしていない。

ⅰ)石錐(第21図138　図版16)

1点出土している。基部の片側が張り出し、左右非対称となる。基部との間にノッチが入り、尖頭部が明瞭に区別される。調整は尖頭部両側縁に限られる。

ⅱ)尖頭器(第21図139　図版16)

1点出土している。背面側全体に調整加工が施され、主要剥離面右側縁及び下端両側縁に調整が見られる。断面形が弯曲する。

ⅲ)石匙(第21図140・141　図版16)

2点出土している。調整は側縁に限られる。背面全周にわたって加工が施されるもの(140)と、抓み上部に自然面を残し、調整加工があまり顕著でないもの(141)がある。

ⅳ)石箆(第21図142～146　図版16)

7点出土している。その内、5点実測・図化した。(144)は上部がやや括れている。(146)は下部に自然面を残している。片面あるいは両面に素材面を残すもの(142・143・146)と両面に加工が施されるもの(144・155)

ⅴ)スクレイパー(第22・23図147～166　図版17・18)

側縁あるいは、末端に加工が認められるもので上記に該当しないものを一括した。また欠損により加工部位が判然としないものもこれに含まれる。20点出土している。

ⅵ)石核(第23図167　図版19)

4点出土している。その内、1点実測・図化した。

5　磨製石器・礫石器

49点を実測・図化した。礫石器の一部は縄文時代の集石遺構あるいは、近現代の遺構の構築に転用されている。以下、その概要を述べる。

ⅰ)磨製石斧(第24図168～171　図版19)

4点出土している。いずれも、欠損が見られる。両側縁に研磨が認められるもの(168・169)、両側縁の研磨は認められないもの(170・171)がある。

ⅱ)磨石(第24～30図　図版20～23)

磨面の部位、範囲から3群に大別し、それぞれ細分した。

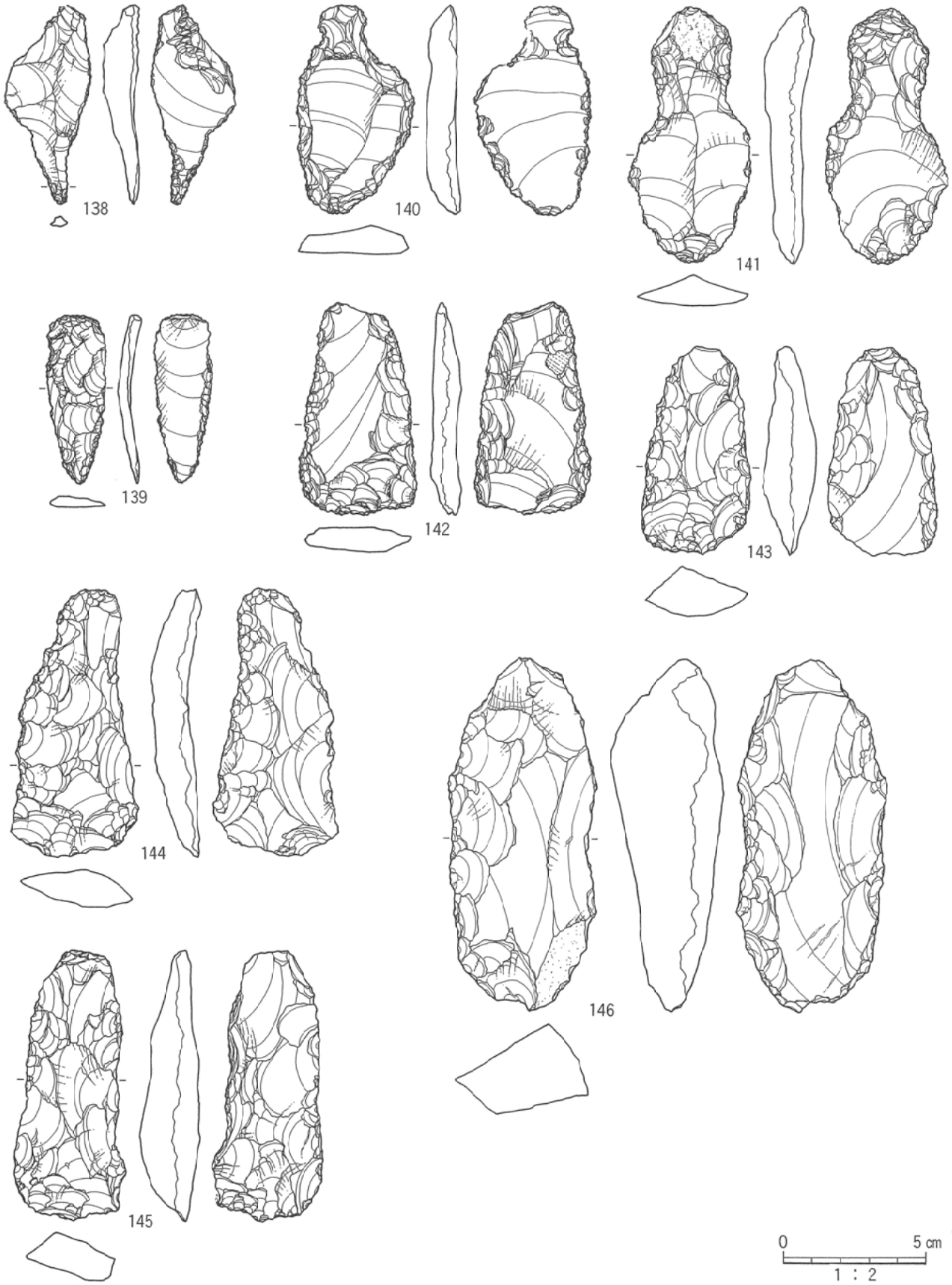
Ⅰ群(第24・25図172～175　図版19～21)

おおよそ円形で、全体を磨っているものを一括した。(174)は加工があまり顕著ではない。(175)は(116)の蓋石として使用されていた。

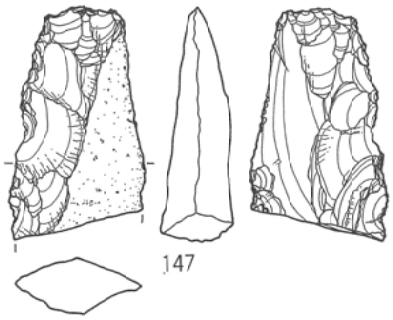
Ⅱ群(第26～29図　図版21・22)

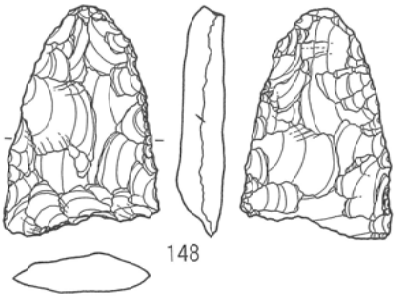
おおよそ円形で、ある面を局部的あるいは全体的に磨っているものを一括した。4類に細分している。

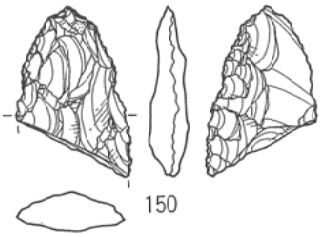
a類(第26図176～180　図版21)：片側表面を全体的に磨っているもの
b類(第27図181～183　図版21)：片側表面を局部的に磨っているもの
c類(第27図184　図版21)：両側表面を全体的に磨っているもの
d類(第28・29図185・186　図版22)：片側表面及び側面を磨っているもの
Ⅲ群(第30図　図版23)
断面が３角形で、その稜に磨り面を持つものを一括した。２類に細分している。
a類(第30図187～191　図版23)：一辺だけを磨るもの
b類(第30図192　図版23)：二辺を磨るもの
ⅲ)凹石(第31～33図　図版23・24)
平面形の違いにより２群に大別し、それぞれ細分している。
Ⅰ群(第31～33図　図版23)
平面形が円形を呈するものを一括した。２類に細分している。
a類(第31図193～196　図版23)：片面にくぼみを持つもの
b類(第31～33図197～205　図版23)：両面にくぼみを持つもの
Ⅱ群(第33図　図版23)
平面形が楕円形を呈するものを一括した。Ⅰ類と同様に細分している。
a類：出土していない。
b類(第33図206～208　図版23)：両面にくぼみを持つもの
ⅳ)石皿(第34・35図209～212　図版24・25)
点出土している。４点を実測・図化した。２群に大別している。Ⅰ群の出土は図化した２点のみで、他はすべてⅡ群である。
Ⅰ群(第34図206・207　図版24)
縁のあるものを一括した。多孔質の礫を使用している。底面は緩やかな曲線をなす。
Ⅱ群(第35図208・209　図版25)
縁のないものを一括した。板状を呈する自然礫の平滑な面を使用している。
ⅴ)石棒(第36図213・214　図版25)
２点出土している。断面形が隅丸方形で下端には敲打痕が認められるもの(213)と断面形が円形で上端、下端とも欠損が見られるもの(214)がある。後者はＳＸ167の構築部材として転用されていた。
ⅵ)石製装飾品(第36図215　図版26)
１点出土している。中央部に両面から穿孔を施している。
ⅶ)円盤状石製品(第36図216・217　図版26)
２点出土している。両面を平滑に研磨している。側面は自然面のままである。軟質で非常に軽い。

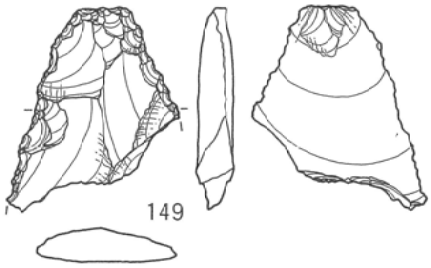


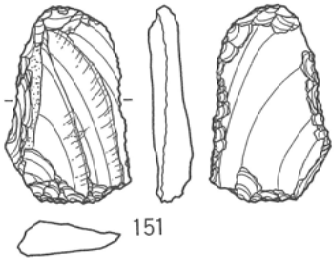
第21図　打製石器（１）

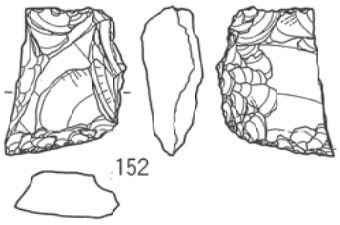


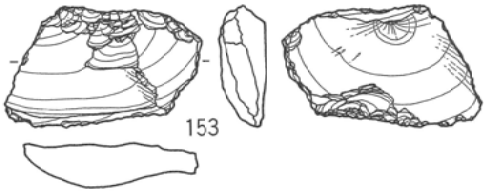


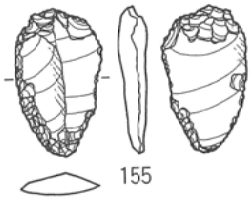


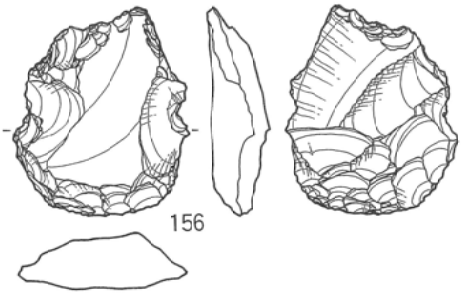


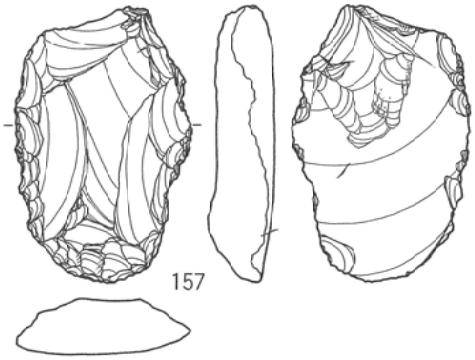


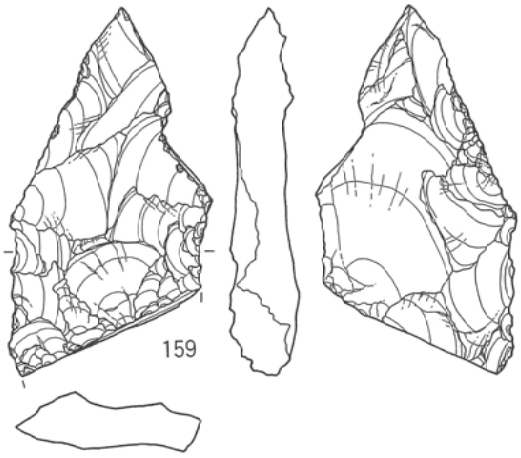


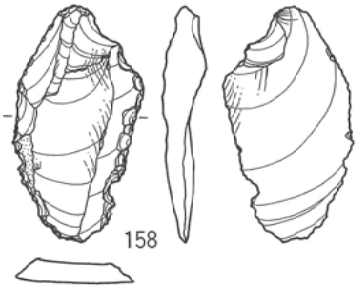






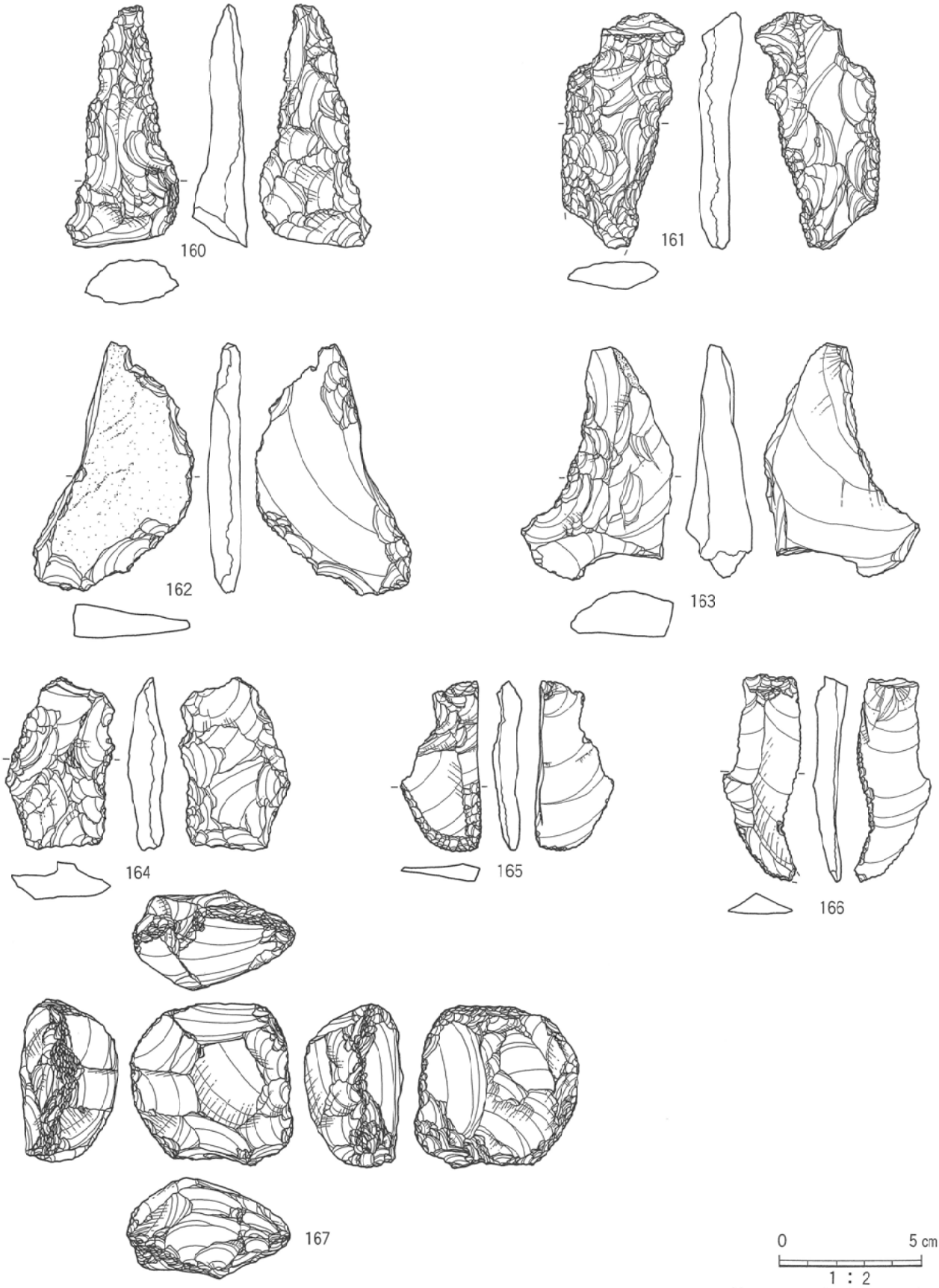




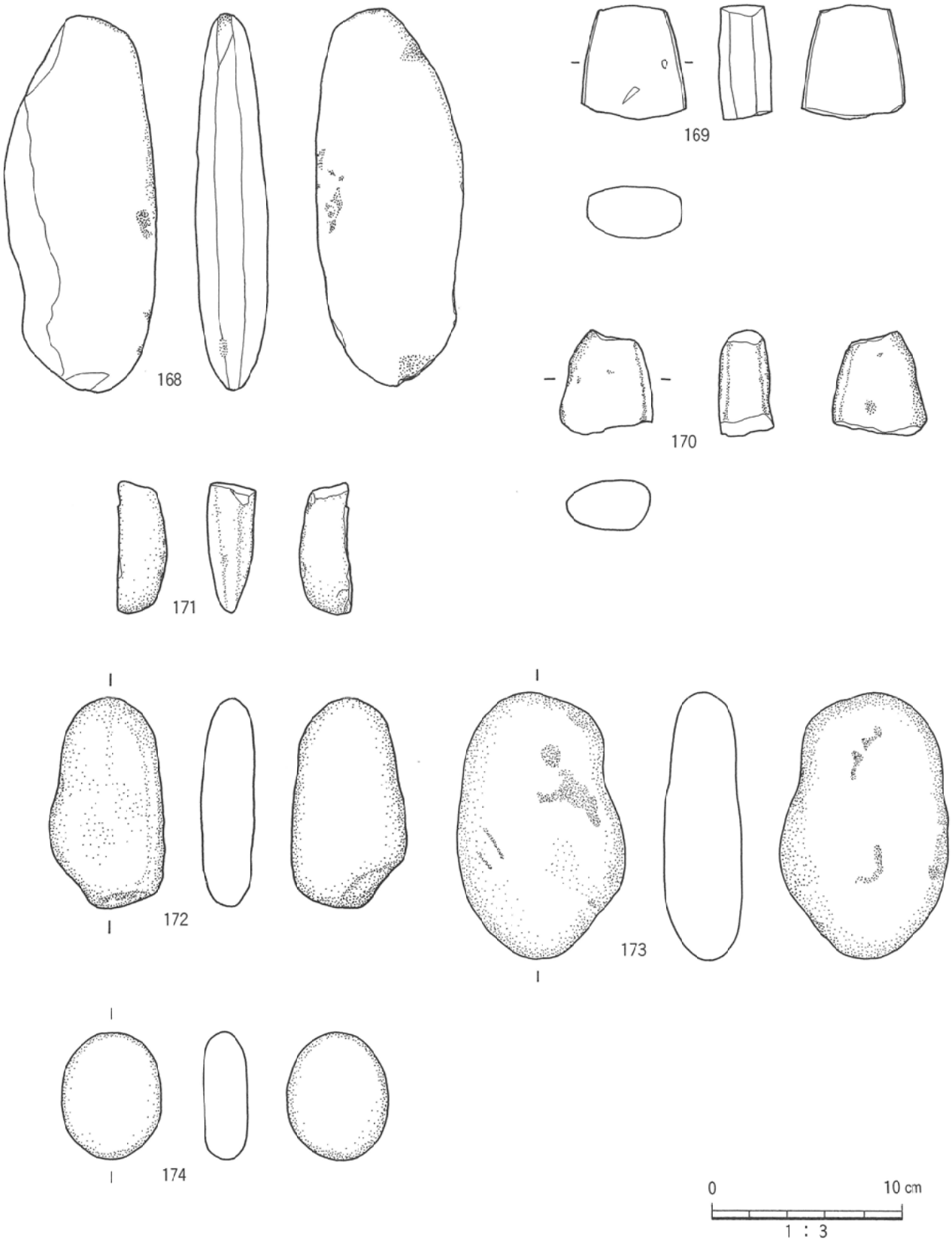


0　5 cm
1：2

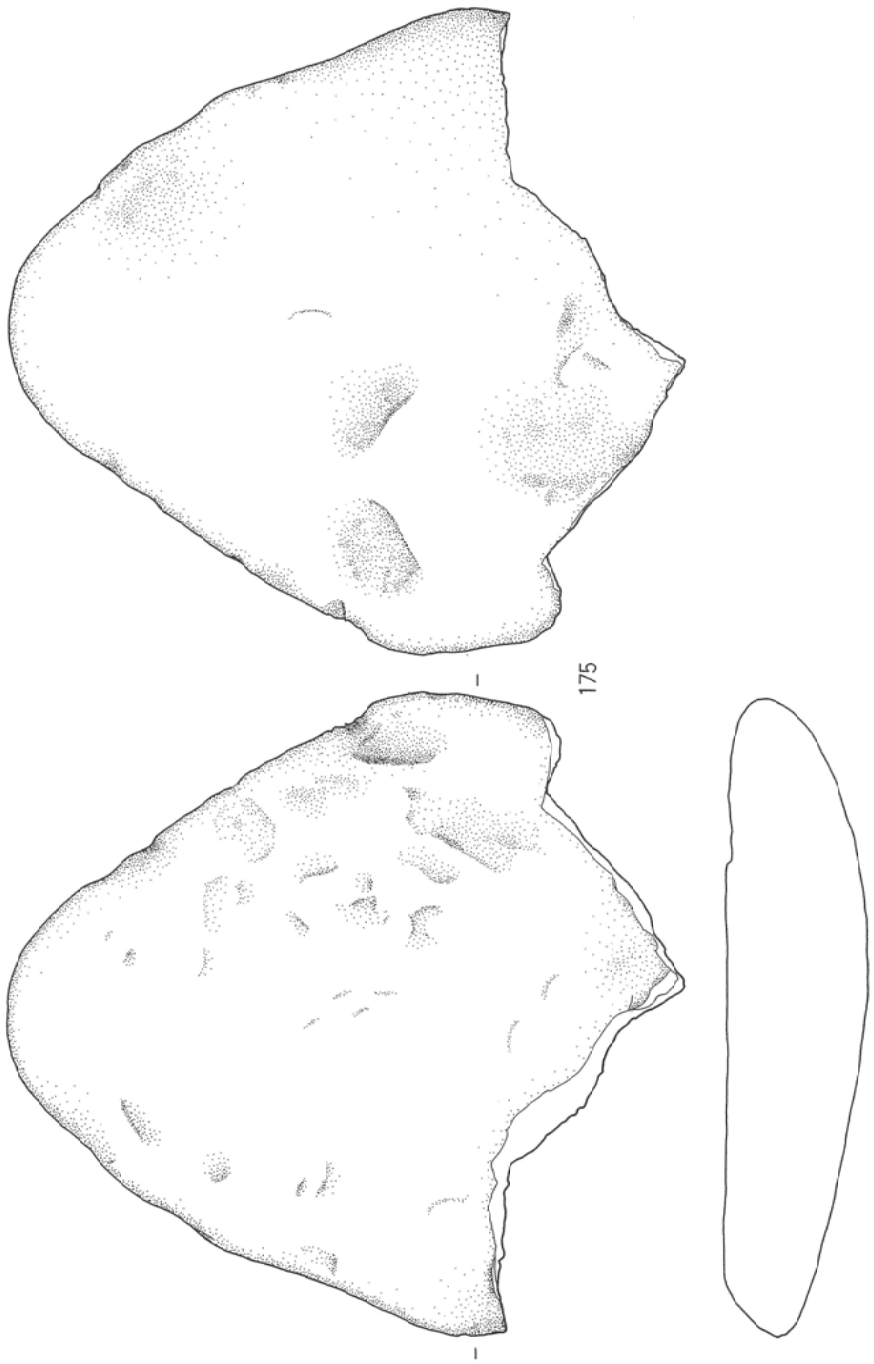
第22図　打製石器（２）



第23図　打製石器（３）

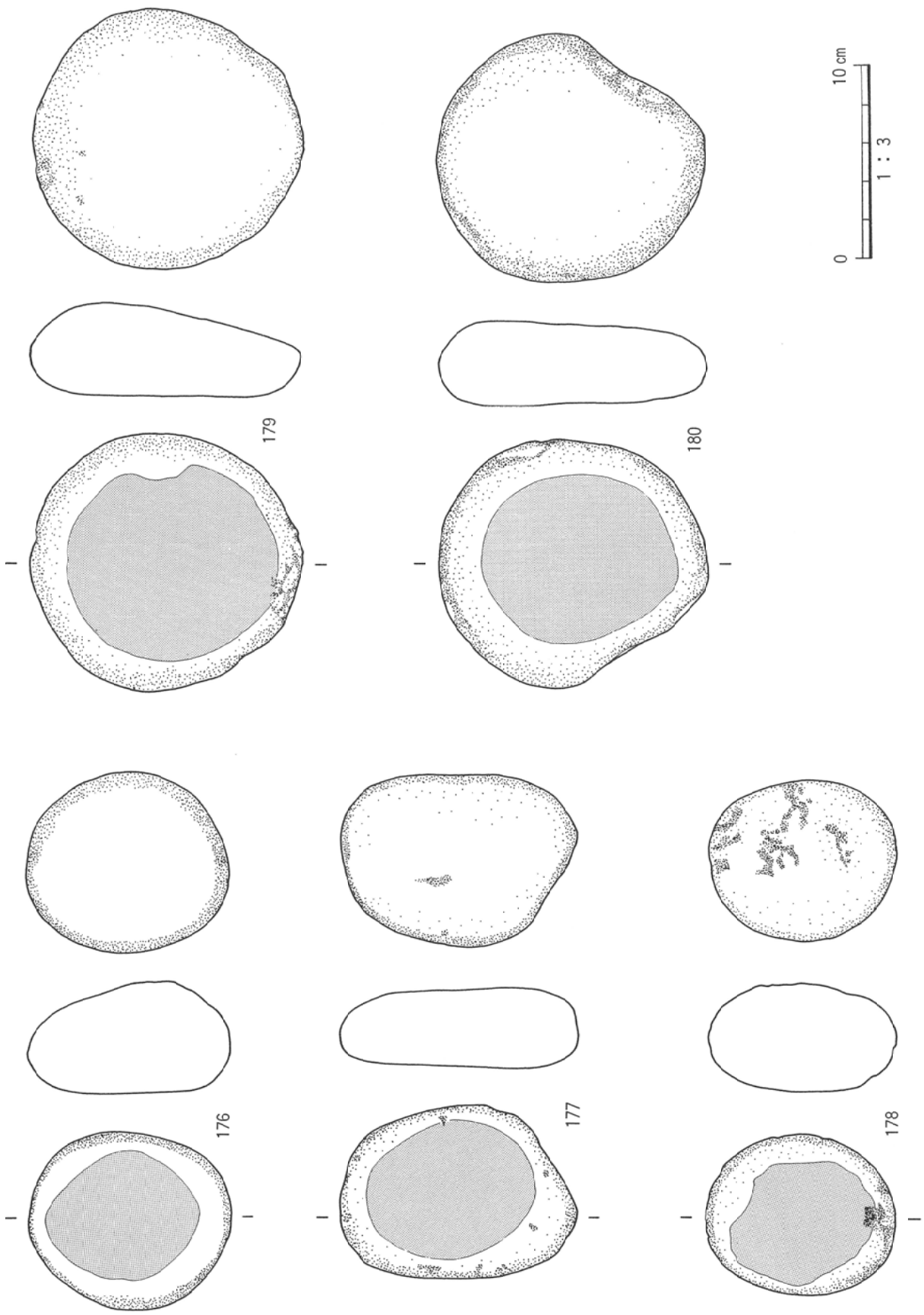


第24図　磨製石斧・磨石（1）

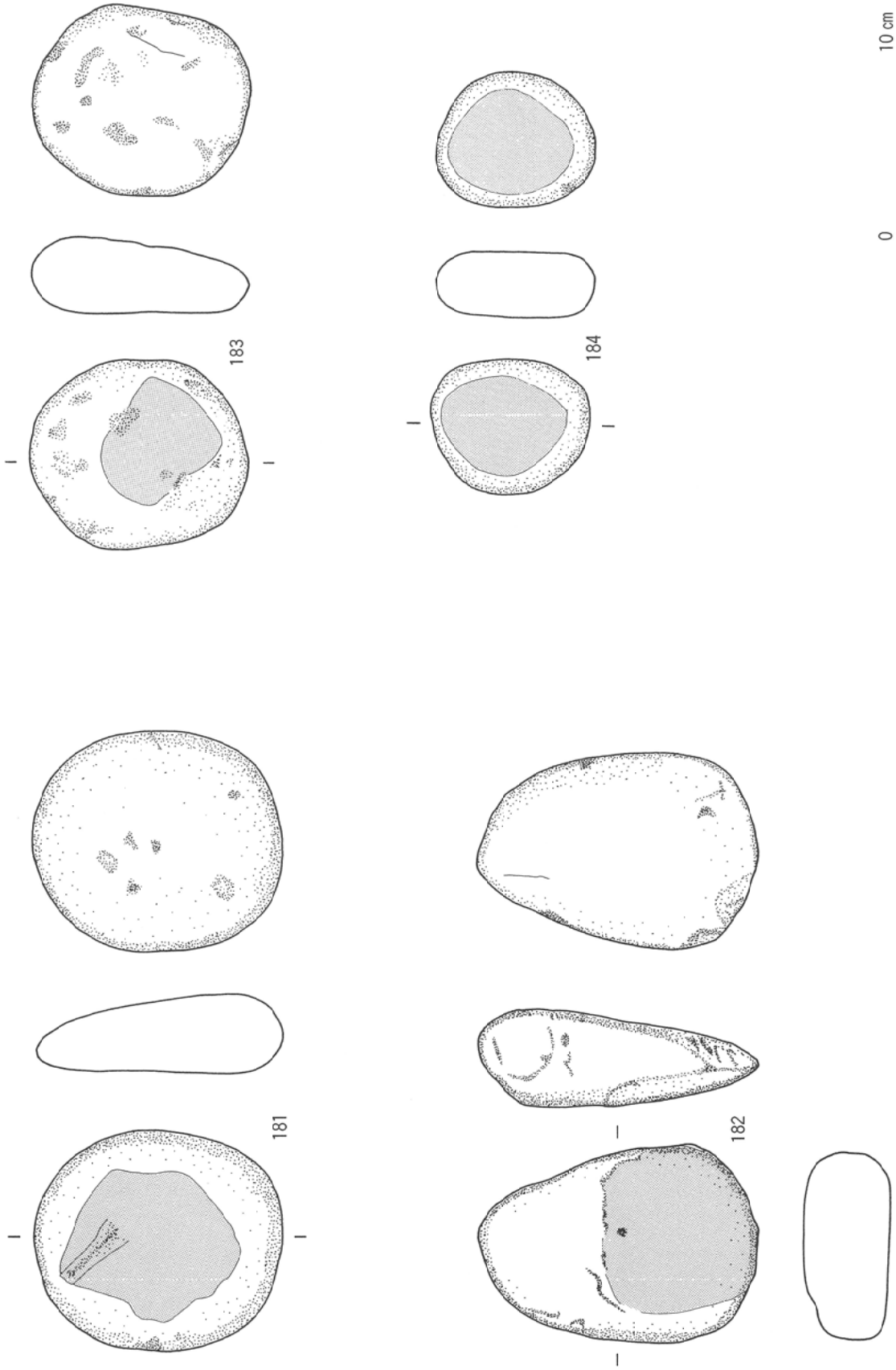


0　10 cm
1：4

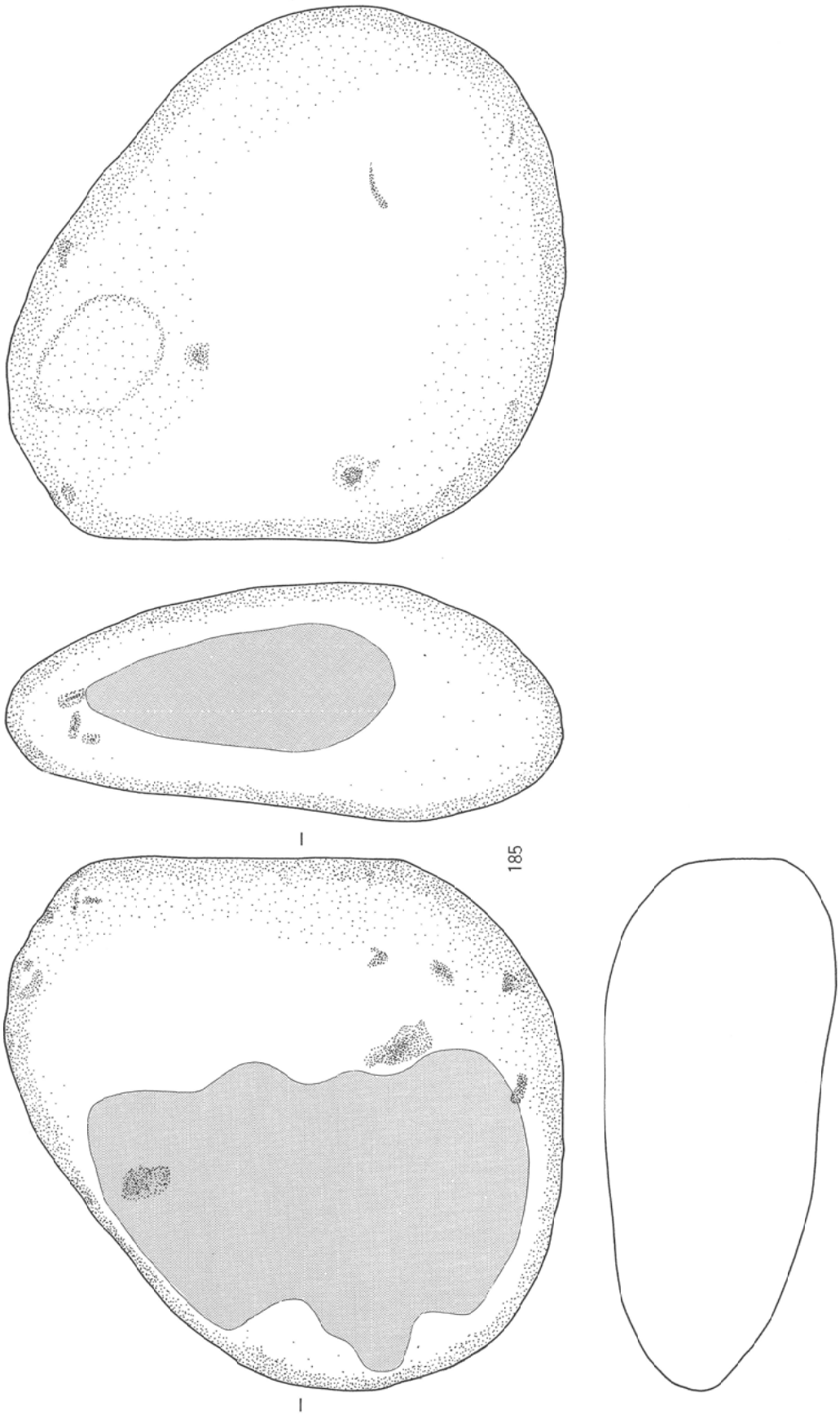
第25図　磨石（2）



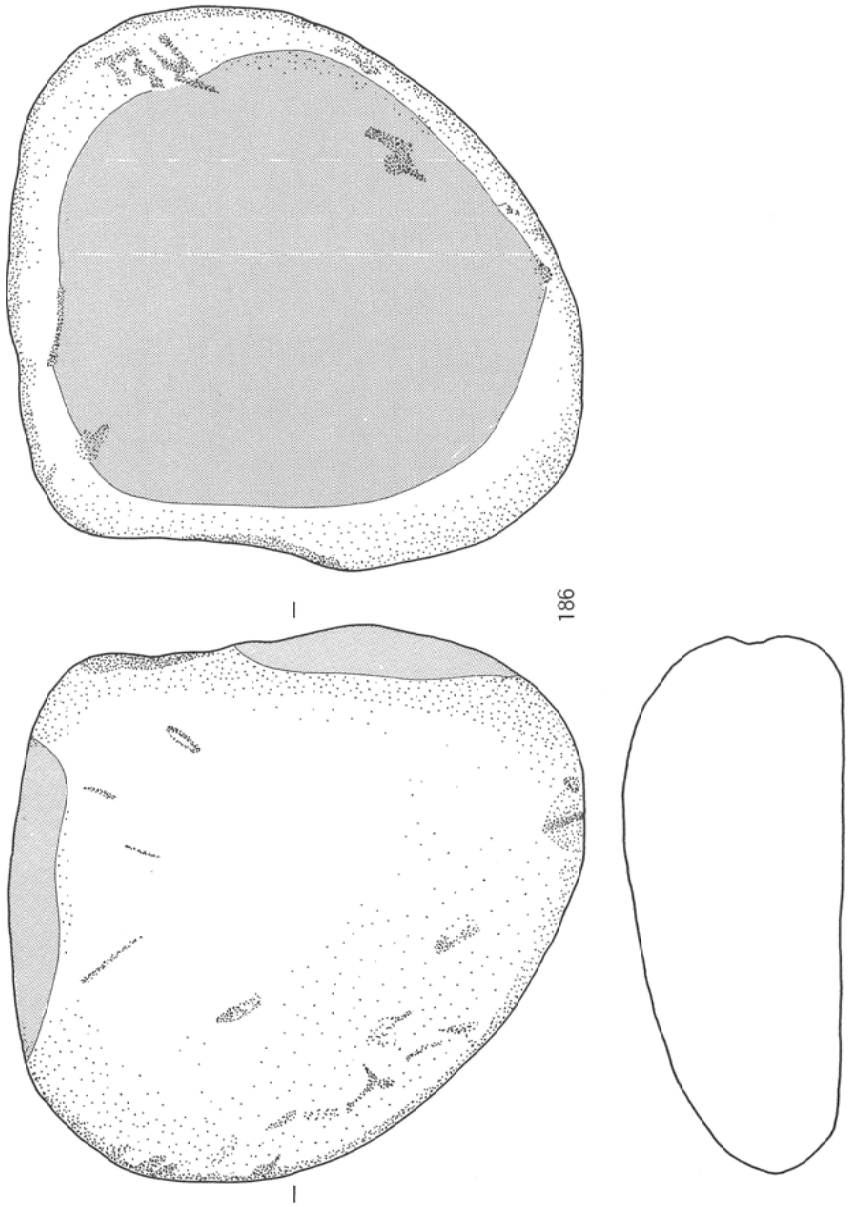
第26図　磨石（3）



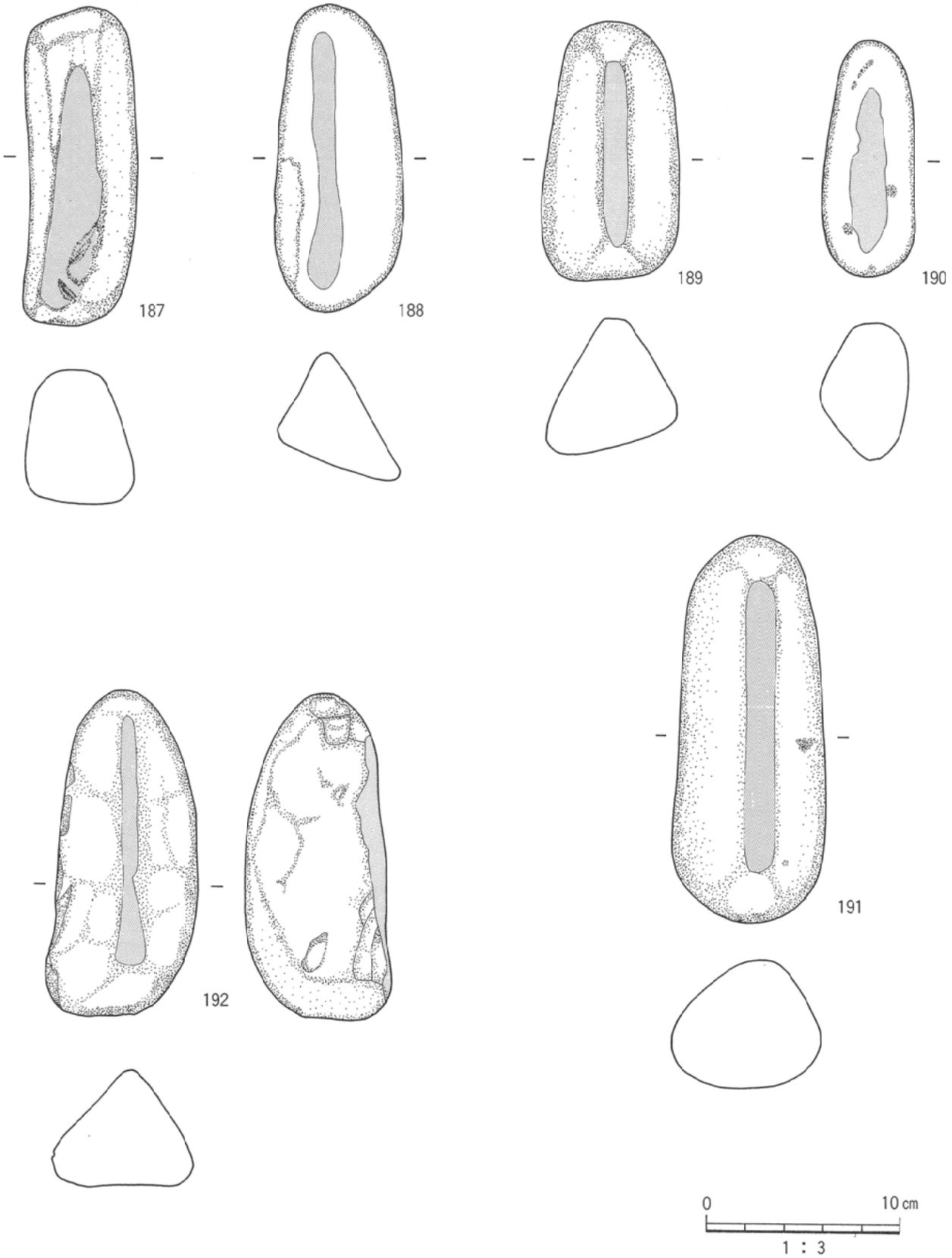
第27図　磨石（4）



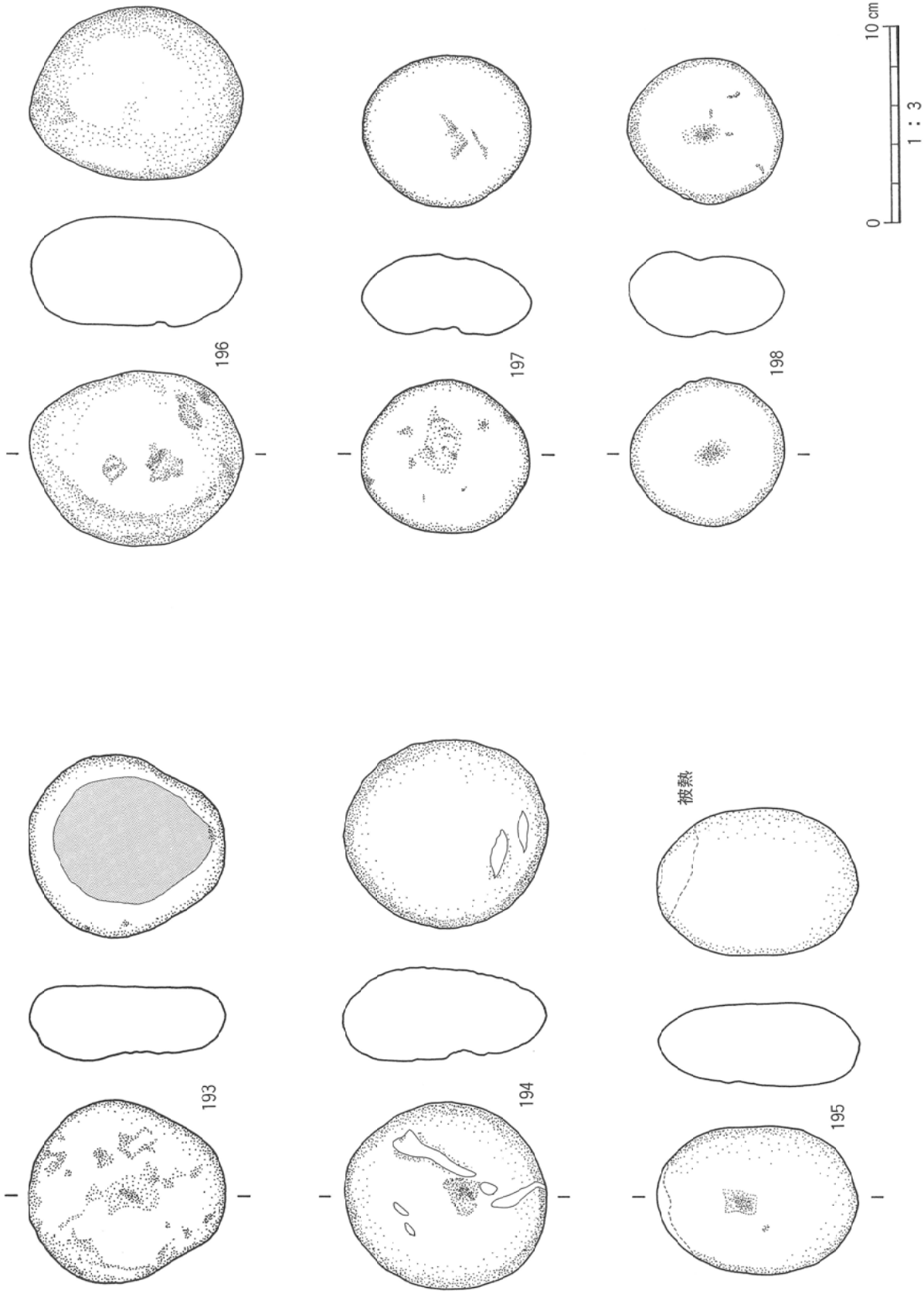
第28図　磨石（5）



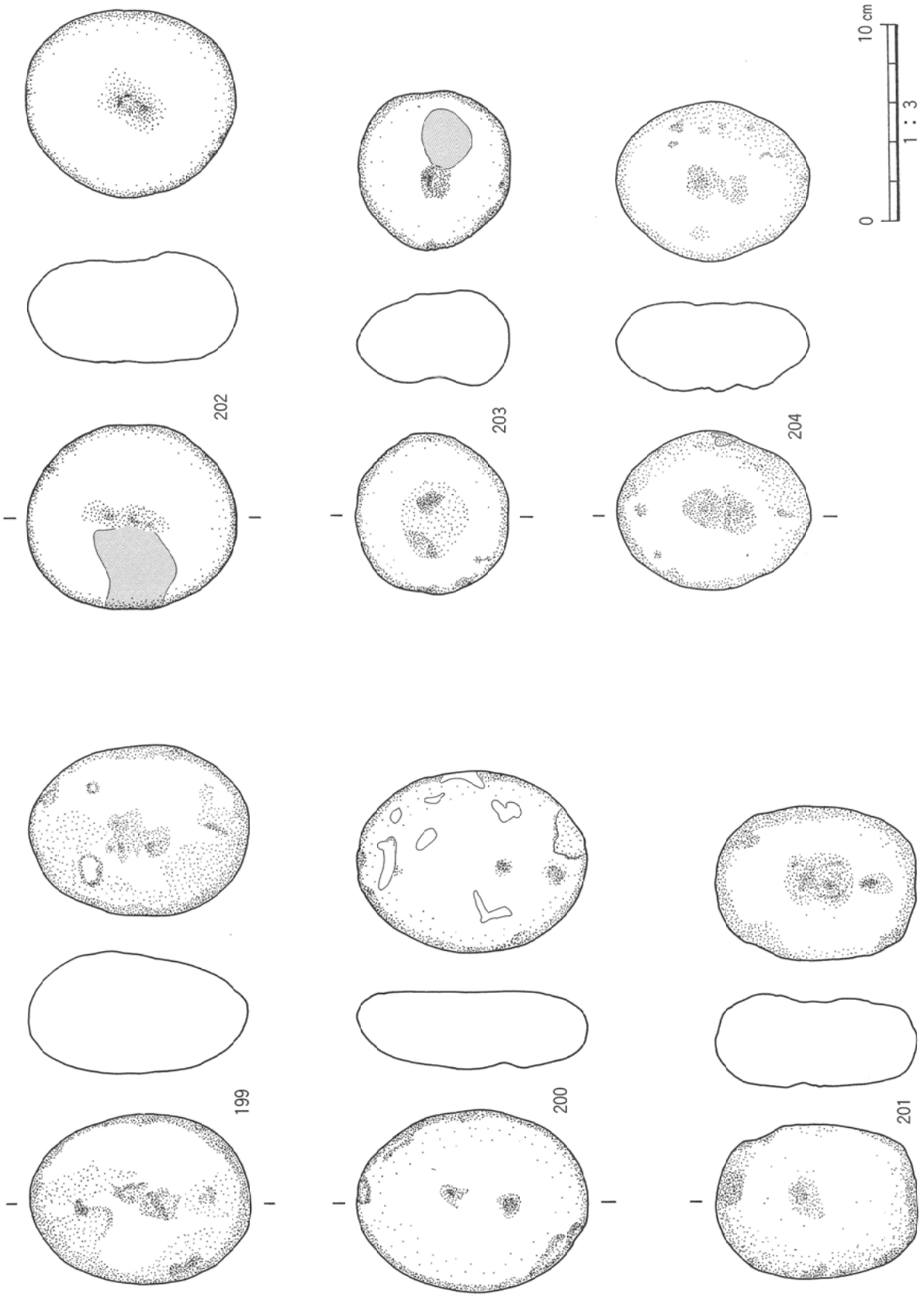
第29図　磨石（6）



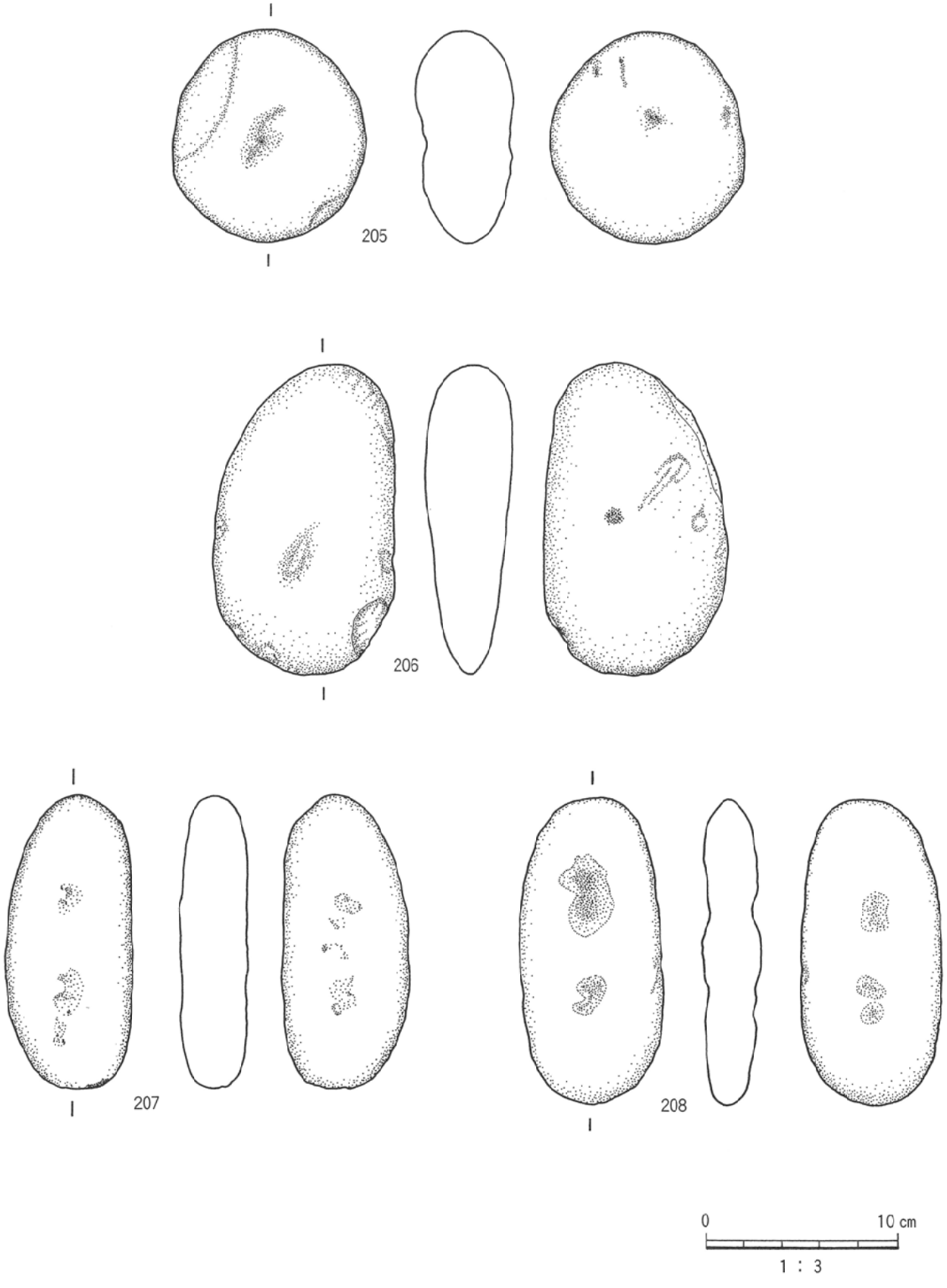
第30図　磨石（7）



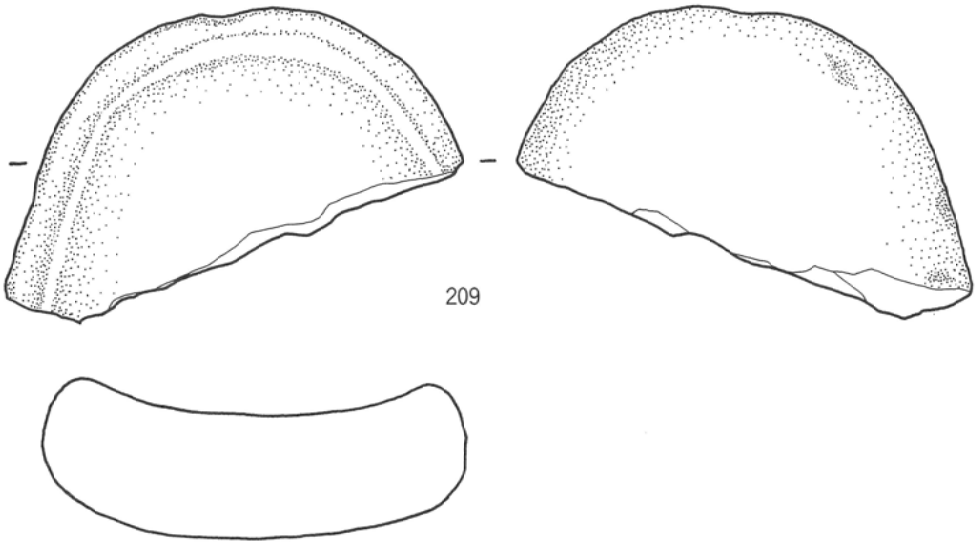
第31図　凹石（1）

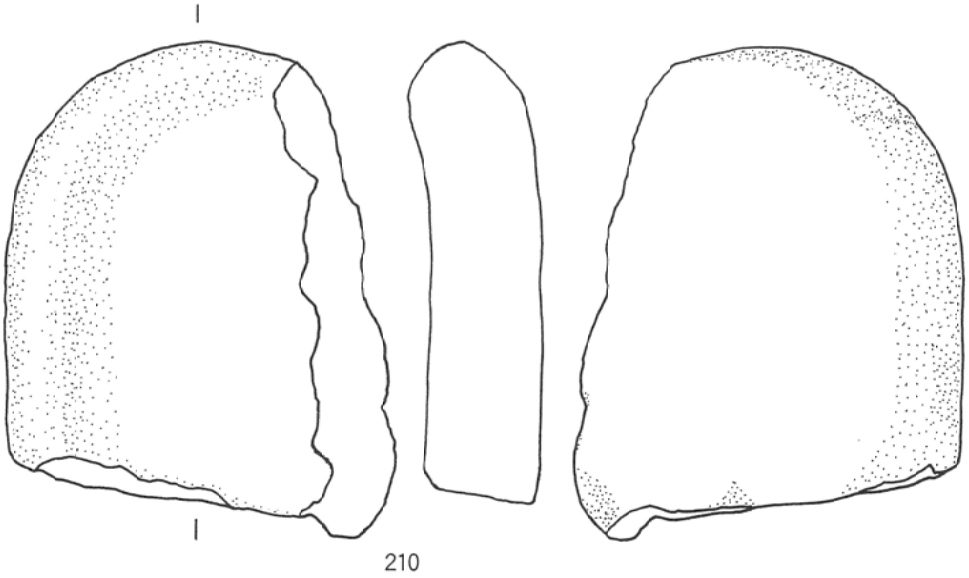


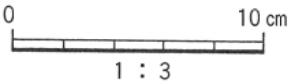
第32図　凹石（２）



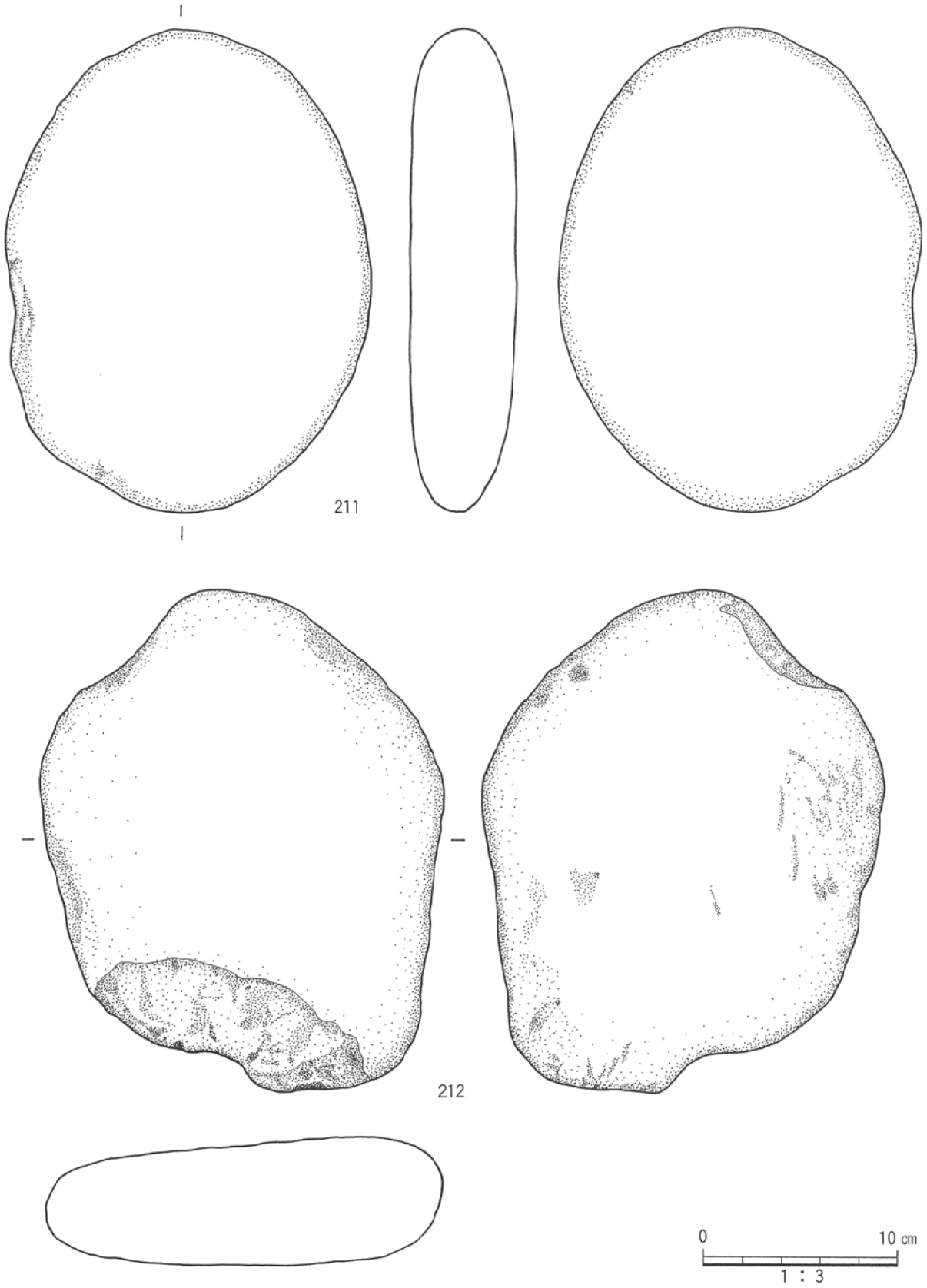
第33図　凹石（3）



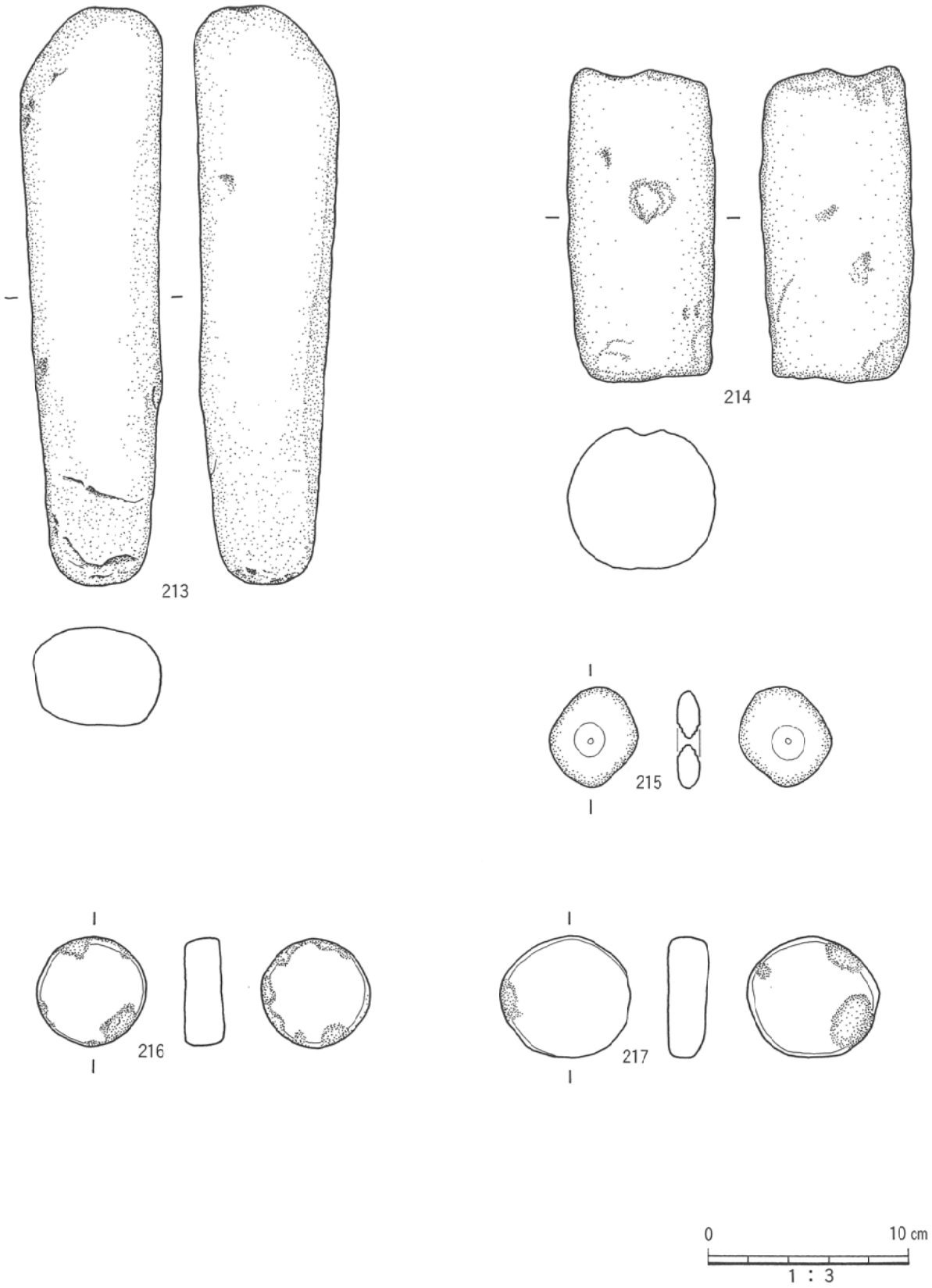




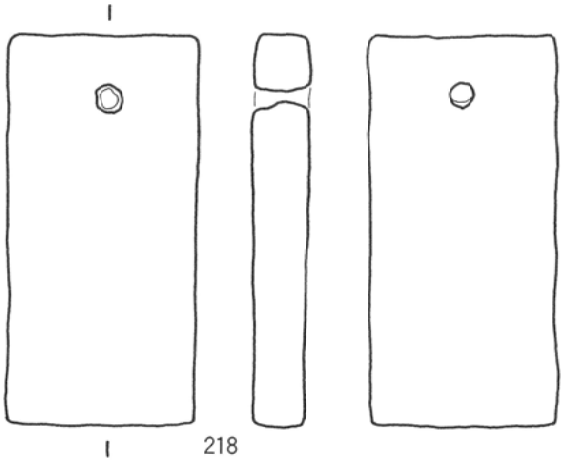
第34図　石皿（1）

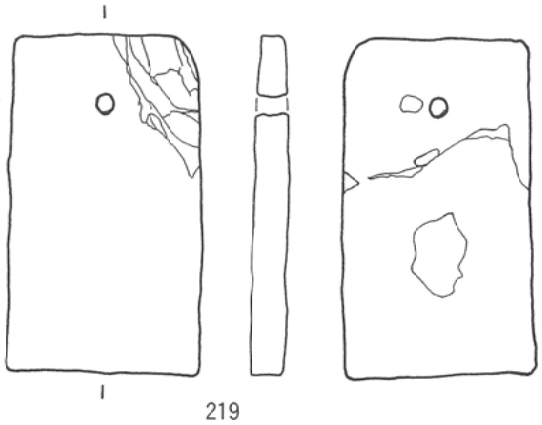


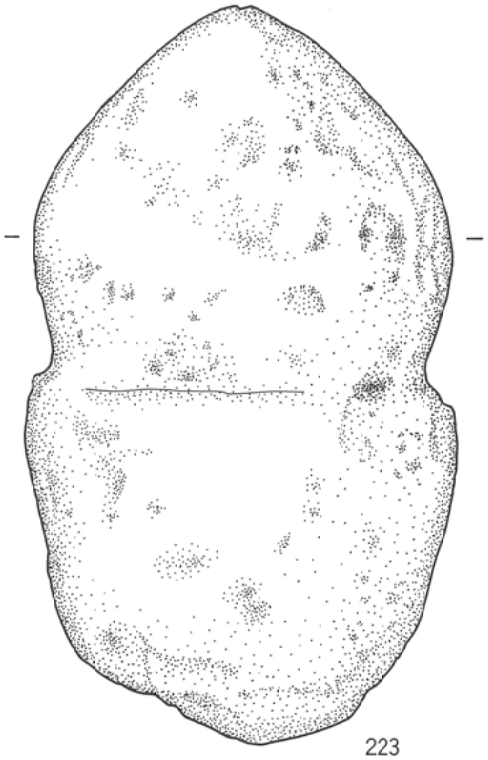
第35図　石皿（2）

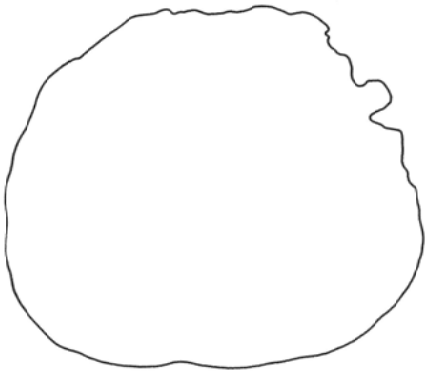


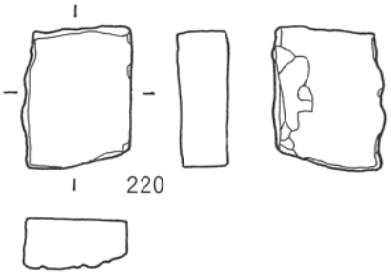
第36図　石棒・石製装飾品・円盤状石製品

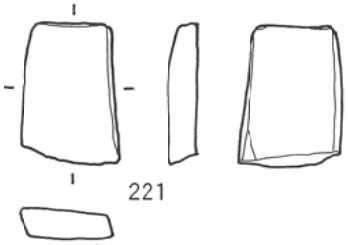


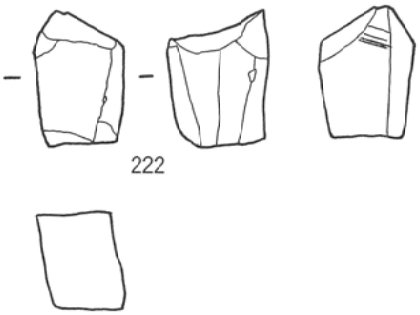


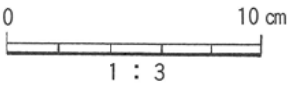












第37図　温石・砥石・五輪塔風空輪

6　中世以降の石製品(第37図　図版26)

詳細な時期は不明であるが、おおよそ中世から近世に位置すると推定される石製品を実測・図化した。

ⅰ)温石(第37図218・219　図版26)

2点出土している。全体を平滑に研磨し、上部に穿孔をもつ。穿孔は両面から加工していることが観取される。

ⅱ)砥石(第37図220～222　図版26)

3点出土している。1面を使用したもの(220)、2面を使用したもの(221)、3面使用したもの(223)がある。

ⅲ)五輪塔(第37図223　図版26)

風空輪部が1点出土している。表面の風化が激しい。

表15　打製石器計測表

No	遺構番号	地区	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存部位	特記事項	挿図	図版
138	SP231	B3	石錐	頁岩	70.6	29.1	12.6	15.9			21	16
139	SK119	B2	尖頭器	頁岩	59.0	20.7	4.7	5.4			21	16
140	SK281	B3	石匙	頁岩	73.8	4.1	10.2	34.0			21	16
141		B2	石匙?	頁岩	90.4	42.8	16.7	44.4		つまみ上部に自然面残す。	21	16
142		H	石篦	頁岩	76.5	40.9	9.7	31.7			21	16
143	SX303	C2	石篦	頁岩	73.5	48.6	18.6	44.1		中期?	21	16
144	SX341	H	石篦	頁岩	95.4	44.6	13.4	51.9		上部くびれを持つ。	21	16
145	SK419	G2	石篦	頁岩	95.0	39.1	19.5	64.1			21	16
146	SK419	G3	石篦	頁岩	124.7	53.9	37.0	238.8		未製品?下部に自然面を残す。	21	16
147		H	スクレイパー	頁岩	(62.3)	(35.9)	(18.4)	31.9	末端欠損		22	17
148	SX341	H	スクレイパー	頁岩	61.1	41.1	11.6	30.0			22	17
149	SX303	C2	スクレイパー	頁岩	(55.5)	(47.9)	(8.7)	19.1	下半部欠損	中期?	22	17
150	SD184	H	スクレイパー	頁岩	(44.9)	(29.0)	(10.5)	9.7	下半部欠損		22	17
151	SX364	H	スクレイパー	頁岩	51.7	32.2	9.3	15.2			22	17
152	SP432	D2	スクレイパー	頁岩	39.8	34.4	15.8	20.0		再加工?	22	17
153		X・O	スクレイパー	頁岩	31.4	50.3	11.7	20.0			22	17
154	SP437	D2	スクレイパー	頁岩	28.6	30.6	9.9	7.7			22	17
155	SK19	A	スクレイパー	頁岩	38.6	22.9	7.8	5.8			22	17
156	SK336	C2	スクレイパー	頁岩	57.8	46.0	15.5	36.6			22	17
157	SK356	H	スクレイパー	頁岩	73.4	47.4	18.4	64.2			22	17
158	SX341	H	スクレイパー	頁岩	62.3	33.3	7.7	14.2			22	17
159	SK351	H	スクレイパー	頁岩	99.6	52.5	18.0	71.9	下半部欠損		23	18
160	SX341	H	スクレイパー	頁岩	86.8	40.4	19.1	43.4			23	18
161	SX186	H	スクレイパー	頁岩	84.3	38.7	14.6	42.8	末端部欠損	上部にくびれを持つ。	23	18
162	SX355	H	スクレイパー	頁岩	87.1	58.4	10.9	50.7		表面自然面	23	18
163	SK123F3	B2	スクレイパー	頁岩	80.6	54.8	18.6	63.9		中期中葉	23	18
164	SP343	H	スクレイパー	頁岩	60.8	37.7	12.2	25.5			23	18
165	SX364	H	スクレイパー	頁岩	59.3	27.5	8.2	10.8			23	18
166		H	スクレイパー	頁岩	(71.8)	(28.2)	(8.6)	13.2	末端部欠損		23	18
167	SK430	D2	石核	頁岩	57.5	55.6	36.3	121.0			23	19

※　長さ、幅、厚さともに見かけの値である。

表16　磨製・礫石器観察表

No	遺構番号	地区	器種	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存部位	特記事項	RQ番号	挿図	図版
168	SK166	I	磨製石斧		198.0	75.0	37.0	580.0	表面左側欠損	黒色付着物　蛇紋岩製	17	24	19
169	SX362	H	磨製石斧		60.0	53.0	27.0	160.0	上部・下部欠損			24	19
170	SM420	C2	磨製石斧		55.0	48.0	29.0	100.0	上部・下部欠損	未製品？		24	19
171	SX341	H	磨製石斧		68.5	25.0	23.5	40.0	上半部・左半欠損			24	19
172	SX288	G2	磨石	I	110.0	60.0	29.0	290.0				24	21
173	SX158	I	磨石	I	139.0	88.0	43.0	730.0				24	21
174	SM421	C2	磨石	I	67.0	52.0	23.5	120.0				24	21
175	SX339	C2	磨石	I	357.0	338.0	75.0	10980.0		RP22蓋石		25	20
176	SX351	H	磨石	IIa	105.0	93.0	52.0	740.0				26	21
177	SX158	I	磨石	IIa	123.5	89.0	41.5	680.0				26	21
178	SM421	C2	磨石	IIa	99.0	84.0	55.0	640.0				26	21
179	SM423	C2	磨石	IIa	140.5	134.5	47.0	1310.0				26	21
180	SK123F2	B2	磨石	IIa	140.0	129.0	44.0	1080.0		中期中葉	11	26	21
181	SK356	H	磨石	IIb	121.0	108.0	37.0	790.0		磨面一部欠損		27	21
182	SK161	I	磨石	IIb	138.0	96.0	49.0	900.0		後期	20	27	21
183	SM423	C2	磨石	IIb	107.0	93.0	37.0	540.0				27	21
184	SK419	G2	磨石	IIc	79.0	67.0	33.0	280.0				27	21
185	SM421	C2	磨石	IId	268.0	257.0	113.0	10800.0		集石に転用		28	22
186	SK419	G2	磨石	IId	225.0	220.0	88.0	6260.0				29	22
187	SX341	H	磨石	IIIa	163.0	57.0	75.0	1070.0				30	23
188	SX167	I	磨石	IIIa	160.0	69.0	67.0	830.0				30	23
189	SX167	I	磨石	IIIa	130.0	72.0	68.0	890.0				30	23
190	SM420	G2	磨石	IIIa	123.0	49.0	74.0	610.0				30	23
191	SM423	C2	磨石	IIIa	200.0	78.0	66.0	1520.0				30	23
192	SX341	H	磨石	IIIb	168.0	78.0	60.0	870.0				30	23
193	SP110	B2	凹石	Ia	100.0	96.0	38.0	470.0		裏面に磨面あり		31	23
194	SK356	H	凹石	Ia	104.0	96.0	48.0	620.0				31	23
195	A区	A	凹石	Ia	103.0	76.0	43.0	440.0				31	23
196	SX355	H	凹石	Ia	108.0	90.0	55.0	770.0		やや風化		31	23
197	SK51	A	凹石	Ib	86.0	77.0	40.0	340.0				31	23
198	SK181	H	凹石	Ib	81.0	75.5	42.5	380.0				31	23
199	SK123F2	B2	凹石	Ib	111.5	88.0	62.0	720.0		中期中葉	6	32	23
200	SX167	I	凹石	Ib	117.0	93.0	39.0	590.0				32	23
201	SM420	G2	凹石	Ib	102.0	78.0	48.0	570.0				32	23
202	SX341	H	凹石	Ib	107.0	93.0	53.0	680.0				32	23
203	SX355	H	凹石	Ib	77.5	82.0	50.0	450.0		裏面に磨面あり		32	23
204	SM420	G2	凹石	Ib	98.0	80.0	43.0	460.0		風化激しい		32	23
205	SM420	G2	凹石	Ib	110.0	100.0	50.0	740.0				33	23
206	SK419	G2	凹石	IIb	161.0	93.0	45.0	870.0				33	24
207	SK356	H	凹石	IIb	152.0	66.0	35.0	520.0				33	24
208	SX167	I	凹石	IIb	159.0	73.0	32.0	540.0				33	24
209	SK406	H	石皿	I	123.0	181.0	63.0	1500.0				34	24
210	G2区	G2	石皿	I	194.0	151.0	65.0	2050.0				34	24
211	SK166	I	石皿	II	246.0	187.0	53.5	3800.0			18	35	25
212	SM421	C2	石皿	II	257.0	206.0	66.0	5120.0				35	25
213	SK161	I	石棒		291.0	72.0	50.0	1760.0		下部に敲打痕・後期	19	36	25
214	SX158	I	石棒		156.0	71.0	71.0	1320.0		構築部材に転用		36	25
215	SK281	B3	石製装飾品		51.0	45.0	11.0	30.0				36	26
216	C2区	C2	円盤状石製品		55.5	54.0	19.5	70.0				36	26
217	SX158	I	円盤状石製品		61.0	65.0	19.0	90.0				36	26
218	SX414	J	温石		155.0	78.0	22.0	600.0				37	26
219	SX414	J	温石		134.0	77.0	14.0	320.0				37	26
220	I区	I	砥石		54.0	42.0	18.5	80.0	上下欠損	1面使用		37	26
221	SX235	B3	砥石		56.0	40.0	12.0	40.0		2面使用		37	26
222	SX167	I	砥石		53.0	36.0	39.0	90.0		3面使用		37	26
223	SX167	I	宝珠飾り		291.0	166.0	142.0	5940.0		構築部材に転用		37	26

※　長さ、幅、厚さともに見かけの値である。

Ⅵ　まとめ

今回の調査では、縄文時代から近現代までの遺構・遺物が検出された。遺構の大半は近現代のもので占められ、遺物も二次堆積の可能性が高い。これは、今回の調査区域が道路の拡張部分に設定されていることに起因すると考えられる。以下、縄文時代を中心に遺構・遺物についての調査成果をまとめる。

1　遺構について

今回の調査で検出された遺構は登録数にして463を数える。B、C、D、H、Ⅰ区に集中して検出された。縄文時代の遺構はB、C、D区に集中しており、特にC区南側からD２区にかけて、良好に依存していた。その他の地区では近現代の遺構が大半を占めた。また中世の遺構としては堀跡１条と墓壙２基が検出された。小ピットが多数検出されたが建物を構築するには至らなかった。

2　遺物について

今回の調査で出土した遺物は、大半が二次堆積の可能性が高いとはいえ、これまで縄文時代後期前葉の遺跡の調査例が少ないことから、資料を提示し得たことにおいて意味を持つと考える。以下縄文土器について、県内の類例をあげ、若干の所見をのべてまとめとする。

第Ⅰ群土器は、早期中葉に位置付けられる一群である。県内の当該期の遺跡としては米沢市二タ俣A（八幡原№５）遺跡、柿の木遺跡（八幡原№４）、法将寺遺跡、南陽市月ノ木B遺跡などがある。ａ類は法将寺遺跡A群Ⅳ類、月ノ木B遺跡第４群ｃ３類に、ｂ類は、刺突の手法が異なるが、法将寺A群Ⅶ類に、ｄ類は法将寺A群Ⅴ類、月ノ木B遺跡第４群ａ１類に、e類は法将寺A群Ⅰ類に、ｆ類は月ノ木B遺跡第４群ｂ２類に類似例がある。ａ・ｂ類は常世式に、ｄ～ｆ類は明神裏Ⅲ式に比定されよう。ｃ類も凡そ同時期のものと推定されるが詳細は不明である。

第Ⅱ群土器は、前期初頭に位置付けられる一群である。小破片のみの出土で、詳細は不明であるが、近隣に一ノ坂遺跡が所在することから、関連性が注目される。

第Ⅲ群土器は前期後半に位置付けられる一群である。ａ類は大木４式期に属する。ｂ類は大木５式期に位置付けたい。

第Ⅳ群土器は、中期中葉～後葉に位置付けられる一群である。大木８ａ～８ｂ式期に属する。

第Ⅴ群土器は、中期末葉に位置付けられる一群である。ａ類は小破片のみの出土で詳細は不明である。大木10式に併行する。ｃ類は、刺突の手法から三十稲場式とは区別される。中期末葉から後期初頭に位置付けたい。県内の出土例としては、遊佐町神矢田遺跡があるが量的には僅少である。ｄ類は後期の可能性もある。

Ⅵ群土器は、後期前葉に位置付けられる。凡そ堀之内Ⅰ～Ⅱ式期に属する。県内で堀之内式期の土器の出土例は置賜地方では、米沢市竹井境B（八幡原№31）遺跡、柿の木（八幡原№４）遺

跡、高畠町宮下遺跡、小国町蟹沢遺跡、村山地方では、山形市大清水遺跡、窪遺跡、最上地方では新庄市水上遺跡、村山市中村Ａ遺跡、庄内地方では遊佐町神矢田遺跡等がある。ａ類は、堀之内Ⅱ式に併行する土器群で器種は異なるが、同様の橋状取手をもつものとして高畠町宮下遺跡に出土例がある。ｂ類は竹管による刺突の手法から後期に分類したが、詳細は不明である。ｃ類は堀之内Ⅰ式に併行する土器群で、小国町蟹沢遺跡、米沢市柿の木遺跡Ⅳ群、新庄市水上遺跡(第２次)11類等に類似例が見られる。ｄ類は堀之内Ⅰ式に併行する土器群で、米沢市竹井境Ｂ遺跡第２群ａ類、新庄市水上遺跡(第２次)11類、中村Ａ遺跡第Ⅱ群３類等に類似例が見られる。ｅ類は堀之内Ⅰ式に併行する土器群で米沢市竹井境Ｂ遺跡第２群ｂ類や遊佐町小山崎遺跡12群に類似例が見られる。ｆ類・ｇ類は堀之内Ⅰ式に併行する土器群であるが、出土量が僅少で詳細は不明である。ｅ類に近似する印象をうける。ｈ類は、堀之内Ⅱ式に併行土器群と考えられるが沈線の手法がやや華奢である。ｉ類は堀之内Ⅱ式に併行する土器群で、管見によれは県内での他の報告例はない。ｊ類・ｋ類はは堀之内Ⅱ式に併行する土器群でｊ類は米沢市竹井境Ｂ遺跡第２群ｄ類あるいは第３群ａ類に近似し、ｋ類は米沢市竹井境Ｂ遺跡第２群ｆ類、遊佐町小山崎遺跡第14群に類似例が見られる。ｌ類(100)は三十稲場式の蓋である。県内の三十稲場式土器の出土例は南陽市富沢Ⅰ遺跡、飯豊町郡の神遺跡、町下遺跡、小国町蟹沢遺跡、遊佐町小山崎遺跡、八幡町蕨台遺跡等が挙げられ、米沢市教育委員会の調査でも確認されている。近年、小国町千野遺跡でまとまった量が出土している(未報告)。ｍ類は称名寺式に併行する土器群(101・102)や堀之内Ⅰ式あるいはⅡ式に併行する土器群である。米沢市竹井境Ｂ遺跡２群ｅ類(103)やｈ類(104)に類似例が見られる。ただ庄内地方や最上地方の例は、本遺跡の例とは若干差異が見られ(例えばＳ字状沈線が見られず鎖状隆線や隆線上の刻み目の違い)、注意が必要である。推測の域を出ないが、本遺跡の出土例は南東北太平洋側的様相が強く(例えば、ｅ類74など)、三十稲場式の出土量からもこれを補足すると考える。今後の調査成果に期待したい。

Ⅶ群土器は後期中葉に位置付けられる。凡そ加曽利Ｂ１式期に属する。出土量も少なく、詳細は不明である。当該期の遺跡としては、米沢市左沢遺跡、天童市渡戸遺跡が挙げられる。

Ⅷ群土器の詳細は不明である。(117)は器形から判断して中期中葉に位置すると推定される。(120)は沈線の手法から後期の印象を受ける。地文のみのものについては時期は不明であるが、凡そ中期中葉から後期中葉の範囲の中に収まると推定される。

以上のことから、大樽遺跡は縄文時代早期中葉から後期中葉まで断続的に集落が営まれており、また中世においては城館の一部として機能していたと推定される。ちなみに周辺住民の聞き取りによると、現在の地割りは上杉入部以来ほとんど変更されていないとのことだったので、中世以降は継続して集落として機能していると推定し得る。またＤ区西側には遺跡が良好に遺存していると推定されるので、今後の調査に期待したい。最後に、関係公所はじめ調査参加者及び周辺住民に感謝の意を表して調査のまとめとする。

参考文献

青木昭博(1997):「序章　自然と風土　第一節　米沢の自然」　『米沢市史』　第１巻　原始・古代・中世編　米沢市
阿子島功・西谷克彦・米地文夫（1985):「Ⅱ　地形」　『土地分類基本調査　米沢・関』　５万分の１国土調査　山形県
小国町教育委員会(1980):『蟹沢遺跡発掘調査報告書』　小国町埋蔵文化財調査報告書第３集　小国町教育委員会
菊地政信(1992):「第６節　小野川ｃ遺跡」　『遺跡詳細分布調査報告書第５集』　米沢市埋蔵文化財調査報告書第32集　米沢市教育委員会
菊地政信(1998):「第４節　大樽遺跡」　『遺跡詳細分布調査報告第11集』　米沢市埋蔵文化財調査報告書第61集　米沢市教育委員会
斎藤守(1994):『蕨台遺跡発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財センター調査報告書第５集　(財)山形県埋蔵文化財センター
佐々木洋治(1971):『高畠町史』　別巻　考古資料編　高畠町
佐藤鎮雄・佐藤禎宏(1972):『神矢田遺跡－第３次・４次・５次発掘調査報告と考察－』　山形県遊佐町教育委員会
佐藤鎮雄(1975):「第４章　従来の考古学的調査　第３節　№31(竹井境Ｂ)遺跡調査の概要」『米沢市八幡原工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書』　第１集　米沢市教育委員会・地域振興整備公団
佐藤庄一・黒坂雅人(1996):『富沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財センター調査報告書第30集　(財)山形県埋蔵文化財センター
佐藤正俊・渋谷孝雄(1981):『うぐいす沢遺跡第１次発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第41集　山形県教育委員会
渋谷孝雄・黒坂雅人・阿子島功（1989):『月ノ木Ｂ遺跡発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第135集　山形県教育委員会
渋谷孝雄(1997):「Ⅱ部　小山崎遺跡発掘調査報告書(１)」　『分布調査報告書(24)』　山形県埋蔵文化財調査報告書第198集　山形県教育委員会
月山隆弘(1995):「第３節　生蓮寺遺跡」　『遺跡詳細分布調査報告書第７集』　米沢市埋蔵文化財調査報告書第42集　米沢市教育委員会
手塚孝・菊地政信(1982):「第５章　八幡原№４(柿の木)遺跡」　『米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書』　第Ⅰ集　米沢市埋蔵文化財調査報告書第６集　米沢市教育委員会
手塚孝他(1985):『法将寺遺跡』　米沢市埋蔵文化財調査報告書第12集　米沢市教育委員会
手塚孝(1995):「舘山城」　『山形県中世城館遺跡調査報告書』　第１集(置賜地域)　山形県教育委員会
手塚孝・菊地政信(1998):「第一章　原始社会より古代社会へ　第二節　縄文時代の米沢」　『米沢市史』　第１巻　原始・古代・中世編　米沢市
長橋至・渋谷孝雄(1998):「大樽遺跡」　『分布調査報告書(25)』　山形県埋蔵文化財調査報告書第199集　山形県教育委員会
名和達朗・阿部明彦(1981):『水上遺跡第２次発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第40集　山形県教育委員会
名和達朗・渋谷孝雄(1983):『中村Ａ遺跡発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第73集　山形県教育委員会
秦昭繁(1997):「第一章　原始社会より古代社会へ　第一節　米沢のあけぼの」　『米沢市史』　第１巻　原始・古代・中世編　米沢市
馬目順一(1968):「第３編Ｂ：網取貝塚第４地点発見の堀之内Ⅰ式期土器の考察」　『小名浜』　福島県いわき市教育委員会磐城出張所
馬目順一(1982):「南東北」　『シンポジウム堀之内式土器資料集』　市川考古博物館
山内清男(1967):『日本先史土器図譜』(復刻)　先史考古学会
山内清男(1979):『日本先史土器の縄紋』　先史考古学会
米沢市教育委員会(1997):『大樽遺跡発掘調査現地説明会資料』
米沢市教育委員会(1998):『米沢市遺跡地名表』

報告書抄録

ふりがな	おおたるいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	大樽遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第67集
編著者名	黒坂雅人　國井修
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999－3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号　ＴＥＬ023-672-5301
発行年月日	1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおたるいせき 大樽遺跡	やまがたけん 山形県 よねざわし 米沢市 たてやま 舘山 よんちょうめ 四丁目	6202	1207	37度 54分 37秒	140度 4分 23秒	19980907 ～ 19981113	1,500	一般県道綱木西米沢停車場線道路改良工事

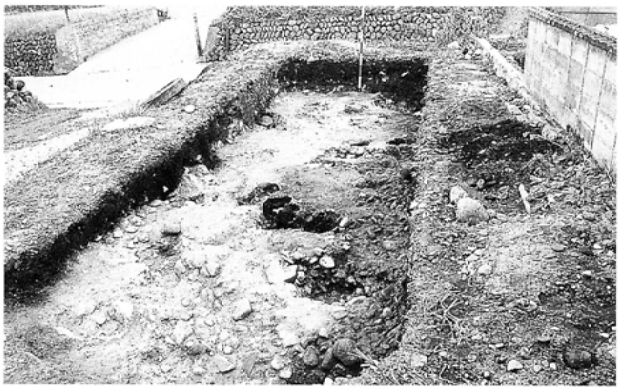
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	縄文時代 (早期～ 後期)	土坑	縄文土器(早期中葉～後期中葉) 石箆・石匙・尖頭器・スクレイパー 磨製石斧・石皿・磨石・凹石・石棒	遺物は2次堆積の可能性が高い。県内では比較的資料の少ない後期初頭から前葉の遺物が出土している。
集落跡・ 城館跡	中世	堀　1 墓壙　2		堀跡全体の構造は不明。 (総出土箱数：93)

図　　版

調査区全景（南から）

Ｈ区精査風景（東から）

Ａ区完掘状況（南から）



Ｂ１区完掘状況（西から）

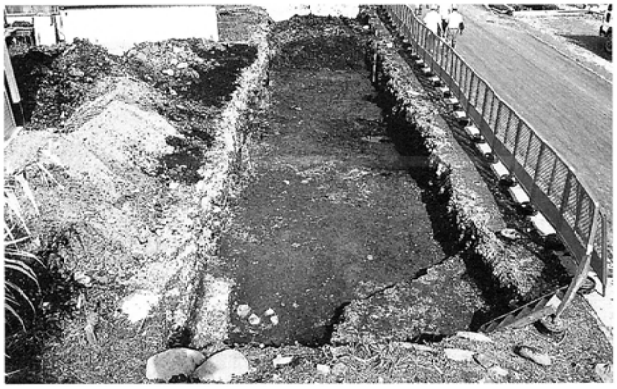
Ｂ２区完掘状況（南から）

Ｂ３区完掘状況（北から）

Ｃ１区完掘状況（北から）

Ｃ２区完掘状況（北から）

図版２

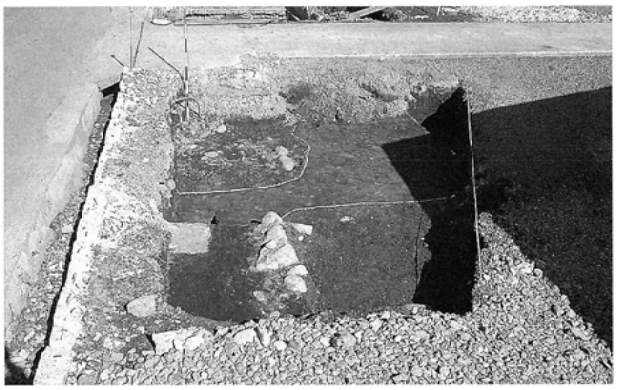


Ｄ１区完掘状況（南から）

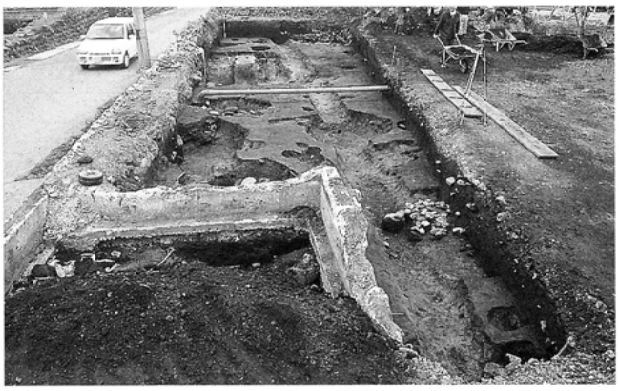
Ｄ２区完掘状況（西から）

Ｇ１区完掘状況（南から）

Ｇ２区完掘状況（南から）



Ｇ３区完掘状況（南から）

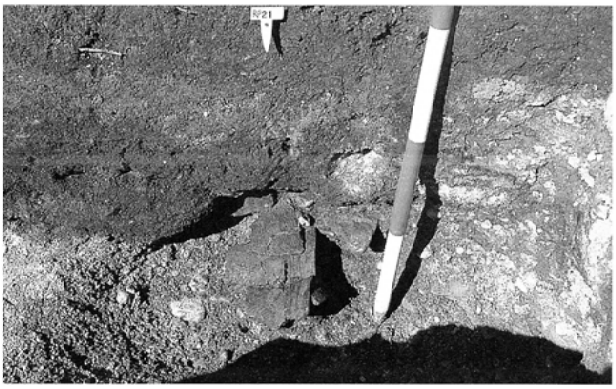


Ｈ区完掘状況（南から）

Ｉ区精査状況（北東から）

Ｊ区完掘状況（北から）

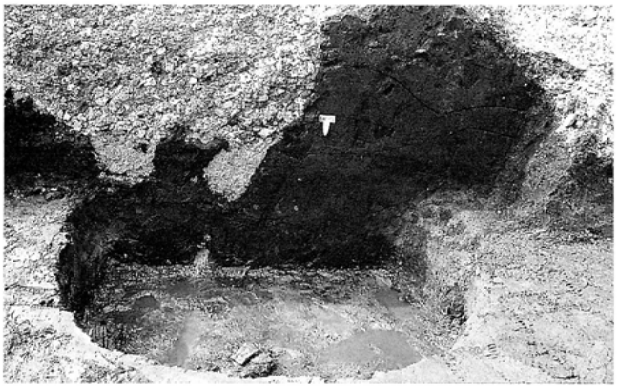
ＳＫ418完掘状況（南東から）



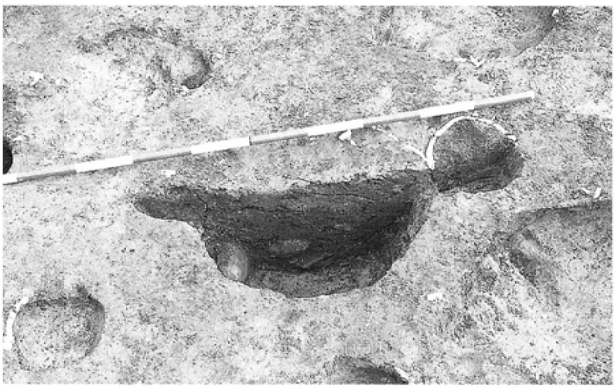
ＲＰ21（39）出土状況（東から）

ＳＫ299完掘状況（東から）

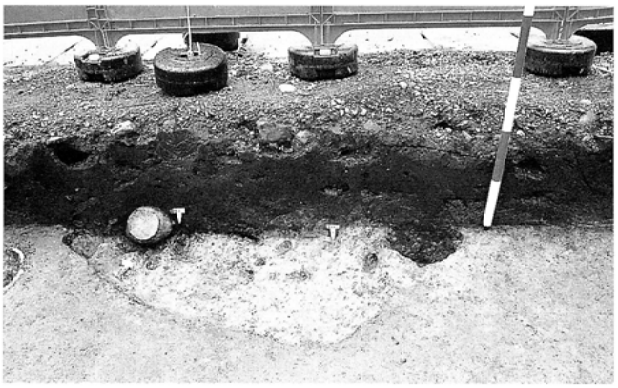
ＳＫ439半截状況（西から）



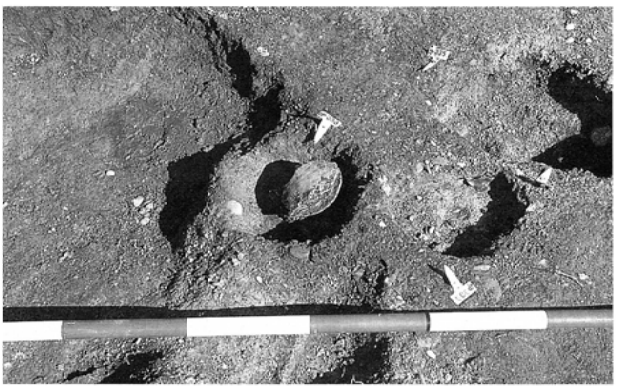
ＳＫ276完掘状況（東から）



ＳＫ437半截状況（西から）



ＳＫ144完掘状況（西から）



ＳＰ338遺物（111）出土状況（南から）

図版 4

ＳＫ123完掘状況（南から）

ＳＫ123土層断面（東から）

ＲＰ10(42)出土状況（東から）

ＲＰ14(51)出土状況（東から）

ＳＫ166半截状況（南西から）

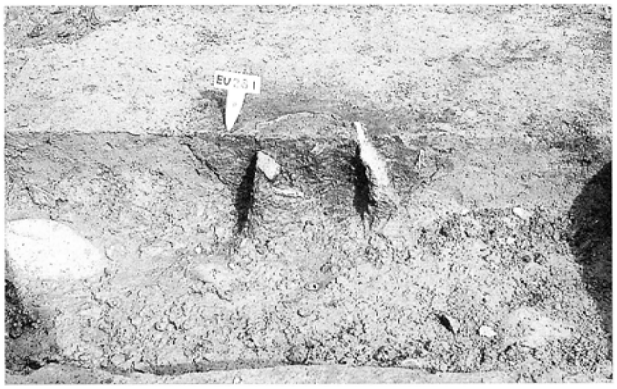
ＳＫ161半截状況（北から）

ＳＫ320完掘状況（北東から）

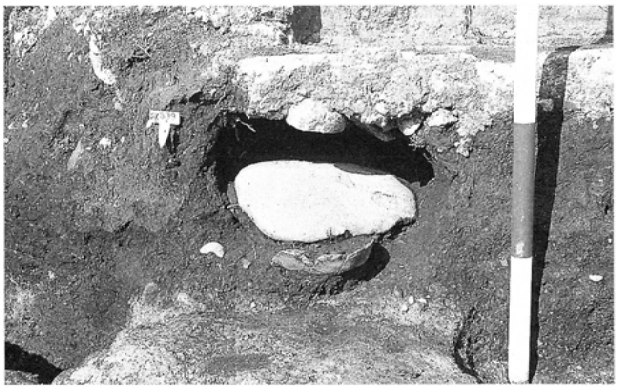
ＳＫ181精査状況（北から）

ＳＸ303精査状況（西から）

ＳＫ149・ＳＸ151完掘状況（北東から）



ＥＵ261半截状況（南から）



ＲＰ22(116)出土状況（東から）

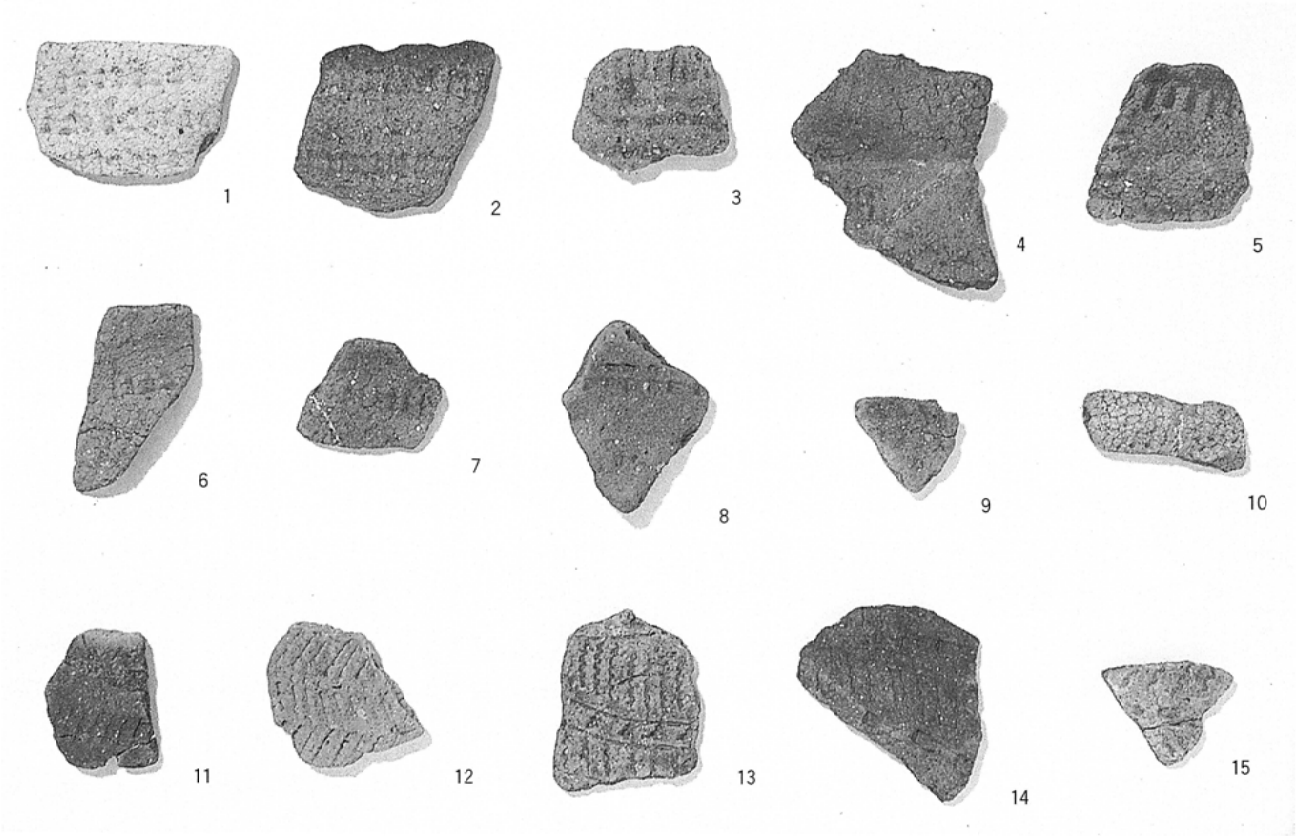
ＳＤ417完掘状況（南から）

ＳＥ15精査状況（北西から）

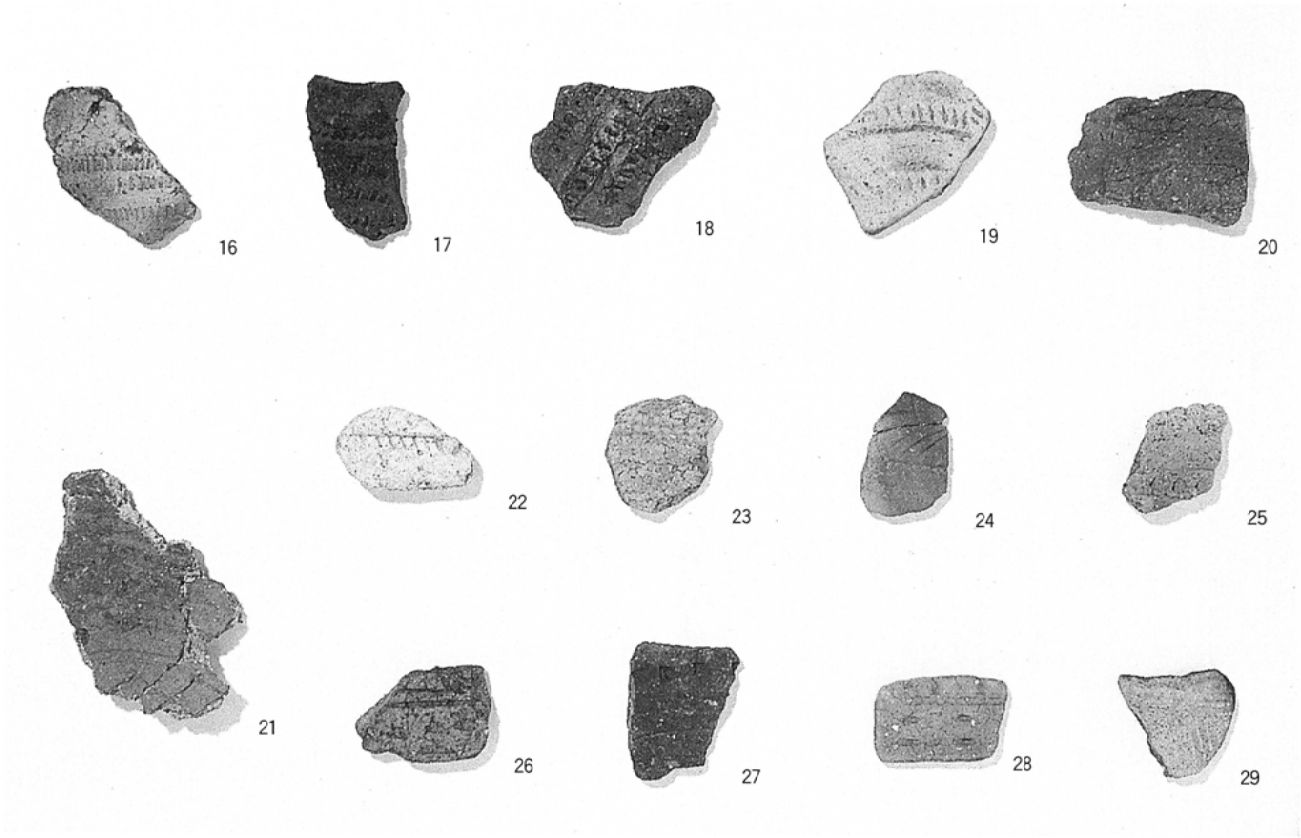
ＳＫ51半截状況（東から）

ＳＫ16半截状況（南東から）

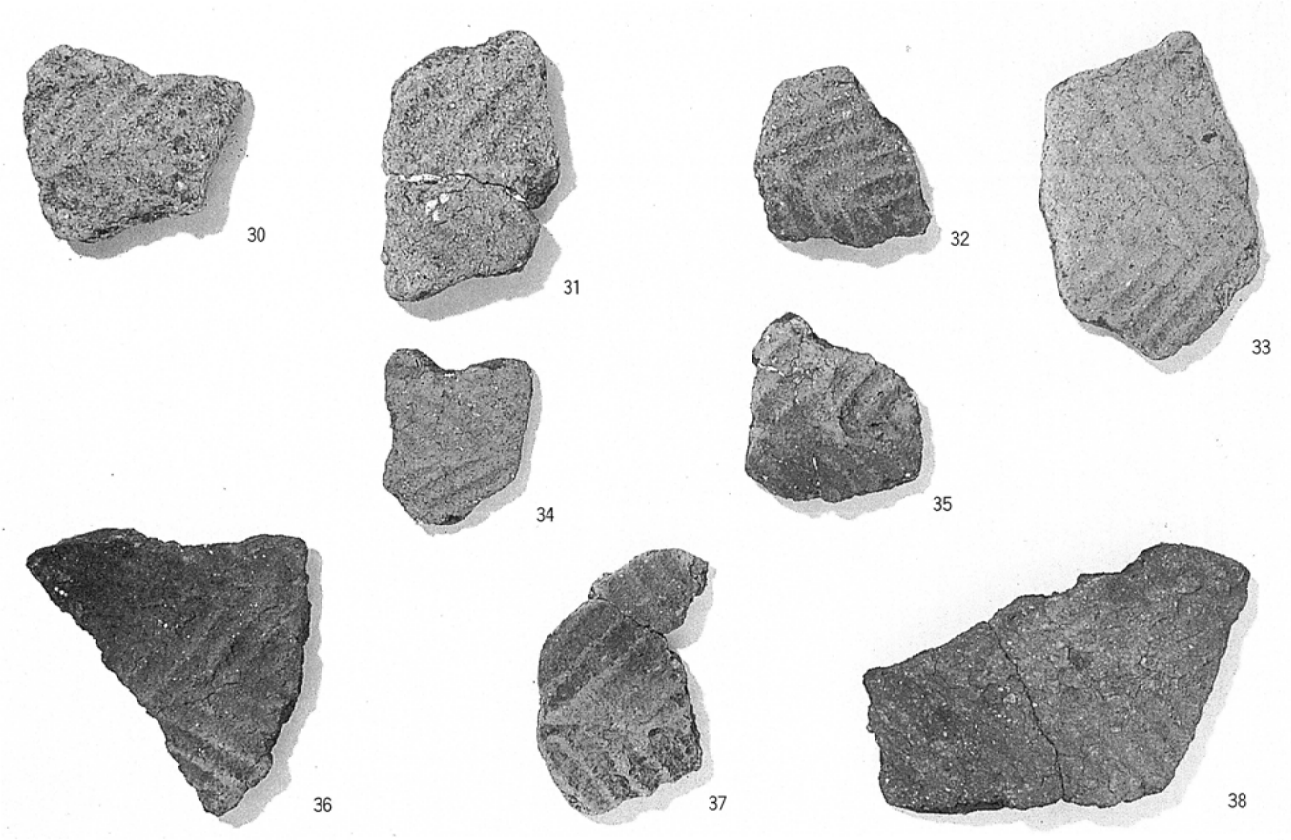
図版 6



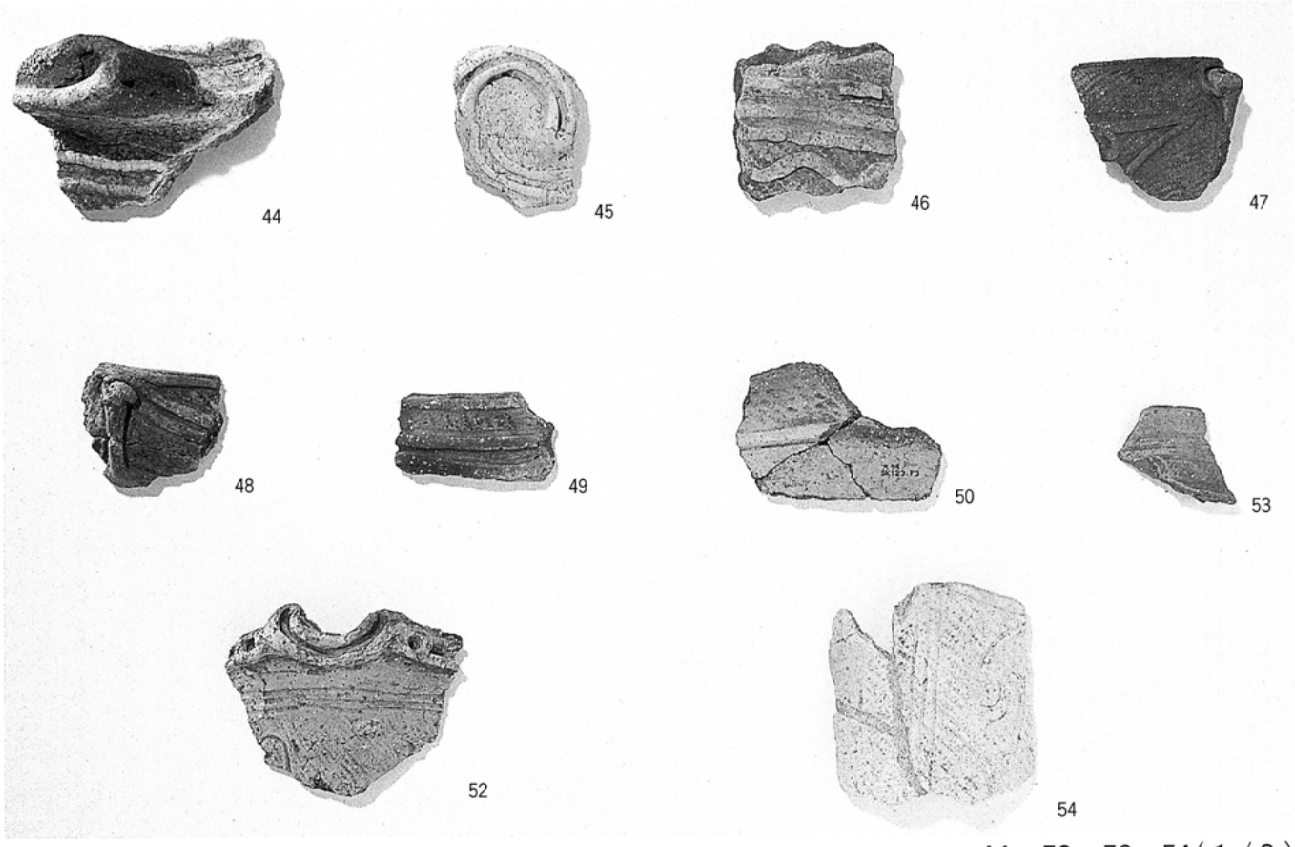
1～15(1/2)



16～29(1/2)



30～38（１／２）



44～50・52～54（１／３）

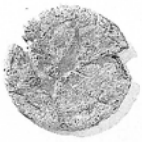
図版 8

39（約 1 / 3 ）

40

41

40・41（ 1 / 3 ）



56（ 1 / 3 ）

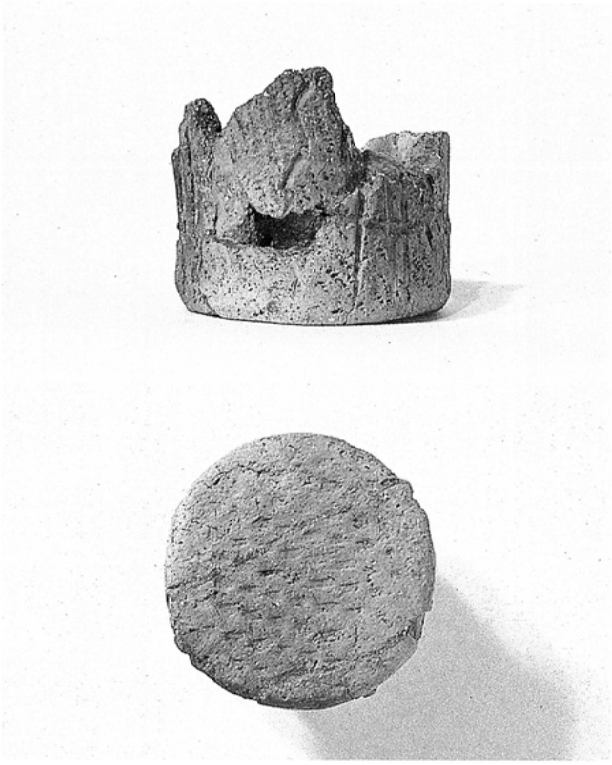
42(約1/3)

42(約1/3)

図版9

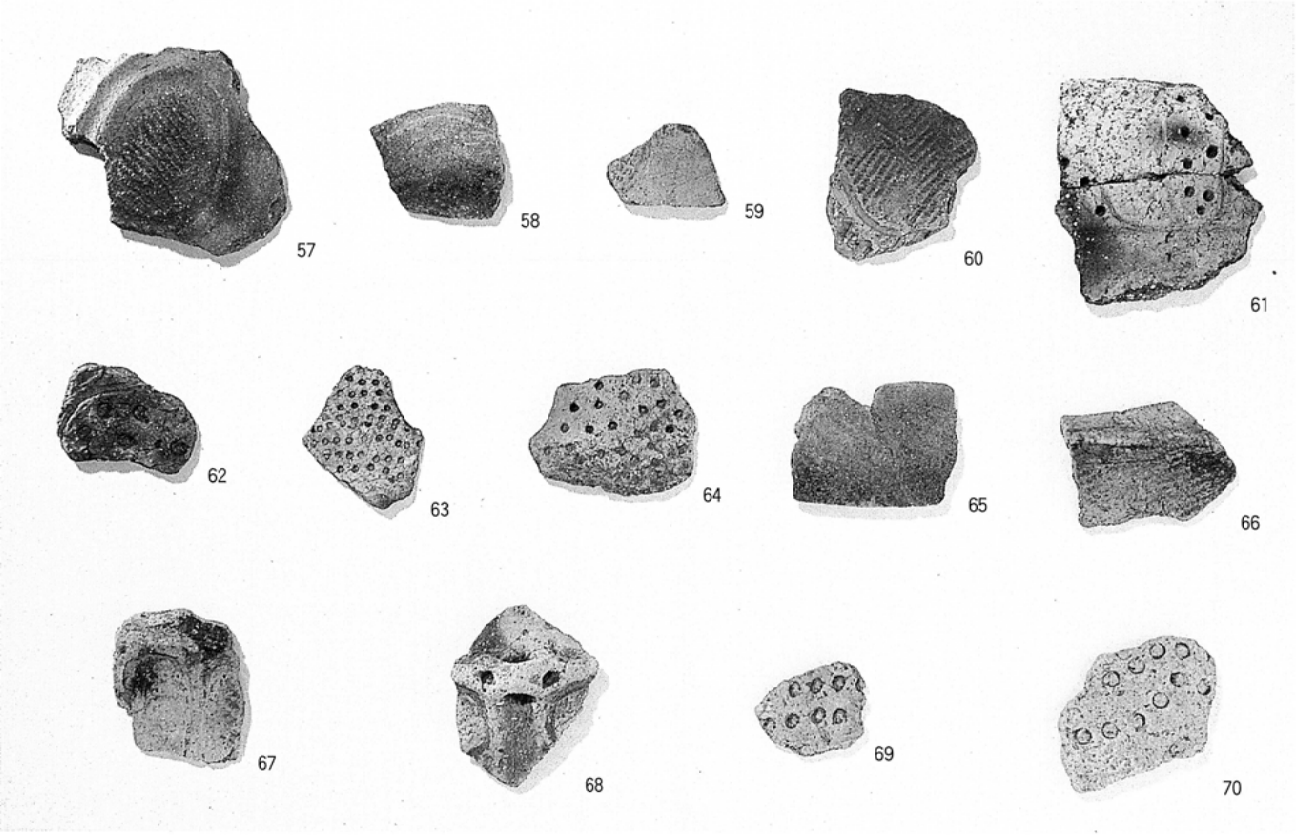
図版10

43（1／4）

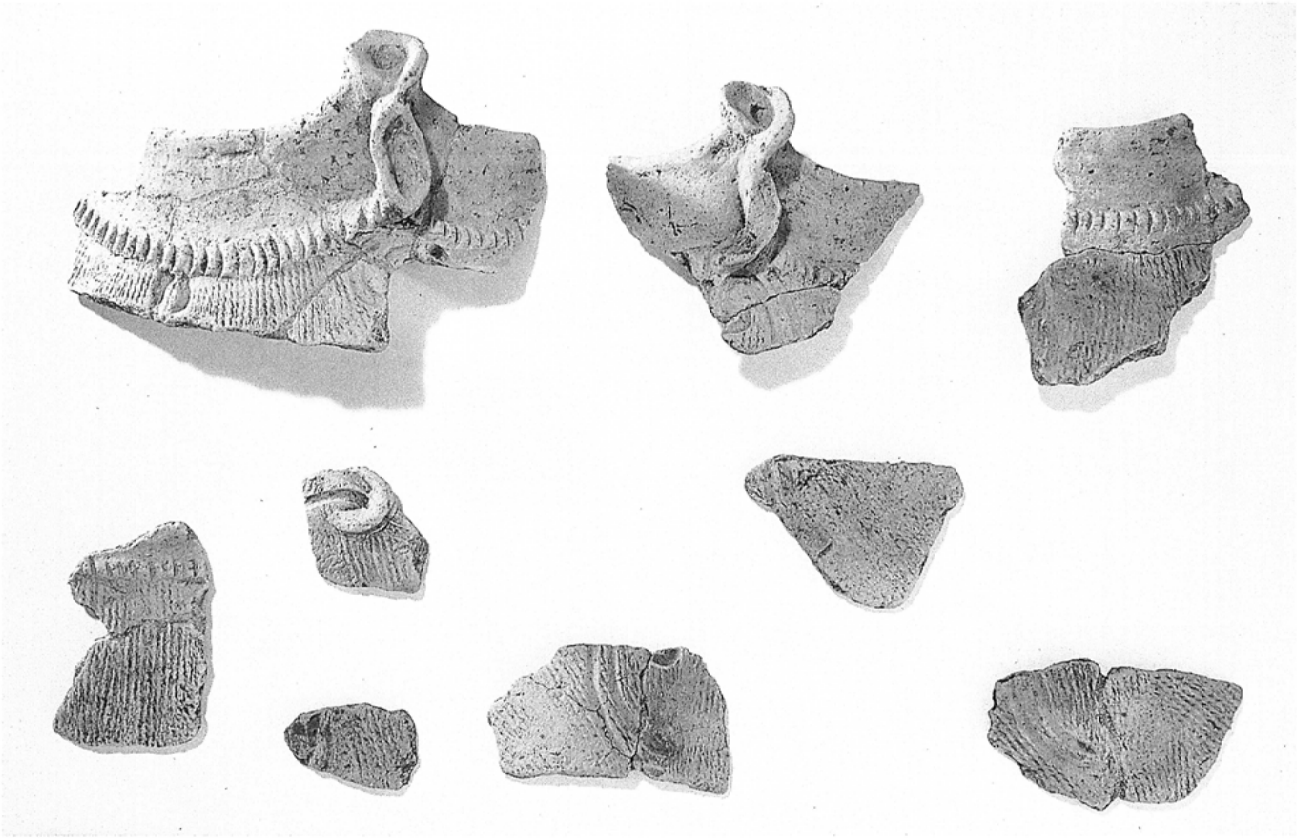


51（約2／3）

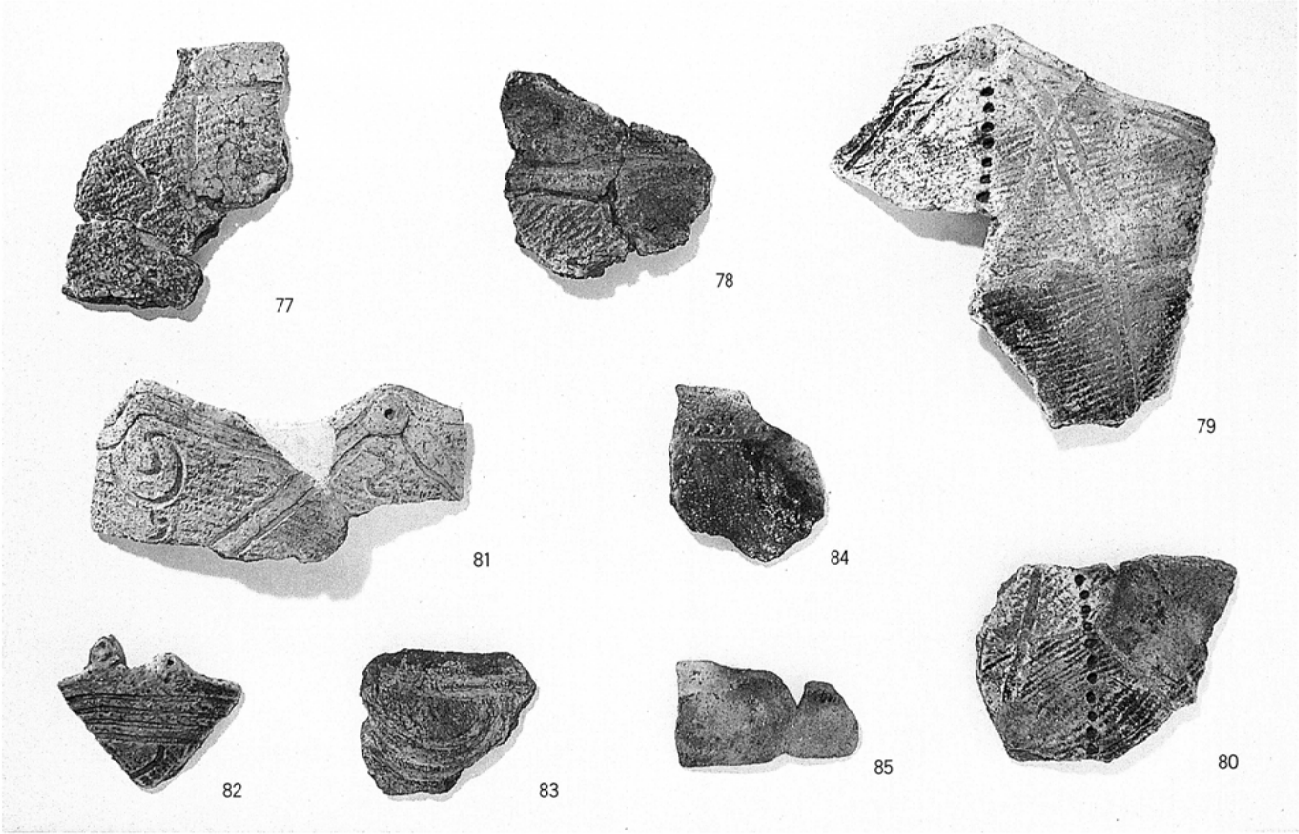
55（1／2）



57～70（1／3）

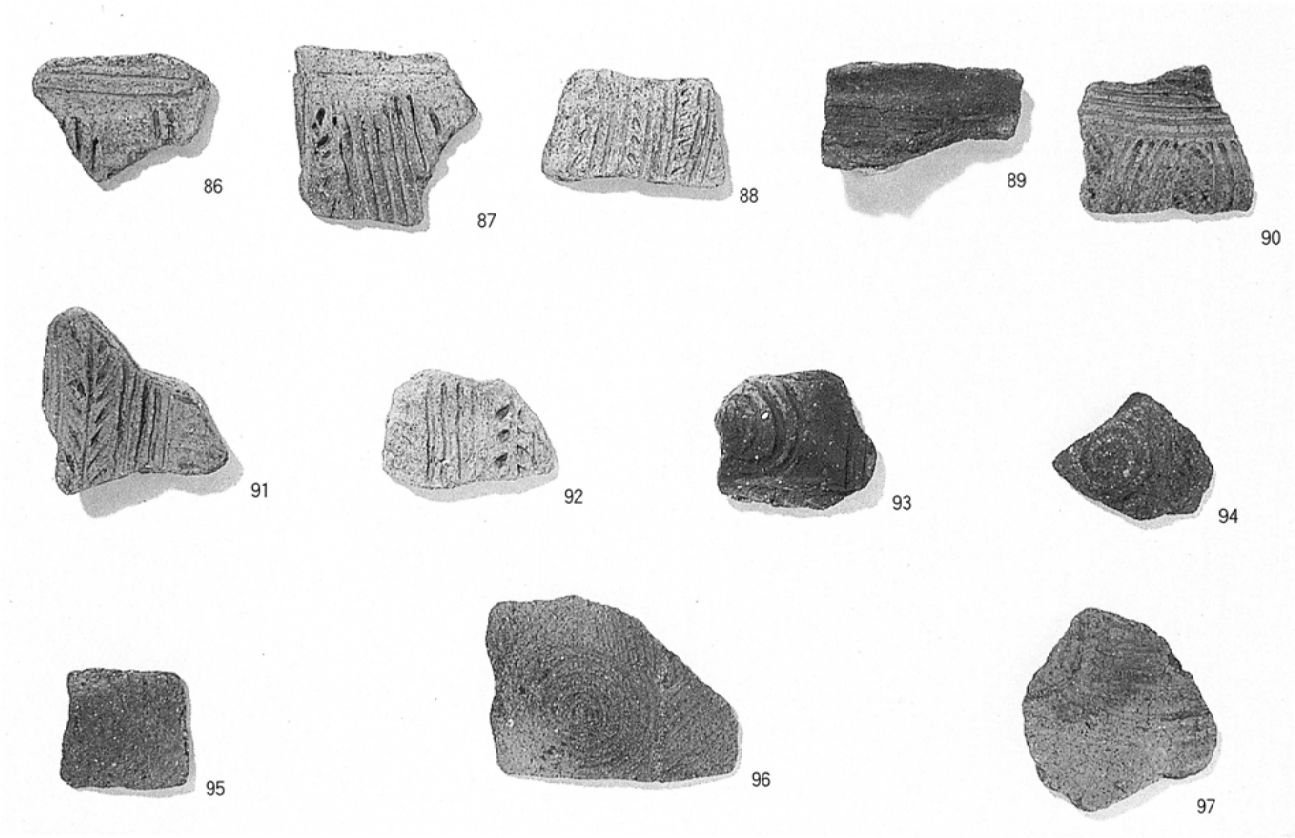


74（1／3）

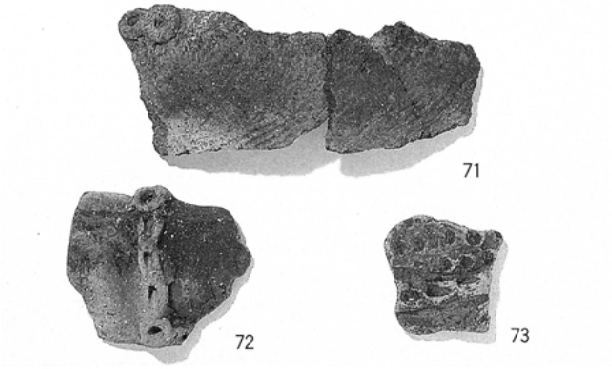


77～85（1／3）

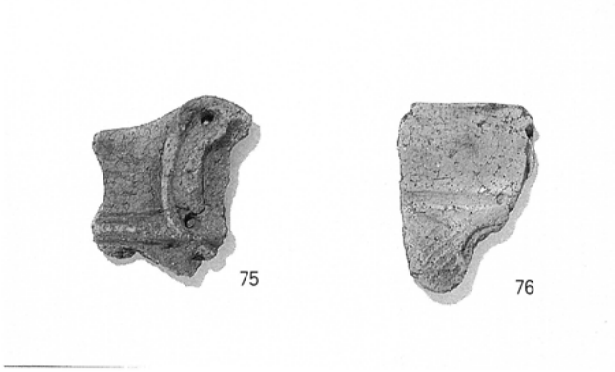
図版12



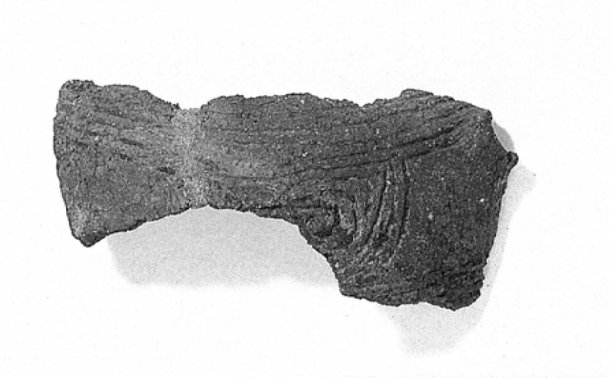
86～97（1／2）



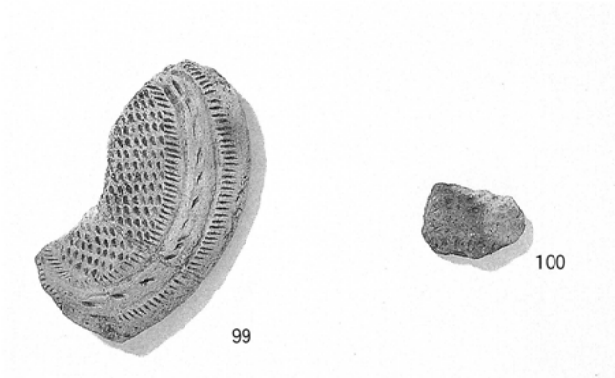
71～73（1／3）



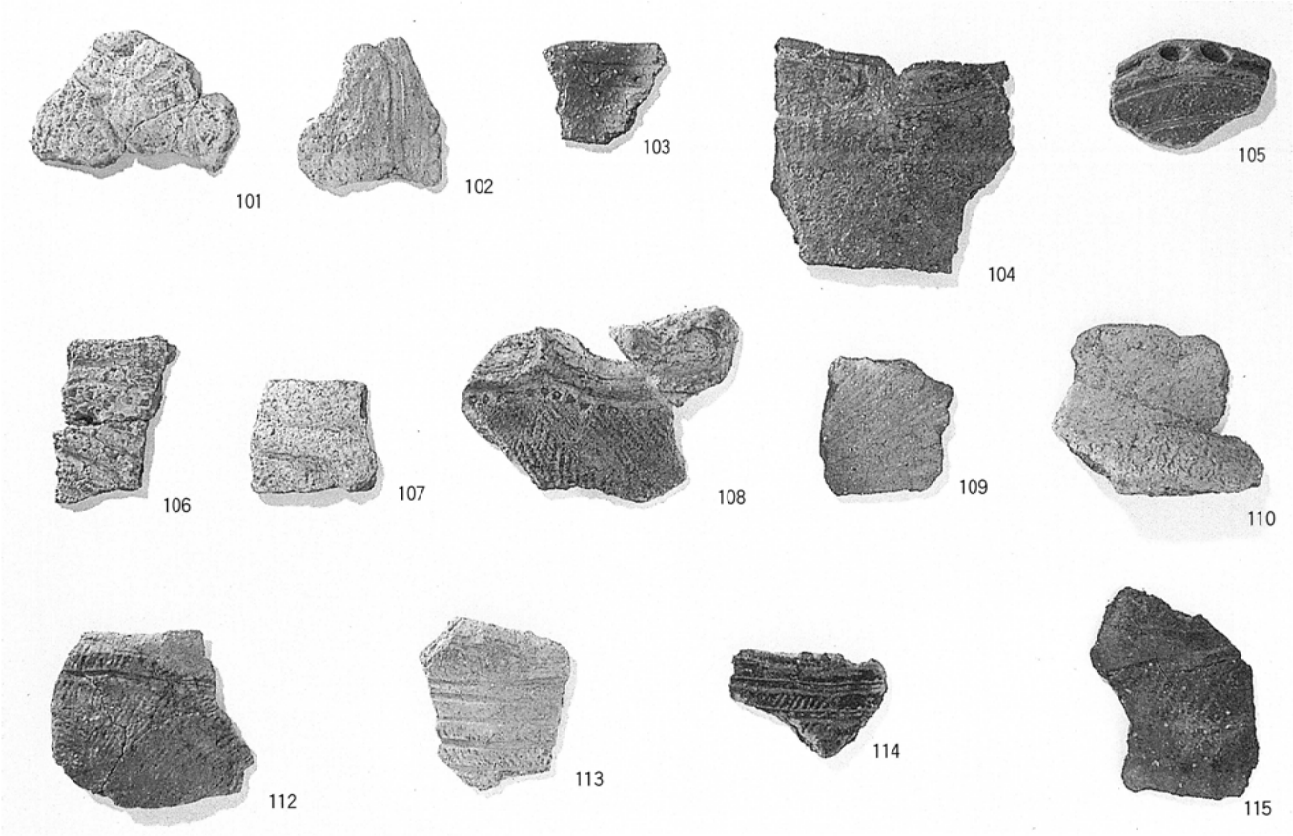
75・76（1／3）



98（1／3）



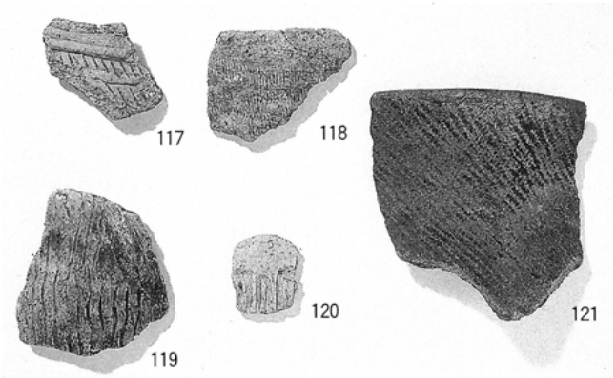
99・100（1／3）



101～110・112～115（1／3）

111（約1／4）

116（約1／4）

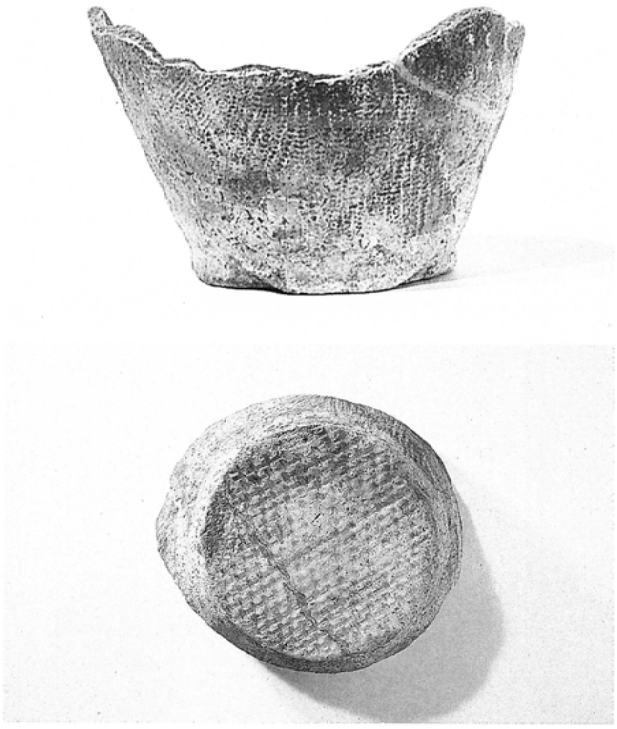


117～121（1／4）

122（約1／4）

図版14

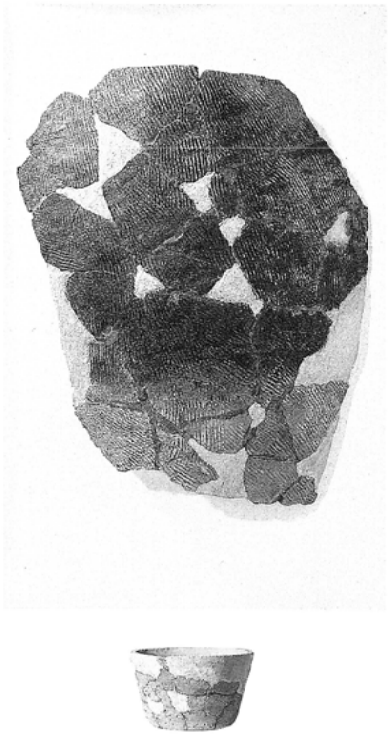
123(約1/3)



124(約1/4)

127(約1/4)

129(1/4)　　125(約1/4)

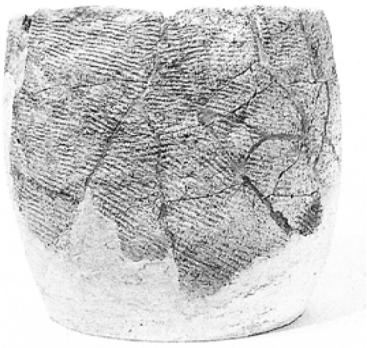


131(約1/6)

126(約１／６)

128(約１／６)

130(約１／６)



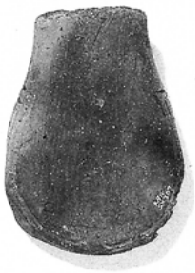
132(約１／６)

133(約１／４)

134(１／３)

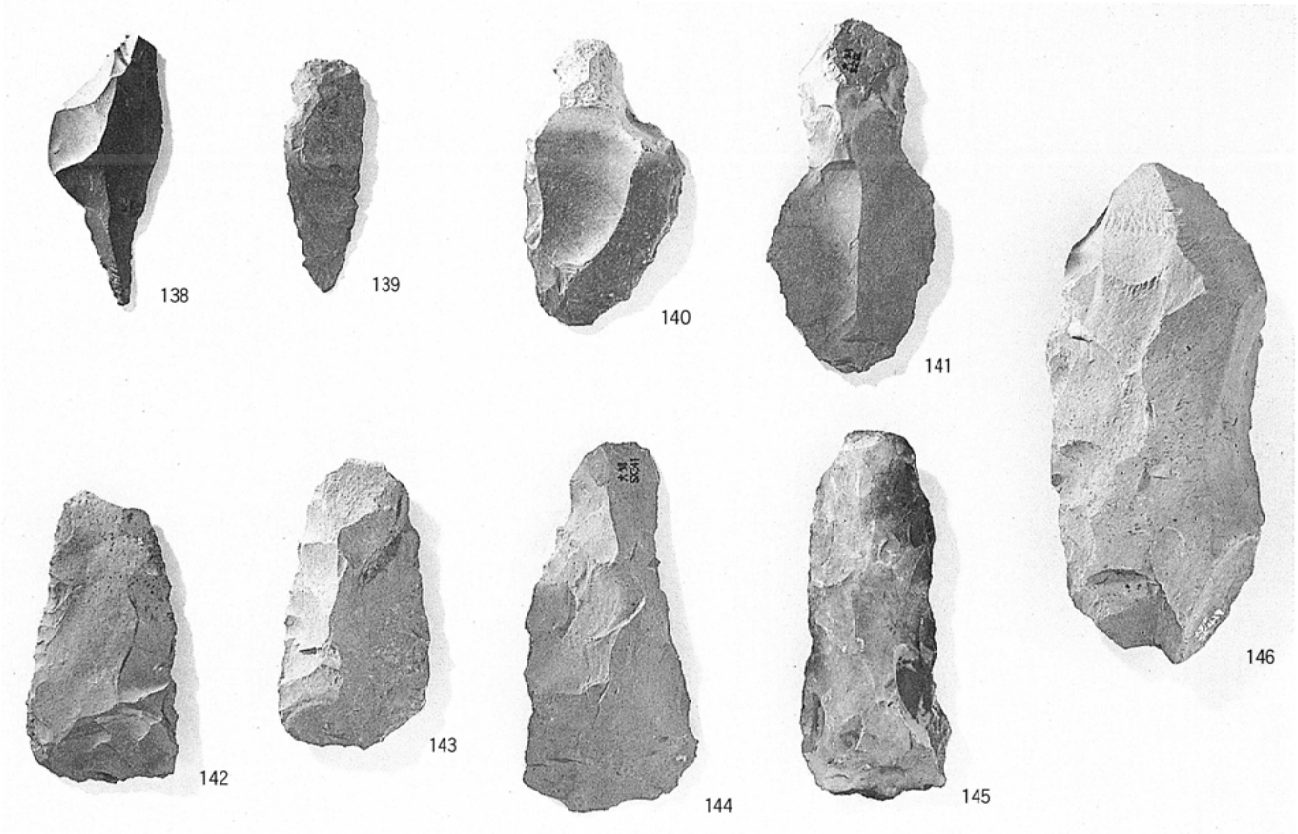
136(１／２)

135(１／３)

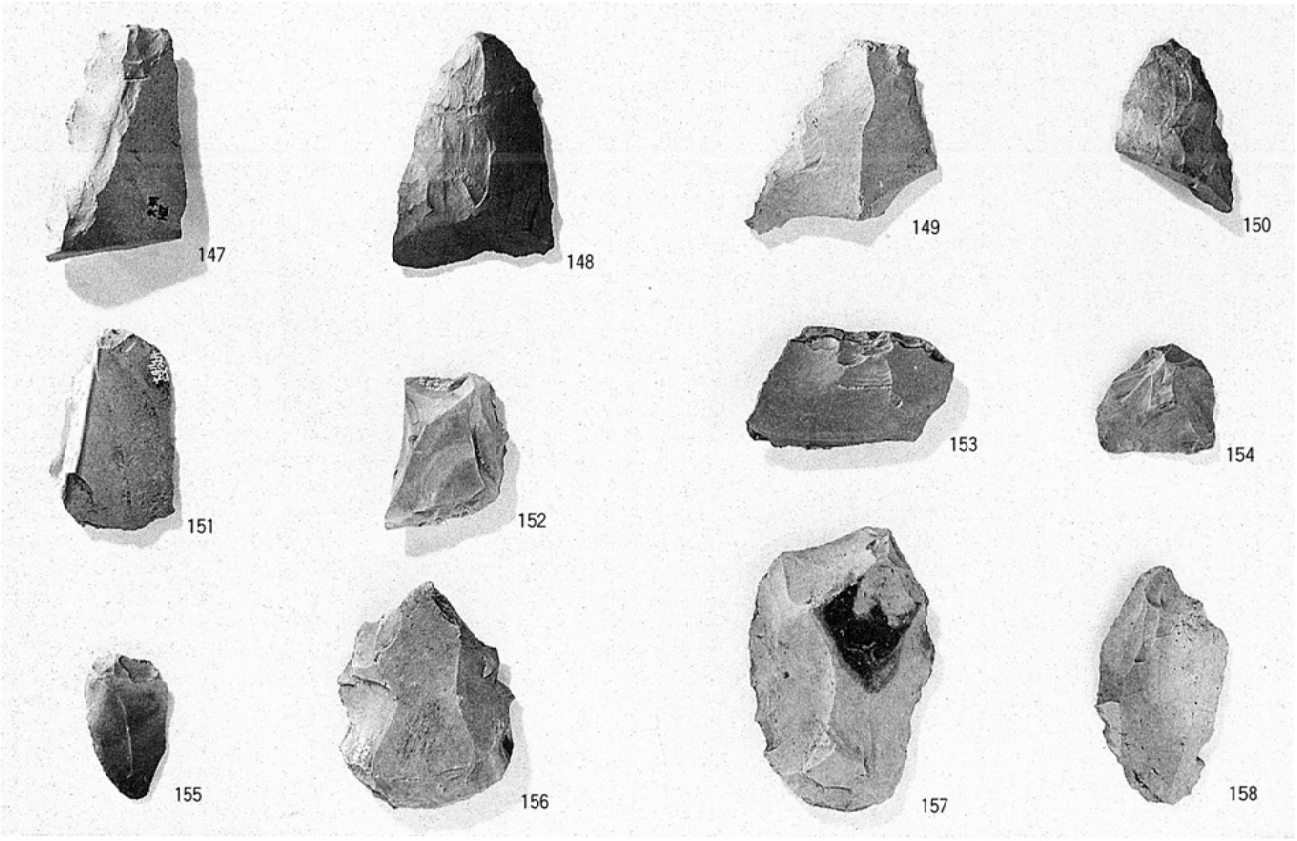


ウラ(１／３)

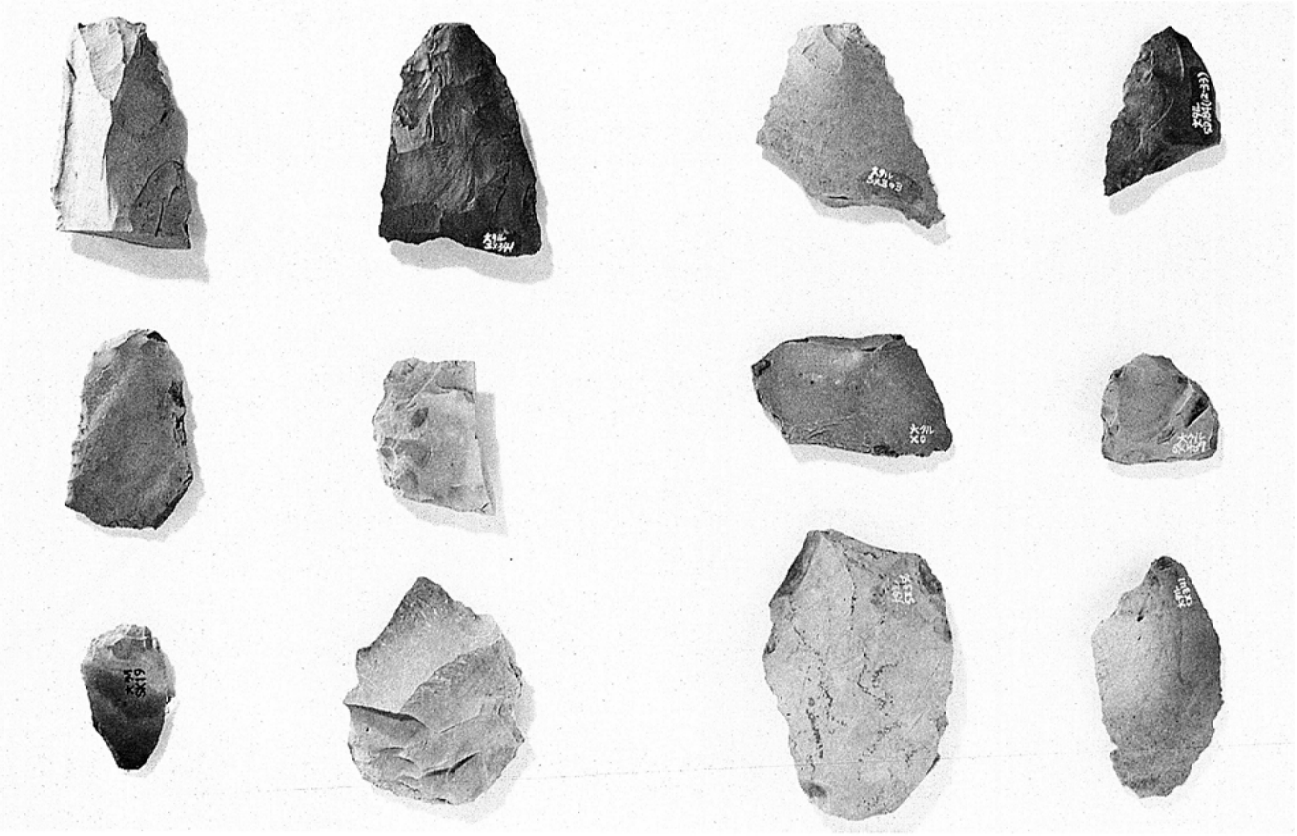
図版16



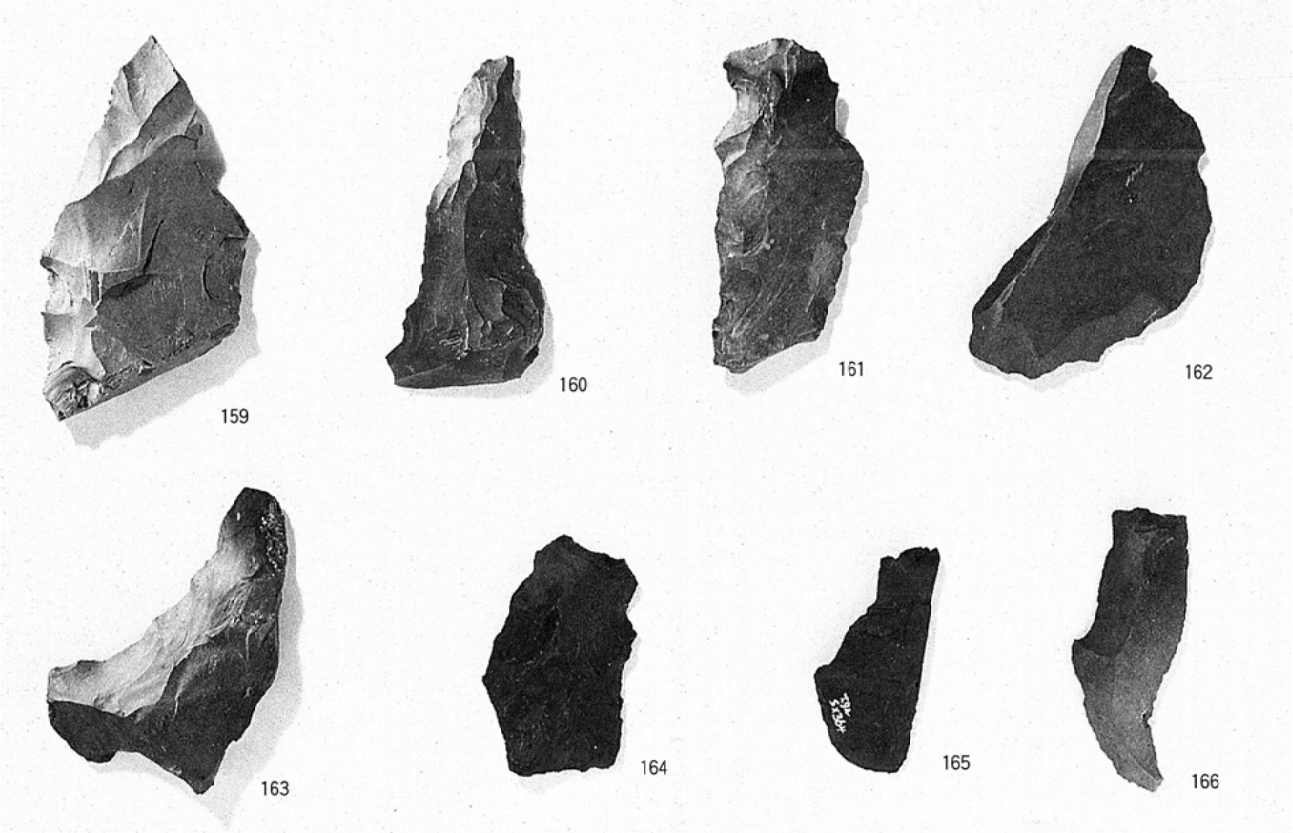
138～146（1／2）



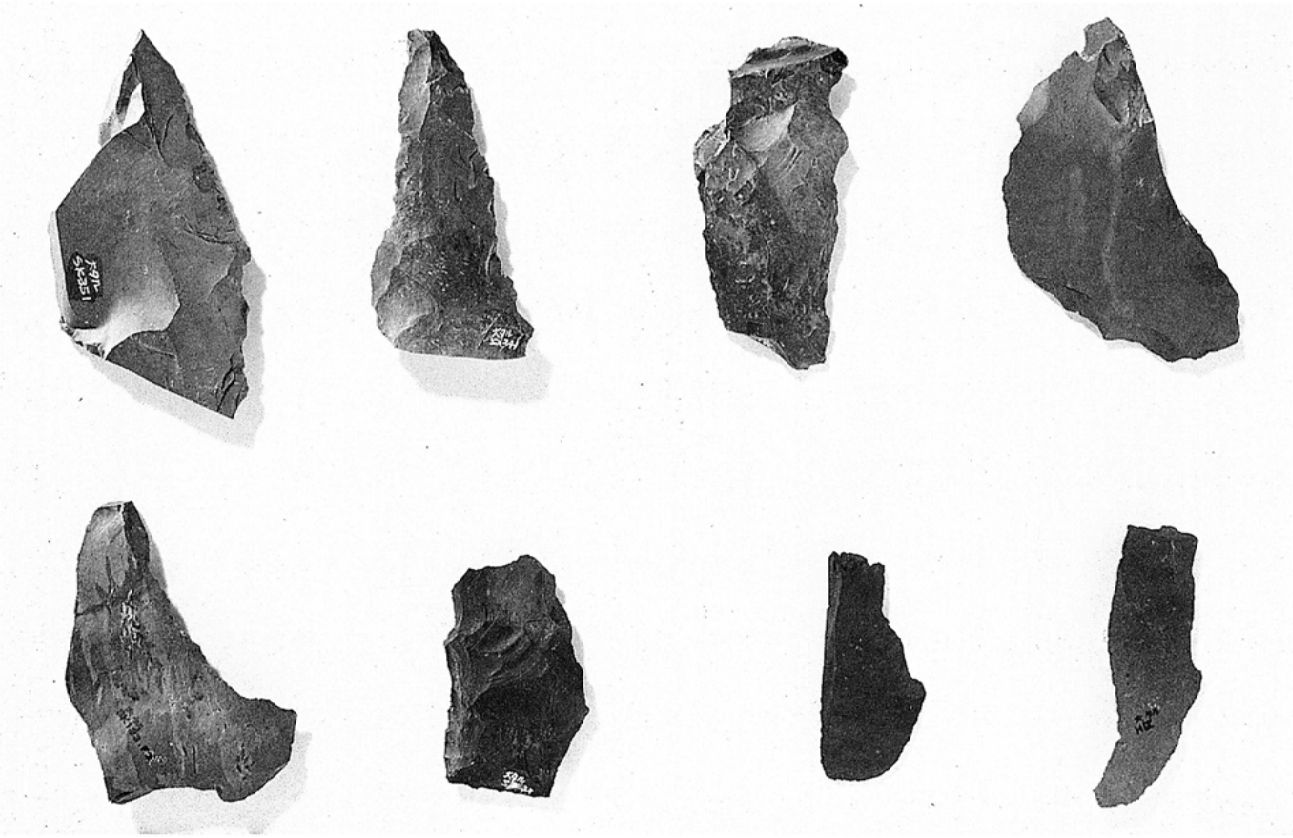
147～158（1／2）



図版18



159～166（1／2）

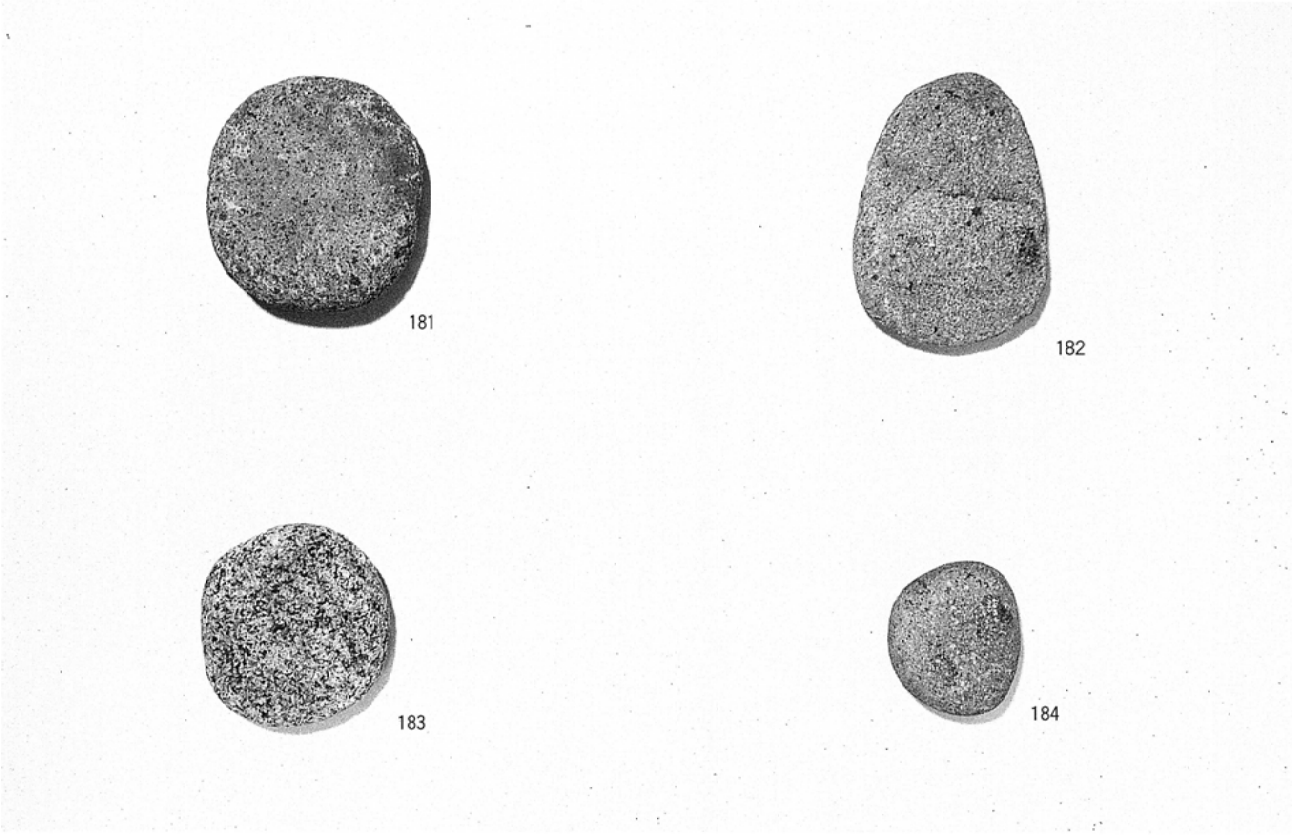


167（原寸）

168～171（1／2）

175（1／4）

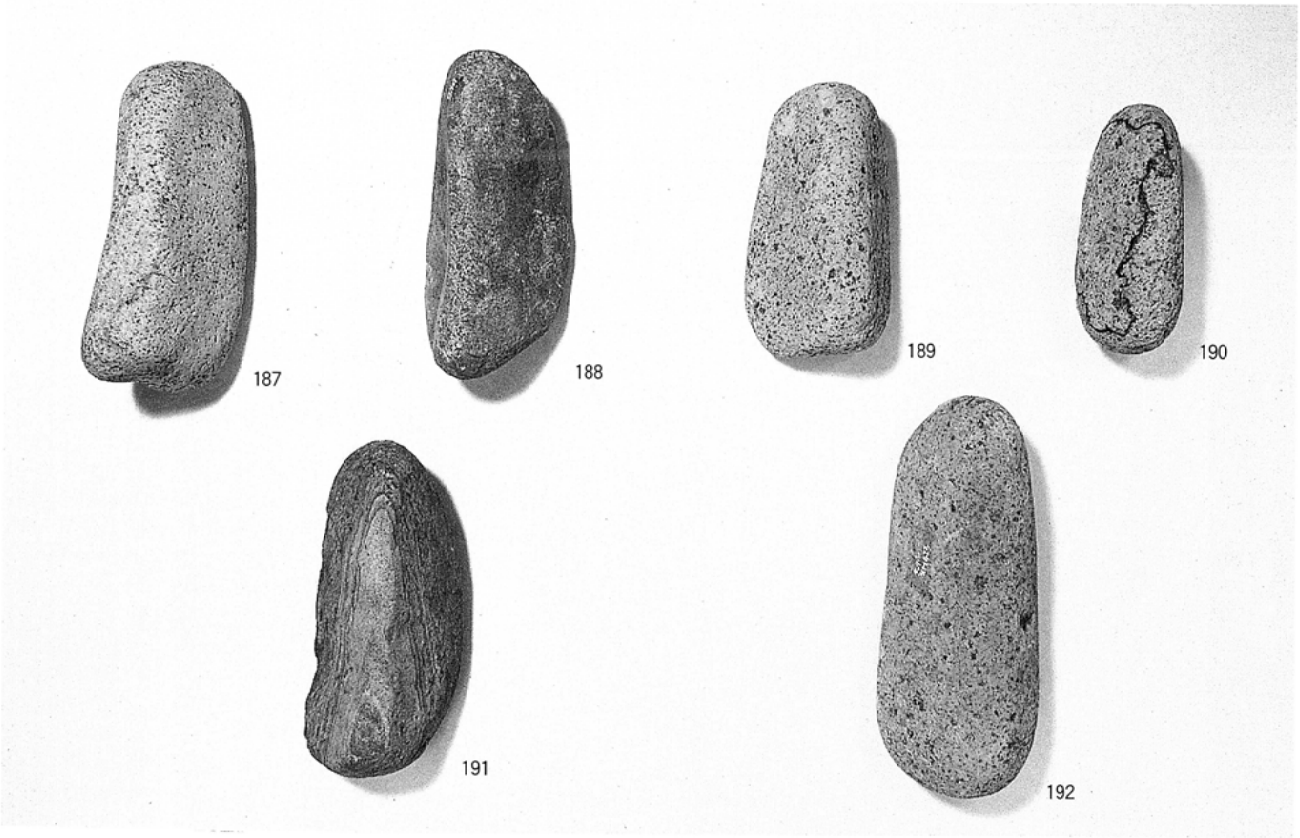
172～174・176～180（1／4）



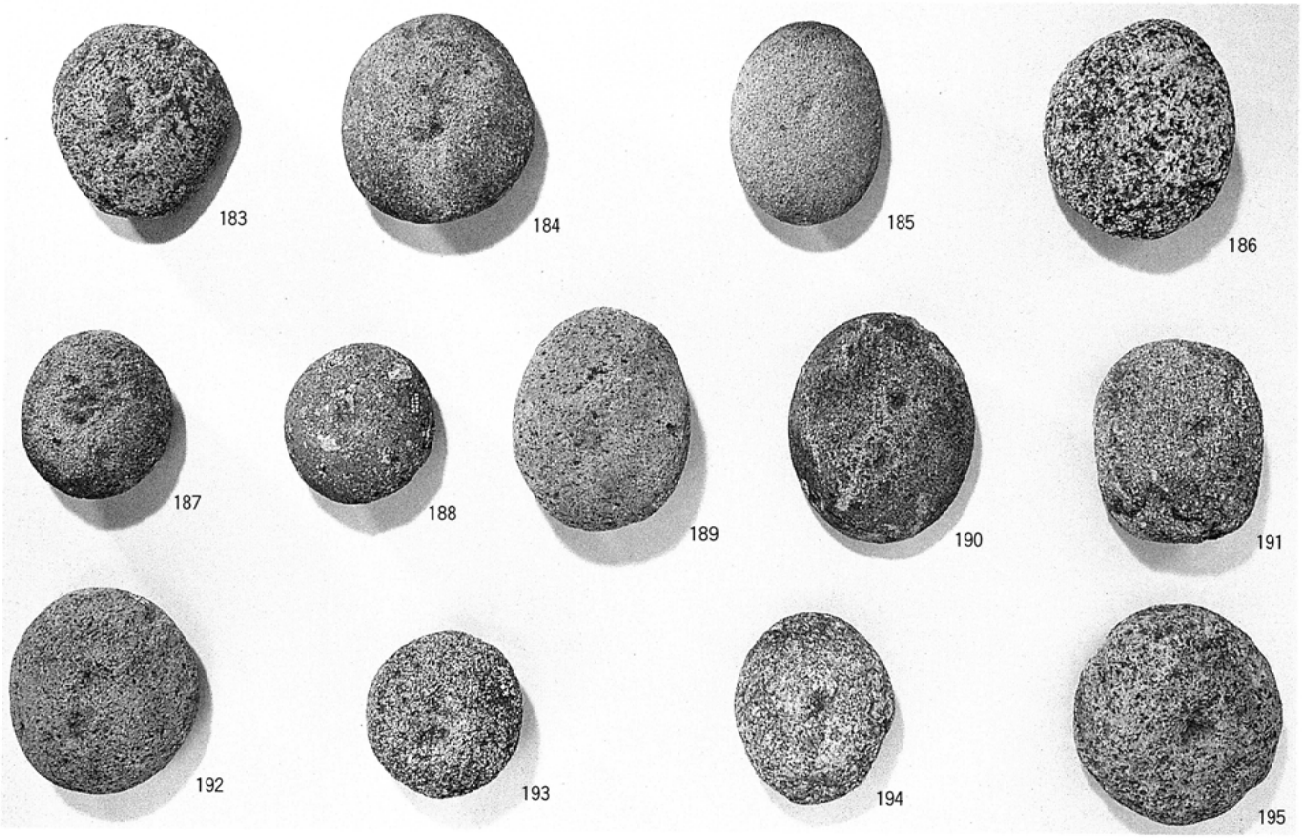
181～184（1／4）

185（1／4）

186（1／4）



187～192（1／4）



193～205（1／4）

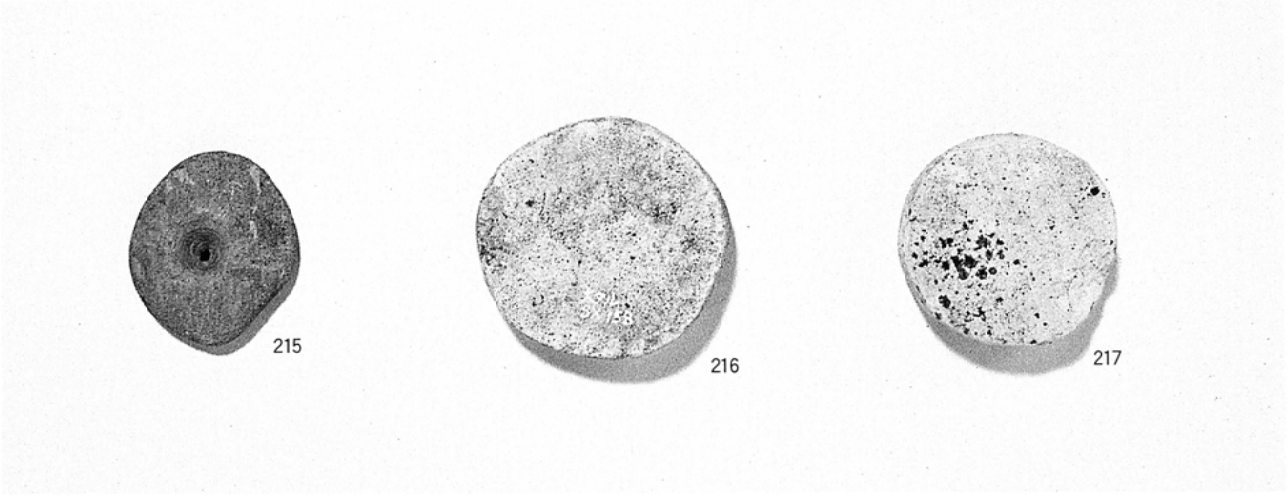
206～208（1／3）

209・210（1／3）

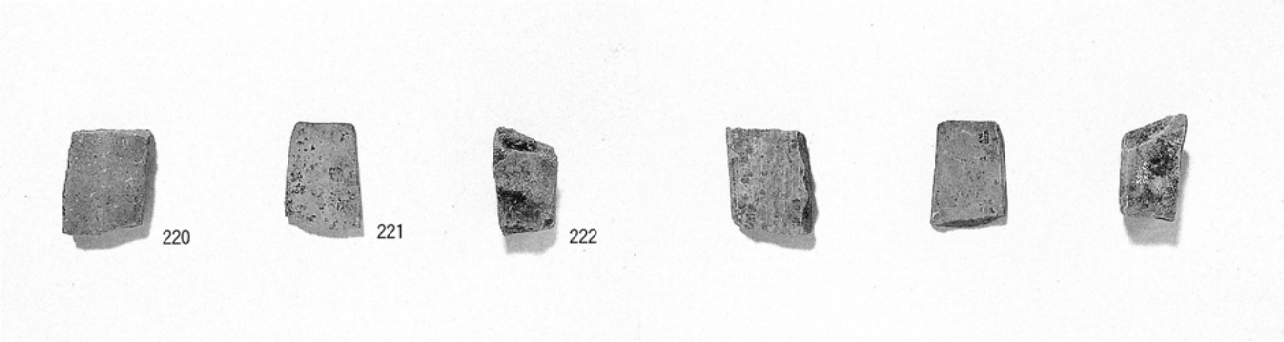
211・212(1/3)

213・214(1/3)

図版26

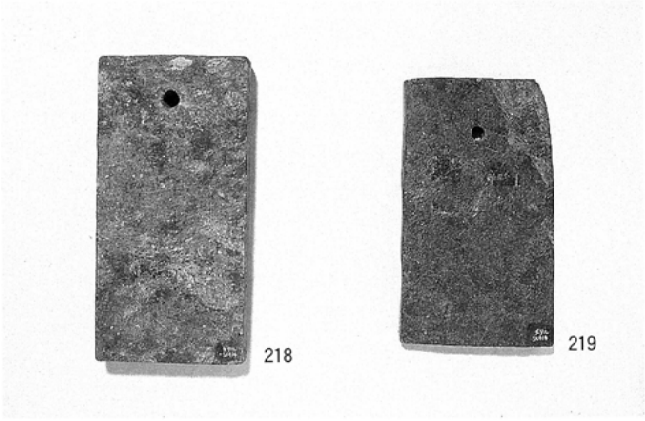


215～217（1／2）



220～222（1／4）

137（約1／2）



218・219（1／4）

223（1／6）

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第67集

大樽（おおたる）遺跡発掘調査報告書

1999年３月31日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999－3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号
電話　023－672－5301
印刷　山形印刷株式会社